

**IBM WebSphere Partner Gateway Enterprise
and Advanced Editions**



管理者ガイド

バージョン 6.0

**IBM WebSphere Partner Gateway Enterprise
and Advanced Editions**



管理者ガイド

バージョン 6.0

お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、155 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM[™] WebSphere[™] Partner Gateway Advanced Edition (5724-L68) および Enterprise Edition (5724-L69) バージョン 6、リリース 0、モディフィケーション 0、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。
<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは
<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： IBM WebSphere Partner Gateway Enterprise and
Advanced Editions
Administrator Guide
Version 6.0

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2005.6

この文書では、平成明朝体[™]W3、平成明朝体[™]W7、平成明朝体[™]W9、平成角ゴシック体[™]W3、平成角ゴシック体[™]W5、および平成角ゴシック体[™]W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体[™]W3、平成明朝体[™]W7、平成明朝体[™]W9、平成角ゴシック体[™]W3、
平成角ゴシック体[™]W5、平成角ゴシック体[™]W7

© Copyright International Business Machines Corporation 2004, 2005. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2005

目次

本書について	vii
このリリースの新機能	vii
リリース 6.0 の新機能	vii
リリース 4.2.2 の新機能	vii
対象読者	viii
関連資料	viii
ヘルプの参照先	ix
お客様サポート	ix
ソフトウェア・サポート	ix
Passport Advantage ^(R)	ix
製品資料	ix
表記上の規則	ix
このリリースの新機能	xi
リリース 6.0 の新機能	xi
リリース 4.2.2 の新機能	xi
第 1 章 基本の Community Console タスク	1
Community Console の始動	1
Receiver 側の開始	1
Document Manager の始動	1
ヘルプ・システムの始動	1
Community Console へのログイン	2
Community Console 内の移動	3
Community Console のアイコン	3
Community Console からのログオフ	5
Community Console の停止	5
Receiver および Document Manager の停止	5
ヘルプ・システムの停止	5
第 2 章 ハブ管理者のタスク	7
パスワード・ポリシーの管理	7
データベース、データベース・ユーザー、およびパスワードの変更	8
イベント・コードの管理	8
イベント・コードの表示および編集	9
イベント・コード名の保管	9
アラート可能イベントの指定	10
ターゲットの管理	10
ターゲットの詳細の表示および編集	10
ターゲットの使用可能化または使用不可化	10
ターゲットの削除	11
対話の管理	11
XML 形式の管理	11
XML 形式の値の編集	11
XML 形式の削除	12
アクションの使用可能化または使用不可化	12
ハンドラーの管理	13
ハンドラーのインポート	13
ハンドラーの削除	13
マップの管理	13

検証マップの更新	13
変換マップの管理	14
EDI FA マップの管理	14
EDI の管理	15
エンベロープのプロファイル	15
エンベローパー	16
接続プロファイル	16
制御番号の初期設定	17
現在の制御番号	18
アラート・メール・アドレスの更新	19
システム・アクティビティーの表示	19
イベント送達の管理	20
API 呼び出しの管理	20
DocMgr 情報の管理	21
第 3 章 アカунト管理タスク	23
参加者プロファイルの管理	23
参加者プロファイルの表示および編集	23
参加者の検索	23
参加者の削除	24
ゲートウェイ構成の管理	24
ゲートウェイ構成のために必要な情報	24
ゲートウェイの表示および編集	26
デフォルト・ゲートウェイの表示および編集	28
ゲートウェイ構成の削除	28
トランスポートのアップロード	28
トランスポートの削除	29
トランスポートおよびゲートウェイの再試行	29
順方向プロキシ・サポート	30
証明書の管理	30
デジタル証明書の表示および編集	31
デジタル証明書の使用不可化	32
B2B 属性値の変更	33
参加者接続の管理	33
接続コンポーネント	33
接続の重複	34
接続の検索	35
接続構成の変更	37
除外リストの管理	38
除外リストへの参加者の追加	39
除外リストの編集	39
第 4 章 ゲートウェイ・キューの管理	41
ゲートウェイ・キューの表示	41
キュー内の文書の表示	42
配信キューからの文書の削除	43
ゲートウェイの詳細の表示	43
ゲートウェイ状況の変更	43
第 5 章 文書フローの分析	45
文書分析	45
システム内の文書状態の表示	46
システム内の文書の表示	46
プロセスおよびイベント詳細の表示	47
文書ボリューム・レポート	47
文書ボリューム・レポートの作成	48

文書ボリューム・レポートのエクспорт	49
レポートの印刷	49
参加者接続のテスト	49
Web サーバー結果コード	50
第 6 章 イベントおよび文書の表示	53
イベント・ビューアー	53
イベント・タイプ	54
イベントの検索	54
イベント詳細の表示	55
AS1/AS2 ビューアー	56
メッセージの検索	56
メッセージの詳細の表示	57
RosettaNet ビューアー	58
RosettaNet プロセスの検索	58
RosettaNet プロセスの詳細の表示	59
ロー文書の表示	60
文書ビューアー	60
文書の検索	61
文書の詳細、イベント、およびロー文書の表示	62
EDI 文書の表示	63
データ検証エラーの表示	65
処理中の文書の停止	66
処理に失敗した文書、または正常に処理された文書の再送	66
ゲートウェイ・キュー	68
第 7 章 実動トラフィックのシミュレーション	69
テストの準備	70
テスト・シナリオの設定	71
サンプル・シナリオ	71
要求と応答のアップロードおよび表示	74
文書フローの開始と表示	74
オープン文書の検索	75
オープン文書への応答	75
オープン文書の削除	75
第 8 章 アーカイブ	77
アーカイブ・データ	77
ファイル・システム・ログとデータベース・ログのアーカイブおよびパージ	80
アプリケーション・ログ・ファイルのパージ	80
否認防止ディレクトリーのパージ	80
データベース・テーブルのパージ	80
データの復元	84
旧ファイルの除去	85
状態エンジン・テーブルからのデータの除去	85
サマリー・テーブルからのデータの除去	85
ロギング・テーブルからのデータの除去	86
第 9 章 トラブルシューティング	87
暗号化された大容量 AS 文書の処理時間の長期化防止	87
メモリー不足エラーの回避	87
複数言語のデータの照合	88
DB2 エージェント用の十分な仮想メモリーの確保	89
現行構成のエクспортによるサポート	89
サーバー開始時の DB2 SQLCODE -444 エラーの修正	90
ポリモフィック文書のルーティング時の DB2 SQLCODE -444 エラーの修正	91

ログ・ファイルの JMS 例外メッセージの修正	91
システム性能の不良と処理していないイベントの修正	91
コンソール・ヘルプが選択時に表示されない	92
Receiver タイムアウト設定の増加	93
データベース照会効率の最適化	93
処理トランザクション・ロールバック・エラー	93
破損後のルーターの再始動	94
マシン・シャットダウン後のシステムの始動	94
DB2 の始動	94
WebSphere MQ の始動	95
Community Console、Receiver、および Document Manager の開始	95
データ検証エラーが生成された 0A1	96
付録 A. パフォーマンスの考慮	97
イベントのフィルター	97
要約データの生成	97
付録 B. 障害発生時イベント	99
付録 C. コンポーネント固有のプロパティ・ファイル	133
特記事項	155
プログラミング・インターフェース情報	157
商標	157
索引	159

本書について

本書では、企業間 (B2B) 取引コミュニティの要件にあわせて WebSphere Partner Gateway を保守する方法について説明します。本書は、「ハブ構成ガイド」に記載されている必要なハブ構成タスクがすでに実行されていることを前提としています。

このリリースの新機能

リリース 6.0 の新機能

このセクションでは、WebSphere Partner Gateway バージョン 6.0 の変更点を中心に説明します。

- プロダクト名は、WebSphere Business Integration Connect から WebSphere Partner Gateway に変更されています。
- EDI のサポートが追加されました。15 ページの『EDI の管理』を参照してください。
- EDI メッセージとコードが追加されました。99 ページの『付録 B. 障害発生時イベント』を参照してください。
- 失敗した文書と正常に送信された文書の再送信のサポートが追加されました。66 ページの『処理に失敗した文書、または正常に処理された文書の再送』を参照してください。
- 付録 C は見出しが変更され、新規コンポーネントに固有のプロパティ・ファイルを反映するように更新されました。133 ページの『付録 C. コンポーネント固有のプロパティ・ファイル』を参照してください。
- ファイル名とディレクトリーは、新しい命名規則を反映するように更新されました。
- FTP スクリプト・トランスポートのサポートが追加されました。
- 複数証明書のサポートが追加されました。30 ページの『証明書の管理』を参照してください。
- IBM Tivoli License Manager (ITLM) のサポートが追加されました。

リリース 4.2.2 の新機能

このセクションでは、本書の前回のリリース (4.2.1) 以降の変更内容を説明します。

- 本書は、WebSphere Partner Gateway 環境の管理と保守に必要な情報のみが含まれるように変更されました。この環境を構成するための情報は、すべて新規の「ハブ構成ガイド」に移行されました。
- 製品パフォーマンスの機能拡張情報が追加されました。97 ページの『付録 A. パフォーマンスの考慮』を参照してください。
- データのアーカイブ情報が追加されました。77 ページの『第 8 章 アーカイブ』を参照してください。

- 参加者の削除オプションが文書化されました。24 ページの『参加者の削除』を参照してください。
- トランスポートの削除オプションが文書化されました。29 ページの『トランスポートの削除』を参照してください。
- スクリーン・リーダーをサポートするために Community Console に追加された新規のアクセシビリティ機能が文書化されました。

対象読者

WebSphere Partner Gateway を保守する管理者。本書では、次の 2 種類の管理者を想定しています。

- ハブ管理者 (コミュニティー・オペレーターとも呼ばれます)
- アカウント管理者

ハブ管理者は、コミュニティーのスーパー管理ユーザーです。ハブ管理者は、参加者の構成と接続を含む、ハブ・コミュニティー全体の構成および管理を担当します。アカウント管理者は、ハブ管理者機能のサブセットにアクセスすることができ、コミュニティー・マネージャーまたはコミュニティー参加者の主要な管理ユーザーになっています。

注: 一部の機能には、コミュニティー参加者およびコミュニティー・マネージャーもアクセスできます。ハブ管理者およびアカウント管理者が使用できるのと同じ制御機能が共用されている場合でも、コミュニティー参加者およびコミュニティー・マネージャーが常にその制御機能を認識したり、アクセスできるわけではありません。

関連資料

この製品に付属する資料一式には、WebSphere Partner Gateway Enterprise Edition および Advanced Edition のインストール、構成、管理、使用に関する包括的な情報が含まれています。

この資料は、次のサイトからダウンロードするか、オンラインで直接閲覧できます。

<http://www.ibm.com/software/integration/wspartnergateway/library/infocenter>

注: 本書の発行後に公開されたテクニカル・サポートの技術情報や速報に、本書の対象製品に関する重要な情報が記載されている場合があります。これらは次の WebSphere Business Integration サポート Web サイトにあります。

<http://www.ibm.com/software/integration/websphere/support/>

関係するコンポーネント領域を選択して、「Technotes」および「Flashes」セクションを参照します。

ヘルプの参照先

オンライン・ヘルプは、各ウィンドウの右上にある「ヘルプ」を選択して参照できます。

注: ヘルプをクリックしてもヘルプ・ウィンドウが表示されない場合は、ポップアップ抑止機能を実行していないことを確認してください。

お客様サポート

ソフトウェア・サポート

www.ibm.com/software/support

Passport Advantage^(R)

www.ibm.com/software/howtobuy/passportadvantage/

製品資料

www.ibm.com/software/integration/wspartnergateway/library/infocenter

表記上の規則

本書では、以下のような書体の規則を使用しています。

規則	説明
モノスペース・フォント	このフォントのテキストは、ユーザーが入力するテキスト、引数またはコマンド・オプションの値、例およびコード・サンプル、またはシステムが画面に表示する情報 (メッセージ・テキストまたはプロンプト) を示します。
太字	太字のテキストは、グラフィカル・ユーザー・インターフェース・コントロール (例えば、オンライン・ボタン名、メニュー名、またはメニュー・オプション)、およびテーブルやテキストの列見出しを示します。
イタリック	イタリックのテキストは、強調、資料名、新規用語および文書内で定義されている用語、変数名、または文字として使用されるアルファベット文字を示します。
イタリック・モノスペース・フォント	イタリック・モノスペース・フォントのテキストは、モノスペース・フォントのテキスト内の変数名を示します。
下線付きのカラー・テキスト	下線付きのカラー・テキストは、相互参照を示します。テキストをクリックすると、参照先に移動します。
青色アウトラインのテキスト	(PDF ファイルのみ) テキストの周りの青のアウトラインは、相互参照を示します。アウトラインで囲まれたテキストをクリックすると、参照先に移動します。この規則は、この表内の PDF ファイルに関する「下線付きカラー・テキスト」規則に相当します。
{INSTALL DIR}	製品のインストール先ディレクトリーを表します。
UNIX:/Windows:	このいずれかの文字で始まるパラグラフは、オペレーティング・システムによる違いをリストした注記であることを示します。

『 』 (かぎ括弧)	(PDF ファイルのみ) かぎ括弧で本書の他のセクションへの相互参照を囲んでいます。
{ }	構文の記述行で、複数のオプションが中括弧で囲まれている場合、その中の 1 つのオプションのみを選択することが必要です。
[]	構文の記述行の場合、大括弧 [] で囲まれた部分は、オプション・パラメーターです。
...	構文の記述行の場合、省略符号 ... は直前のパラメーターが繰り返されることを示します。例えば、option[,...] は複数のオプションをコマンドで区切って指定できることを意味します。
< >	名前の変数エレメントは、不等号括弧で囲んでほかのエレメントと区別しています。例えば、 <code><server_name><connector_name>tmp.log</code> のように表記されています。
¥, /	円記号 (¥) は、Windows インストールでのディレクトリー・パスの中で、コンポーネントの分離文字として使用しています。UNIX をインストールしている場合は、スラッシュ (/) を円記号で置換します。

このリリースの新機能

リリース 6.0 の新機能

このセクションでは、WebSphere Partner Gateway バージョン 6.0 の変更点を中心に説明します。

- プロダクト名は、WebSphere Business Integration Connect から WebSphere Partner Gateway に変更されています。
- EDI のサポートが追加されました。15 ページの『EDI の管理』を参照してください。
- EDI メッセージとコードが追加されました。99 ページの『付録 B. 障害発生時イベント』を参照してください。
- 失敗した文書と正常に送信された文書の再送信のサポートが追加されました。66 ページの『処理に失敗した文書、または正常に処理された文書の再送』を参照してください。
- 付録 C は見出しが変更され、新規コンポーネントに固有のプロパティ・ファイルを反映するように更新されました。133 ページの『付録 C. コンポーネント固有のプロパティ・ファイル』を参照してください。
- ファイル名とディレクトリーは、新しい命名規則を反映するように更新されました。
- FTP スクリプト・トランスポートのサポートが追加されました。
- 複数証明書のサポートが追加されました。30 ページの『証明書の管理』を参照してください。
- IBM Tivoli License Manager (ITLM) のサポートが追加されました。

リリース 4.2.2 の新機能

このセクションでは、本書の前のリリース (4.2.1) 以降の変更内容を説明します。

- 本書は、WebSphere Partner Gateway 環境の管理と保守に必要な情報のみが含まれるように変更されました。この環境を構成するための情報は、すべて新規の「**ハブ構成ガイド**」に移行されました。
- 製品パフォーマンスの機能拡張情報が追加されました。97 ページの『付録 A. パフォーマンスの考慮』を参照してください。
- データのアーカイブ情報が追加されました。77 ページの『第 8 章 アーカイブ』を参照してください。
- 参加者の削除オプションが文書化されました。24 ページの『参加者の削除』を参照してください。
- トランスポートの削除オプションが文書化されました。29 ページの『トランスポートの削除』を参照してください。
- スクリーン・リーダーをサポートするために Community Console に追加された新規のアクセシビリティ機能が文書化されました。

第 1 章 基本の Community Console タスク

このガイドで説明するタスクは、WebSphere Partner Gateway Community Console を使用して実行されます。Community Console は、セキュア・アクセス・ポイントを提供する Web ベースの機能です。

この章で説明するトピックは次のとおりです。

- 『Community Console の始動』
- 『Receiver 側の開始』
- 『Document Manager の始動』
- 『ヘルプ・システムの始動』
- 2 ページの 『Community Console へのログイン』
- 3 ページの 『Community Console 内の移動』
- 3 ページの 『Community Console のアイコン』
- 5 ページの 『Community Console からのログオフ』
- 5 ページの 『Community Console の停止』
- 5 ページの 『Receiver および Document Manager の停止』

Community Console の始動

Community Console を始動するには、次のいずれかのスクリプトを実行します。

- UNIX^(R) - {INSTALL DIR}/bin/bcgStartServer.sh bcgconsole
- Windows^(R) - {INSTALL DIR}¥bin¥bcgStartServer.bat bcgconsole

Receiver 側の開始

Receiver を始動するには、次のいずれかのスクリプトを実行します。

- UNIX - {INSTALL DIR}/bin/bcgStartServer.sh bcgreceiver
- Windows - {INSTALL DIR}¥bin¥bcgStartServer.bat bcgreceiver

Document Manager の始動

Document Manager を始動するには、次のいずれかのスクリプトを実行します。

- UNIX - {INSTALL DIR}/bin/bcgStartServer.sh bcgdocmgr
- Windows - {INSTALL DIR}¥bin¥bcgStartServer.bat bcgdocmgr

ヘルプ・システムの始動

ヘルプ・システムが機能するには、ヘルプ・システム・サーバーが稼働している必要があります。デフォルトでは、ヘルプ・システムはコンソールと同じサーバーにインストールされますが、コンソールのインストール時に別のサーバーをヘルプ・システム用に指定できます。

ヘルプ・システムの場所は、{INSTALL DIR}/console/lib/config/bcg_console.properties にある bcg_console.properties ファイルの ibm.bcg.help.host プロパティの値をチェックすることによって確認できます。ヘルプ・サーバー・ロケーションの値がローカル・ホストである場合、ローカル・マシンはヘルプ・システムに使用されます。

ヘルプ・システムを始動するには、次のいずれかのスクリプトを実行します。

- UNIX - {INSTALL DIR}/bin/bcgStartHelp.sh
- Windows - {INSTALL DIR}¥bin¥bcgStartHelp.bat

注: Windows システムの場合、bcgStartHelp スクリプトを実行するために使用するウィンドウは開いたままにし、ヘルプ・サーバーが稼働し続けるようにする必要があります。

Community Console へのログイン

Community Console には、次のいずれかの Web ブラウザーが必要です。

- Microsoft^(R) Internet Explorer バージョン 6.0、SP1 以降
- Mozilla バージョン 1.7 以降

使用しているブラウザーについて、利用できる最新の Service Pack とアップデートを必ずインストールしてください。

注: Community Console では、セッション情報を保守するために Cookie サポートをオンにする必要があります。Cookie には個人情報は保管されず、ブラウザーがクローズすると有効期限が切れます。

表示を最適にするため、画面解像度は 1024 x 768 DPI に設定してください。

Community Console にログインするには、次の手順を実行します。

1. Web ブラウザーのロケーション・フィールドに次の URL を入力します。

`http://hostname.domain:58080/console`
(unsecure)

`https://hostname.domain:58443/console` (secure)

hostname および *domain* は、Community Console コンポーネントをホスティングするコンピューターの名前およびロケーションです。

2. Community Console ログイン・ウィンドウの「**ユーザー名**」フィールドに、適切な名前を入力します。
 - ハブ管理者の場合、デフォルトのユーザー名は hubadmin です。
 - オペレーター管理者の場合、デフォルトのユーザー名は Admin です。
3. 「**パスワード**」フィールドに、サイトのパスワードを入力します。デフォルトのパスワードは Pa55word です。
4. 「**会社ログイン名**」フィールドで、管理者ログイン名を入力します。ハブ管理ユーザーおよびオペレーター管理ユーザーのデフォルトのログイン名は共に、Operator です。
5. 「**ログイン**」をクリックします。
6. 初めてログインした場合は、新規パスワードの作成を要求されます。新規パスワードを入力し、「**検証**」フィールドにパスワードを再度入力します。

7. 「保管」をクリックします。

Community Console 内の移動

Community Console は、WebSphere Partner Gateway の構成に使用するさまざまなメニューで構成されています。

各ウィンドウの右上隅に次の 2 つのリンクが表示されます。

- 「ログアウト」を使用すると、現在の WebSphere Partner Gateway セッションからログオフできます。アプリケーションは、引き続きバックグラウンドで実行されます。再度ログインするには、2 ページの『Community Console へのログイン』の手順を実行します。
- 「ヘルプ」を使用すると、WebSphere Partner Gateway のオンライン・ヘルプにアクセスできます。

注: ヘルプをクリックしてもヘルプ・ウィンドウが表示されない場合は、ポップアップ抑止機能を実行していないことを確認してください。

Community Console のアイコン

表 1 に、Community Console のウィンドウ全体で使用されるアイコンの一覧を示します。

表 1. Community Console のアイコン

アイコン	アイコン名
	Trade Participant Agreement (TPA) が入力されています。
	縮小
	コピー
	格納データ
	非アクティブ化
	削除
	ロー文書の表示
	進行中の文書
	文書処理に失敗
	文書処理に成功
	マップのダウンロード
	編集
	属性値の編集

表 1. Community Console のアイコン (続き)

アイコン	アイコン名
	編集オフ
	RosettaNet 属性値の編集
	展開
	情報のエクスポート
	レポートのエクスポート
	ゲートウェイ使用不可
	検索条件を非表示
	変更
	格納データなし
	カレンダーを開く
	一時停止
	印刷
	必要入力
	役割、クリックして役割を作成
	開始
	同期データ・フロー。非同期のトランザクションの場合、アイコンは表示されません。
	マップのアップロード
	重複する文書イベントが存在する場合、以前に送信された元文書を表示します。
	詳細の表示
	グループのメンバーシップの表示
	ヘルプ・システムの表示
	アクセス権の表示
	文書フロー定義の属性セットアップの表示
	ユーザーの表示
	検証エラーの表示

表 1. Community Console のアイコン (続き)

アイコン	アイコン名
	使用箇所

Community Console からのログオフ

Community Console の使用を終了したら、コンソール・ウィンドウの右上にある「ログアウト」をクリックします。ログアウトが実行され、コンソールのログイン・ウィンドウが表示されます。

Community Console の停止

Community Console を停止するには、次のいずれかのスクリプトを実行します。

- UNIX - {INSTALL DIR}/bin/bcgStopServer.sh bcgconsole
- Windows - {INSTALL DIR}¥bin¥bcgStopServer.bat bcgconsole

注: 警告メッセージが表示されても無視できます。

Receiver および Document Manager の停止

システムをシャットダウンする場合は、まず Receiver をシャットダウンしてから Document Manager をシャットダウンします。この安全機能により、Document Manager のシャットダウン中に文書がシステムに侵入するのを防ぎます。処理中の文書が大量に存在する場合は、シャットダウンに最大 15 分かかる場合があります。

Receiver および Document Manager を停止するには、次のスクリプトを実行します。

UNIX:

- {INSTALL DIR}/bin/bcgStopServer.sh bcgreceiver
- {INSTALL DIR}/bin/bcgStopServer.sh bcgdocmgr

Windows:

- {INSTALL DIR}¥bin¥bcgStopServer.bat bcgreceiver
- {INSTALL DIR}¥bin¥bcgStopServer.bat bcgdocmgr

注: 警告メッセージが表示されても無視できます。

ヘルプ・システムの停止

ヘルプ・システムを停止するには、次のいずれかのスクリプトを実行します。

- UNIX - {INSTALL DIR}/bin/bcgStopHelp.sh
- Windows - {INSTALL DIR}¥bin¥bcgStopHelp.bat

第 2 章 ハブ管理者のタスク

この章では、ハブ管理者ユーザーのみが実行できるタスクについて説明します。タスクの内容は次のとおりです。

- 『パスワード・ポリシーの管理』
- 8 ページの『データベース、データベース・ユーザー、およびパスワードの変更』
- 8 ページの『イベント・コードの管理』
- 10 ページの『ターゲットの管理』
- 11 ページの『対話の管理』
- 11 ページの『XML 形式の管理』
- 12 ページの『アクションの使用可能化または使用不可化』
- 13 ページの『ハンドラーの管理』
- 13 ページの『マップの管理』
- 15 ページの『EDI の管理』
- 19 ページの『アラート・メール・アドレスの更新』
- 19 ページの『システム・アクティビティの表示』
- 20 ページの『イベント送達の管理』
- 20 ページの『API 呼び出しの管理』

パスワード・ポリシーの管理

システム設定されたデフォルト値以外の値を使用したい場合は、ハブ・コミュニティーのパスワード・ポリシーをセットアップします。パスワード・ポリシーは、Community Console にログインするすべてのユーザーに適用されます。

パスワード・ポリシーの以下のエレメントを変更することができます。

- 「最小長」 - 参加者がパスワードに最低限使用しなければならない文字数を表します。デフォルトは 8 文字です。
- 「有効期限」 - パスワードが期限切れになるまでの日数を表します。デフォルトは 30 日です。
- 「固有性」 - ヒストリー・ファイルに保持されるパスワードの数を指定します。旧パスワードがヒストリー・ファイルに存在していても、参加者はそのファイルを使用できません。デフォルトのパスワード数は 10 です。
- 「特殊文字」 - これを選択すると、以下のタイプの特殊文字のうち、少なくとも 3 つがパスワードに含まれていなければならないことを示します。
 - 大文字
 - 小文字
 - 数字

- 特殊文字

パスワードが英字 (ASCII) で構成される場合は、この設定をすることで、より厳しいセキュリティ要件を設けることができます。デフォルト設定はオフです。パスワードが各国文字で構成される場合は、「特殊文字」をオフにしておくことをお勧めします。英語以外の言語の文字セットには、4 つの文字タイプのうち必要となる 3 つが含まれていない場合もあります。

システムでサポートされている特殊文字は、「#」、「@」、「\$」、「&」、「+」です。

- 「名前との差異の検査」 - これを選択すると、ユーザーのログイン名や氏名から推測されやすいパスワードを使用できなくなります。このフィールドは、デフォルトで選択されています。

デフォルト値を変更するには、以下のステップを実行します。

1. 「ハブ管理」>「コンソール構成」>「パスワード・ポリシー」の順にクリックします。「パスワード・ポリシー」ページが表示されます。
2. 「編集」アイコンをクリックします。
3. 任意のデフォルト値を、パスワード・ポリシーに使用したい値に変更します。
4. 「保管」をクリックします。

データベース、データベース・ユーザー、およびパスワードの変更

インストール後、WebSphere Partner Gateway コンポーネントが使用するデータベースを変更できます。データベース・ユーザーの名前やデータベース・ユーザーのパスワードも変更できます。

以下のコマンドの `serverName` は、Console、Receiver、および Document Manager それぞれの `bcgconsole`、`bcgreceiver`、または `bcgdocmgr` を参照します。

- Windows プラットフォームでは、`{INSTALL DIR}\%bin` ディレクトリーに移動して、次のコマンドを入力します。

```
bcgwsadmin.bat -f {INSTALL DIR}\%scripts\bcgdbup.jac1 -conntype NONE
db_type dbName dbUserID dbPassword nodeName serverName
```

- 他のすべてのプラットフォームの場合は、次を入力します。

```
./bcgwsadmin.sh -f {INSTALL DIR}/scripts/bcgdbup.jac1 -conntype NONE
dbType dbName dbUserID dbPassword nodeName serverName
```

このコマンドの使用例を次に示します。

```
./bcgwsadmin.sh -f {INSTALL DIR}/scripts/bcgdbup.jac1 -conntype NONE
db2 hub_db george ABCD123 DefaultNode bcgdocmgr
```

イベント・コードの管理

WebSphere Partner Gateway 内でイベントが発生すると、イベント・コードが生成されます。「イベント・コード」ウィンドウを使用すると、生成されたイベント・コードを参照して、ほかのアプリケーションにエクスポートできます。また、イベント・コードのアラート可能状況を設定することができます。

イベント・コードの表示および編集

次の手順では、イベント・コードの詳細を表示する方法について説明します。イベント・コードの可視/不可視およびアラート可能な状況を編集したり、イベント・コードの重大度を表示できます。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「イベント・コード」の順にクリックします。
2. 「イベント・コード」ウィンドウで、詳細を表示するイベント・コードの横にある「詳細の表示」アイコンをクリックします。
3. 「イベント・コードの詳細」ウィンドウで、表 2 に示すパラメーターを設定します。

表 2. イベント・コードの詳細

パラメーター	説明
イベント・コード	このイベント・コードに固有の番号を示す読み取り専用フィールド。
イベント名	イベントを起動したアクションに関連したイベントを識別するために使用する名前を示す読み取り専用フィールド。
内部での記述 可視/不可視	イベントを起動した環境を説明する読み取り専用フィールド。
重大度	イベント・コードを表示できるユーザー（コミュニティー・オペレーター、コミュニティー・マネージャー、コミュニティー参加者、またはこの 3 つの任意の組み合わせ）を選択します。 このイベント・コードに関連した重大度を示す読み取り専用フィールド。次に示すように、「デバッグ」（最低の重大度）から「重大」（最高の重大度）までがあります。 <ul style="list-style-type: none">• デバッグ - 下位のシステム操作およびサポートに使用。可視性およびデバッグ情報の使用は、ユーザーのアクセス権レベルによって異なります。• 情報 - 正常終了したシステム操作に使用。これらのイベントは、処理中の文書の状況も示します。通知イベントにはユーザー処置は必要ありません。• 警告 - 文書の処理やシステム機能において、操作を継続できる重大ではない異常に使用。• エラー - 文書処理において、プロセス終了の原因となる異常に使用。• 重大 - システム障害によって終了するサービスに使用。重大イベントが生成されると、サポート要員による操作が必要になります。
アラート可能 (Alertable)	選択すると、「アラート」ウィンドウの「定義」タブにあるリストにイベント名が表示されます。これにより、このイベントに対してアラートを設定できます。

イベント・コード名の保管

イベント・リストにあるイベント名のみを保管する（「名前のエクスポート」）か、またはイベント・リストにある内部の記述をテキスト形式で保管する（「リストのエクスポート」）かを選択できます。次のステップを実行します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「イベント・コード」の順にクリックします。

2. 「イベント・コード」ウィンドウで、「**名前のエクスポート**」をクリックしてイベントのリストをイベント名のみで保管します。または、「**リストのエクスポート**」をクリックして、イベントのリストを内部記述のみで保管します。

アラート可能イベントの指定

WebSphere Partner Gateway 内でイベントが発生すると、イベント・コードが生成されます。「イベント・コード」ページでは、イベント・コードのアラート可能状況を設定することができます。イベントがアラート可能として設定されると、「アラート」ページの「イベント名」リストにそのイベントが表示されます。この後、イベントのアラートを設定することができます。

アラート可能にするイベントを指定するには、以下のステップを実行します。

1. 「**ハブ管理**」>「**ハブ構成**」>「**イベント・コード**」の順にクリックします。

「イベント・コード」ページが表示されます。

2. アラート可能にするイベントごとに、以下のステップを実行します。

- イベント・コードの横にある「**拡大鏡 (magnifying glass)**」アイコンをクリックします。

「イベント・コードの詳細」ページが表示されます。

- 「**アラート可能 (Alertable)**」を選択します。

ターゲットの管理

「ターゲット・リスト」ウィンドウを使用すると、既存のターゲット詳細内容の表示と編集、およびターゲットの使用可能、使用不可の設定、または削除を行うことができます。

ターゲットの詳細の表示および編集

次の手順では、ターゲットの詳細を表示する方法について説明します。この手順の一部として、ターゲットのパラメーターを編集できます。

1. 「**ハブ管理**」>「**ハブ構成**」>「**ターゲット**」の順にクリックします。
2. 「ターゲット・リスト」ウィンドウで、詳細を表示するターゲットの横にある「**詳細の表示**」アイコンをクリックします。「ターゲットの詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 「ターゲットの詳細」ウィンドウで、「**編集**」アイコンをクリックします。
4. 必要に応じてパラメーターを編集します。
5. 「**保管**」をクリックします。

ターゲットの使用可能化または使用不可化

「ターゲット・リスト」ウィンドウからターゲットを使用可能または使用不可にするには、「**状況**」列で「**使用可能**」または「**使用不可**」をクリックします。これを実行するには、次のステップを実行します。

1. 「**ハブ管理**」>「**ハブ構成**」>「**ターゲット**」の順にクリックします。
2. 「ターゲット・リスト」ウィンドウで、「**編集**」アイコンをクリックしてターゲットを編集します。

3. 状況を変更するターゲットの横にある「使用可能」または「使用不可」をクリックします。

ターゲットの削除

不要なターゲットは削除できます。削除は即時実行されます。このステップの確認を求める警告メッセージは表示されません。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「ターゲット」の順にクリックします。

注: 次の手順では、警告メッセージが表示されることなく、ターゲットは即時に削除されます。このターゲットが削除の対象であることを確認してください。

2. 「ターゲット・リスト」ウィンドウで、削除するターゲットの横にある「削除」アイコンをクリックします。

対話の管理

2 つの文書のフロー定義間での対話を使用可能、使用不可に設定、または編集するには、次のステップを実行します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「文書フロー定義」の順にクリックします。
2. 「対話の管理」をクリックします。
3. WebSphere Partner Gateway が使用可能、使用不可にする、または編集する対話の検索に使用する検索条件を入力します。
4. 「検索」をクリックします。検索条件に一致するすべての対話が検出されます。
5. 対話を使用可能にするには、使用可能にする対話の横にある「削除」アイコンをクリックします。確認を求める確認メッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。WebSphere Partner Gateway により、「削除」アイコンが「非アクティブ化」アイコンに置き換えられ、対話が使用可能になったことが示されます。
6. 対話を使用不可にするには、使用不可にする対話の横にある「非アクティブ化」アイコンをクリックします。確認を求める確認メッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。WebSphere Partner Gateway により、「非アクティブ化」アイコンが「削除」アイコンに置き換えられ、対話が使用不可になったことが示されます。
7. 対話を編集するには、対話の横にある「編集」アイコンをクリックします。編集ウィンドウで、対話を編集して、「保管」をクリックします。

XML 形式の管理

「XML 形式の管理」ウィンドウで既存の XML 形式を編集および削除できます。XML 形式の作成については、「ハブ構成ガイド」を参照してください。

XML 形式の値の編集

XML 形式の値を編集するには、次のステップを実行します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「XML 形式」の順にクリックします。

2. 「XML 形式の管理」ウィンドウで、編集する XML 形式の横にある「編集」アイコンをクリックします。
3. 「XML プロトコルの表示 (View XML Protocol)」ウィンドウで、該当する値を編集します。
4. 「保管」をクリックします。

XML 形式の削除

XML 形式が不要になった場合、次のステップに従って削除します。

重要: XML 形式を削除すると、このプロトコルに基づく既存の接続は使用不可になります。この接続を使用して交換された文書では、不明な文書イベントが発生して失敗します。ただし、削除されたプロトコルに関連した文書フロー定義は、システムに残ります。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「XML 形式」の順にクリックします。
2. 「XML 形式の管理」ウィンドウで、削除する XML 形式の横にある「削除」アイコンをクリックします。XML 形式が削除されます。

注: XML 形式を削除する前に警告メッセージは表示されません。したがって、削除する前に XML 形式が必要ないことを確認してください。

アクションの使用可能化または使用不可化

「アクション」ウィンドウには、変換マップまたは接続で使用できるすべてのアクションが表示されます。システム提供のアクション（「プロバイダー」列に「製品」のラベルあり）とユーザー作成のアクションの両方がリストされます。

「ハブ管理」>「ハブ構成」>「アクション」の順にクリックして、「アクション」ウィンドウを表示します。

次のパラメーターは、アクションごとに表示されます。

- アクションの名前
- アクションの状況 (使用可能または使用不可)
- アクションのプロバイダー - 「製品」によって示される WebSphere Partner Gateway またはユーザー

このページから、以下の操作ができます。

- アクションの詳細を表示するには、「詳細の表示」アイコンをクリックします。ユーザー作成アクションの情報は変更できます。
- 現在アクションを使用している変換マップおよび接続を表示するには、「使用箇所」アイコンをクリックします。
- 選択したアクションに基づいて新規アクションを作成するには、「コピー」アイコンをクリックします。
- 「作成」をクリックすると、新規アクションを作成してそれを使用可能にすることができます。

ハンドラーの管理

「HandlersList」ウィンドウに、アクション、ターゲット、ゲートウェイ、または固定ワークフローで使用できるすべてのハンドラーが表示されます。システム提供のハンドラー（「プロバイダー」列に「製品」のラベルあり）とアップロードされたすべてのユーザー定義ハンドラーの両方がリストされます。

「HandlersList」ウィンドウを使用すると、ハンドラーのタイプ、そのクラス名、およびそれが WebSphere Partner Gateway またはユーザーのどちらから提供されるかなどの、使用可能なハンドラーについての情報を表示できます。ハンドラーをインポートまたは削除することもできます。

ハンドラーのインポート

新規のハンドラーをご使用の環境にインポートするには、次のステップを実行します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「ハンドラー」の順にクリックします。
2. 「HandlersList」ウィンドウで、「インポート」をクリックします。
3. 「ファイル」で、インポートするハンドラーを表す XML ファイルの名前を入力するか、または「参照」ボタンを使用してファイルにナビゲートします。
4. オプションで、ハンドラーをデータベースにコミットするかどうかを指定します。「はい」をクリックすると、ハンドラーは使用可能になります。「いいえ」をクリックすると、ハンドラーは使用できません。デフォルトは「はい」です。
5. オプションで、同じ名前のファイルに上書きするかどうかを指定します。「はい」をクリックして、アップロードするファイルの名前が既存のハンドラー・ファイルの名前と一致すると、既存のファイルはアップロードしたファイルで置き換えられます。この機能は、ユーザー提供のハンドラーを変更して、既存のハンドラーを更新したバージョンで置き換える場合に使用します。デフォルトは「いいえ」です。
6. 「アップロード」をクリックします。

ハンドラー・ファイルがアップロードされると、使用可能ハンドラーのリストに表示されます。

ハンドラーの削除

ハンドラーを削除するには、次のステップを実行します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「ハンドラー」の順にクリックします。
2. 「ハンドラー・リスト」ウィンドウで、削除するハンドラーの横にある「削除」アイコンをクリックします。

マップの管理

このセクションでは、WebSphere Partner Gateway で使用可能なさまざまなタイプのマップの管理方法を説明します。

検証マップの更新

この手順を使用して、現在システムに存在する検証マップを更新します。

1. 「ハブ管理」 > 「ハブ構成」 > 「マップ」 > 「検証マップ」の順にクリックします。

現在システムに存在している検証マップが表示されます。

2. 「マップのダウンロード」アイコンをクリックして、検証マップをローカル・コンピュータにダウンロードします。必要に応じてマップを更新します。
3. 「マップのアップロード」アイコンをクリックして、更新したマップをシステムにロードします。

変換マップの管理

このページを使用して、現在システムに存在している変換マップのリストを表示したり、特定のマップを検索したりします。

このページから以下のタスクを実行できます。

- 特定のマップの検索 (名前、説明) を実行する。
- 現在システムに存在している変換マップを表示する。

「詳細」アイコンをクリックしてマップについての詳細情報を表示します。

「マップのダウンロード」アイコンをクリックして、変換マップをローカル・コンピュータにダウンロードします。これは、マップを更新する必要があるときに役立ちます。

「マップのアップロード」アイコンをクリックして、更新したマップをシステムにアップロードします。

新規変換マップの作成方法の詳細は、「ハブ構成ガイド」を参照してください。

EDI FA マップの管理

このページを使用して、現在システムに存在している機能肯定応答 (FA) マップのリストを表示したり、特定のマップを検索したりします。FA マップはルーティング・オブジェクトと関連付けることができますが、属性値を編集することはできません。

このページから以下のタスクを実行できます。

- 特定のマップの検索 (名前、説明) を実行する。
- 現在システムに存在している FA マップを表示する。

「詳細の表示」アイコンをクリックしてマップについての詳細情報を表示します。

「使用箇所」アイコンをクリックして、FA マップが使用されている場所を確認します。

「削除」アイコンをクリックして FA マップを削除します。

EDI の管理

EDI 交換の交換に関係する多くの属性を変更することができます。例えば、すべてのエンベロープに指定されているデフォルト値を変更したり、特定の交換に特定のエンベロープを使用するように定義したり、交換のさまざまな部分に割り当てられている制御番号をセットアップしたりできます。また、同じ交換が異なる方法で送達されるように接続プロファイルを設定することもできます。このセクションでは、これらのタスクについて説明します。

エンベロープのプロファイル

「エンベロープ・プロファイル」ウィンドウを使用して、エンベロープ・プロファイル・レコードを表示、編集、作成、または削除します。EDI 標準 (X12、UCS、EDIFACT) は、リストにあるそれぞれのプロファイルごとに表示されます。

EDI 標準の各エンベロープ・プロファイル属性については、「ハブ構成ガイド」を参照してください。

エンベロープ・プロファイル・レコードの編集

1. 「ハブ管理」 > 「ハブ構成」 > 「EDI」 > 「エンベロープ・プロファイル」の順にクリックします。
2. 編集するエンベロープ・プロファイル名の横にある「詳細の表示」アイコンをクリックします。
3. 変更するエンベロープ・プロファイル・タイプを選択し、「編集」アイコンをクリックします。

選択したエンベロープ・プロファイルの属性値 (一般、交換、グループ、またはトランザクション) が表示されます。属性については、「ハブ構成ガイド」を参照してください。

4. 必要に応じてエンベロープ・プロファイルの属性値を更新し、「保管」をクリックします。属性については、「ハブ構成ガイド」を参照してください。

エンベロープ・プロファイル・レコードの作成

1. 「ハブ管理」 > 「ハブ構成」 > 「EDI」 > 「エンベロープ・プロファイル」の順にクリックします。
2. 「エンベロープ・プロファイル」ウィンドウで「作成」をクリックします。
3. 以下の値を入力します。
 - エンベロープ・プロファイル名: 新規エンベロープ・プロファイルの固有の名前を入力します。このフィールドは必須です。

注: 名前が固有のものでない場合 (同じ名前のエンベロープ・プロファイルが存在する) は、新規エンベロープ・プロファイルを保管しようとするときにエラー・メッセージが返されます。

- 説明: これはオプションの値です。エンベロープ・プロファイルの要旨を入力します。
4. 新規プロファイルに適用されるドロップダウン・リストで、EDI 標準タイプ (X12、UCS、または EDIFACT) を選択します。このフィールドは必須です。

EDI 標準のドロップダウン・リストで値を選択すると、その標準に特定のエンベロープ・プロファイル属性 (一般、交換、グループ、またはトランザクション) が自動的に表示されます。

5. 必要に応じてエンベロープ・プロファイルの属性値を更新し、「保管」をクリックします。属性については、「ハブ構成ガイド」を参照してください。

エンベロープ・プロファイル・レコードの削除

1. 「ハブ管理」 > 「ハブ構成」 > 「EDI」 > 「エンベロープ・プロファイル」の順にクリックします。
2. 削除するエンベロープ・プロファイル名の横にある「削除」アイコンをクリックします。

エンベローパー

エンベローパー・ページを使用して、エンベローパーのロックおよびキュー値とスケジューリング値を表示および編集します。

1. 「ハブ管理」 > 「ハブ構成」 > 「EDI」 > 「エンベローパー」の順にクリックします。
2. 「編集」アイコンをクリックしてスケジューラーの属性を編集します。
 - 「最大ロック時間」では、データベースのロックを許可する最大時間 (秒) を入力します。この値は、秒単位で表現されます。ロックは、複数のエンベローパー・インスタンスが同じデータにアクセスするのを防ぐために使用されます。
 - 「最大キュー存続期間」では、キューに入れられた要求がデータベースのロックを獲得するために許可される最大時間 (秒) を入力します。この値は、秒単位で表現されます。
 - 「バッチ・モードの使用」は、グローバル設定であり、デフォルトで選択されます。バッチ・モードをオンにすると、EDI エンベローパーがバッチでトランザクションをエンベロープします。バッチ・モードをオフにするには、「バッチ・モードの使用」チェック・ボックスをクリックしてクリアします。
 - 「間隔を基にしたスケジューリング」(デフォルトで選択) または「カレンダーを基にしたスケジューリング」のどちらかをクリックします。「間隔を基にしたスケジューリング」では、時間の間隔 (秒) を入力します。「カレンダーを基にしたスケジューリング」には、「日次スケジュール」、「週次スケジュール」、または「カスタム・スケジュール」をクリックし、それに応じてスケジュールを設定します。
3. 「保管」をクリックします。

接続プロファイル

接続プロファイルは、エンベロープが解除されたトランザクションおよびエンベローパーによって作成された EDI 交換で使用します。トランザクションの場合、接続プロファイルは、エンベロープが解除された後のトランザクションの処理方法を決定します。交換の場合、接続プロファイルは、交換の配信方法を決定します。

「接続プロファイル」ウィンドウを使用して、新規プロファイルを作成したり、既存のプロファイル情報を編集したりします。現在定義されている各プロファイルの

名前およびその説明がある場合には、それらが「接続プロファイル・リスト」に表示されます。接続プロファイルの詳細については、「ハブ構成ガイド」を参照してください。

接続プロファイルの編集

1. 「ハブ管理」 > 「ハブ構成」 > 「EDI」 > 「接続プロファイル」の順にクリックします。
2. 「詳細の表示」アイコンをクリックして「接続プロファイルの詳細」ページを表示します。ページには、すべての接続プロファイルの属性値のリストが表示されます。
3. 「編集」アイコンをクリックし、必要に応じて属性を編集します。
4. 「保管」をクリックします。

接続プロファイルの作成

1. 「ハブ管理」 > 「ハブ構成」 > 「EDI」 > 「接続プロファイル」の順にクリックします。
2. 「接続プロファイルの作成」をクリックして、新規接続プロファイルを作成します。
3. 以下のプロファイル属性フィールドに適切な情報を入力します。
 - 接続プロファイル名: 新規プロファイルの固有名 ID。唯一の必要フィールドです。
 - 説明: 接続プロファイルの要旨。
 - 修飾子 1: EDI 交換に使用する接続を決定する値。
 - EDI 使用タイプ: これがテスト、実動、情報交換のいずれであるかを示します。
 - アプリケーション送信側 ID: グループの送信側に関連するアプリケーションまたは会社の部門。
 - アプリケーション受信側 ID: グループの受信側に関連するアプリケーションまたは会社の部門。
 - パスワード: アプリケーション送信側とアプリケーション受信側の間でパスワードが必要な場合。

「保管」をクリックします。新しく作成された接続プロファイルの「接続プロファイルの詳細」ページが表示されます。

接続プロファイルの削除

1. 「ハブ管理」 > 「ハブ構成」 > 「EDI」 > 「接続プロファイル」の順にクリックします。
2. 「削除」アイコンをクリックして接続プロファイルを削除します。

制御番号の初期設定

「制御番号構成」ページを使用して、エンベローパーが使用する制御番号を構成します。名前またはワイルドカード検索条件を使用して、またオプションで EDI 機能を使用して、1 つ以上の制御番号参加者を検索することもできます。ワイルドカード検索では、他の文字の代わりに、文字とアスタリスク (*) の任意の組み合わせを

含めることができます。検索ストリングとしてアスタリスク (*) を 1 つだけ使用する検索では、すべての EDI 対応参加者のリストが返されます。制御番号と制御番号マスクの詳細については、「ハブ構成ガイド」を参照してください。

1. 「ハブ管理」 > 「ハブ構成」 > 「EDI」 > 「制御番号の初期化」の順にクリックします。
2. 「参加者名」フィールドに検索条件を入力します。検索条件は、参加者の名前またはワイルドカード検索条件のどちらかにすることができます。EDI 対応参加者を検索しない場合は、「EDI 対応 (EDI-capable)」チェック・ボックスをクリアします。デフォルトではチェック・ボックスが選択されています。EDI 対応参加者を検索する場合は、チェック・ボックスが選択されたままの状態にします。「検索」をクリックし、検索条件に当てはまる情報を「制御番号の構成」リスト・ページに表示します。

注: 検索を行っても結果が返されない場合は、「この検索条件に該当する結果はありませんでした。」というメッセージが表示されます。「検索」をクリックして制御番号構成の検索ページに戻り、新しい検索条件を使用して別の検索を実行してください。

3. 参加者の横にある「詳細の表示」アイコンをクリックします。
4. 「制御番号構成の詳細」ページには、参加者の現在の制御番号割り当て (ある場合) が示されます。「編集」アイコンをクリックして、値を追加または変更します。
5. 「交換」の横に値を入力 (または変更) し、交換の制御番号生成の初期化に使用する番号を指示します。
6. 「グループ」の横に値を入力 (または変更) し、グループの制御番号生成の初期化に使用する番号を指示します。あるいは、「マスク」をクリックして、固定値の代わりに使用するマスクを入力することもできます。
7. 「トランザクション」の横に値を入力 (または変更) し、トランザクションの制御番号生成の初期化に使用する番号を指示します。あるいは、「マスク」をクリックして、固定値の代わりに使用するマスクを入力することもできます。
8. 「保管」をクリックします。

現在の制御番号

「制御番号状況の検索」ページを使用して、参加者ペアの制御番号状況を検索します。

1. 「ハブ管理」 > 「ハブ構成」 > 「EDI」 > 「現行制御番号」の順にクリックします。
2. 以下のオプションを使用して、1 つ以上の元参加者、および 1 つ以上の宛先参加者を検索します。
 - **参加者名:** 特定の参加者の名前。検索関数では大/小文字が区別されるので、システムに表示されるとおりに参加者名を入力する必要があります。

注: 元参加者と宛先参加者の両方を選択する必要があります。

- **EDI 対応の検索:** このチェック・ボックスはデフォルトで選択されています。EDI 対応参加者を検索しない場合は、「EDI 対応 (EDI-capable)」チェック・ボックスをクリアします。EDI 対応参加者を検索する場合は、チェック・ボックスが選択されたままの状態にします。

- **検索:** 検索を開始するときにクリックします。
 - **検索結果:** 検索結果はこのフィールドに表示されます。検索結果フィールドには、デフォルトで事前選択されたエントリーである「すべての参加者」が入力されています。すべての参加者を検索するには、「参加者名」フィールドをブランクのままにして「検索」をクリックします。特定の参加者を検索するには、「参加者名」フィールドに名前を入力してから「検索」をクリックします。
 - **現在の状況の表示 (Display Current Status):** 選択した参加者ペアの制御番号状況値を表示する場合にクリックします。
3. 必要があれば、「編集」アイコンをクリックして変更を加えます。
- 注意:**
「編集」オプションと「すべてリセット」オプションは、制御番号が重複する可能性が生じる、特殊な事情の場合にのみ使用してください。
4. 以下のいずれかの操作を実行します。
- 「保管」をクリックしてすべての変更内容を保管し、制御番号状況リストに戻ります。
 - 「戻る」をクリックしてすべての変更内容を取り消し、制御番号状況リストに戻ります。
 - 「すべてリセット」をクリックして参加者ペアの状況をリセットし、参加者間で発生する次のメッセージ交換までに状況値が再初期設定されるようにします。

アラート・メール・アドレスの更新

アラートは、テキスト・ベースの E メール・メッセージで、参加者にシステム・イベントの発生を通知します。

インストール後、アラート・メール情報の更新が必要になる場合があります。

1. `{INSTALL DIR}\%router%\lib%\config` ディレクトリーにある `bcg.properties` ファイルを編集して、アラート通知用の SMTP ホスト E メール・アドレスを変更します。`bcg.properties` ファイルの要素は、次のとおりです。
 - `bcg.alertNotifications.mailHost`
 - `bcg.alertNotifications.mailFrom`
 - `bcg.alertNotifications.mailReplyTo`
 - `bcg.alertNotifications.mailEnvelopeFrom`
2. 変更内容を有効にするためにルーターを再始動します。

システム・アクティビティーの表示

WebSphere Partner Gateway は、システム・アクティビティーについてのデータを定期的に要約します。この要約サービス・データは、文書分析または文書ポリューム・レポート機能を使用するときに表示される情報です。

「要約サービス・プロパティー」ウィンドウで、要約データを生成する頻度を編集できます。このウィンドウには、要約データが最後に更新された日時も表示されません。

時間間隔を変更するには、次のステップを実行します。

1. 「システム管理」 > 「イベント処理」 > 「要約サービス」の順にクリックします。
2. 「要約サービス・プロパティ」ウィンドウで、「処理間隔 (分)」の横にある「編集」アイコンをクリックします。
3. データを再度要約するまでに経過する分数の値 (1 から 60) を入力します。デフォルト値は 15 です。
4. 「保管」をクリックします。

イベント送達の管理

WebSphere Partner Gateway では、システム生成イベントのアプリケーション (例えば、モニター・アプリケーション) へのパブリッシュを選択できます。これらのイベントを JMS キューにパブリッシュします。「イベント・パブリッシュ・プロパティ」ページから、イベント・パブリッシュおよび関連 JMS 構成 (存在する場合) の状況の表示、または状況の変更が行えます。

注: Windows のバージョン (XP 以前) によっては、デフォルトのイベント送達機能を使用する場合に、「JMS キュー・ファクトリー名」と「JMS キュー名」のデフォルト値を変更する必要があります。「JMS キュー・ファクトリー名」の値を WBIC/QCF から WBIC¥¥QCF へ変更し、「JMS キュー名」の値を WBIC/DeliveryQ から WBIC¥¥DeliveryQ へ変更します。

イベント・パブリッシュをアクティブにするには、次のステップを実行します。

1. 「システム管理」 > 「イベント処理」 > 「イベント送達情報」の順にクリックします。
2. 「イベント・パブリッシュ・プロパティ」ウィンドウで、「イベント・パブリッシュの使用可能化」の横にある「編集」アイコンをクリックします。JMS プロパティの値を入力または変更します。

プロパティの詳細は、「ハブ構成ガイド」を参照してください。

3. 「保管」をクリックします。

注: 特定のイベントが生成されないようにする方法については、97 ページの『イベントのフィルター』を参照してください。

API 呼び出しの管理

参加者は、(Community Console を使用する代わりに) アプリケーション・プログラム・インターフェース (API) を呼び出して特定のタスクを実行できます。

管理 API の設定を変更するには、以下のステップを実行します。

1. 「システム管理」 > 「機能の管理」 > 「管理 API」の順にクリックします。
2. 「管理 API プロパティ」ウィンドウで、「XML ベースの API の使用可能化」の横にある「編集」アイコンをクリックします。
3. チェック・ボックスを選択して、API を使用可能にするか、またはチェック・ボックスをクリアして API を使用不可にします。

4. 「保管」をクリックします。

DocMgr 情報の管理

「Document Manager の管理」ページを使用すると、Document Manager の管理プロパティを表示および変更できます。Document Manager は、WebSphere Partner Gateway システムのその他のコンポーネントが共有している 3 つのファイル・システム・フォルダーをポーリングすることにより、処理対象のファイルを取得します。これらのファイル・システム・フォルダーには複数の Document Manager プロセス (各プロセスは複数のスレッドを保持可能) がアクセスできるため、文書は WebSphere Partner Gateway によってロックされます。これにより、共有フォルダー内の文書を処理できるプロセス (スレッド) は 1 つに制限されます。

最大保持時間

ロック保持時間の最大値を、3 つのフォルダー (メイン、同期、シグナル) ごとに設定して、文書取得エンジン (DAE) プロセス (スレッド) のいずれかが、文書の処理中に文書のロック状態を維持できる最大ロック時間を構成します。

- 「メイン・フォルダー」では、メインのインバウンド・ディレクトリー (例: Common の下位にある router_in フォルダー) をポーリングする DAE インスタンスの最大ロック保持時間を表す値 (秒) を入力します。デフォルト値は **3** 秒です。
- 「同期フォルダー」では、同期メッセージのディレクトリー (例: Common の下位にある sync_in フォルダー) をポーリングする DAE インスタンスの最大ロック保持時間を表す値 (秒) を入力します。デフォルト値は **3** 秒です。
- 「シグナル・フォルダー」では、シグナル・メッセージのディレクトリー (例: Common の下位にある signal_in フォルダー) をポーリングする DAE インスタンスの最大ロック保持時間を表す値 (秒) を入力します。デフォルト値は **3** 秒です。

ポーリング間隔ごとに処理する最大ファイル数

ポーリング間隔ごとに処理するファイルの最大数の値を、3 つのフォルダー (メイン、同期、シグナル) ごとに設定して、各 DAE スレッドが処理するファイルの最大数を構成します。

- 「メイン・フォルダー」では、処理の対象となるメインのインバウンド・ディレクトリー (router_in) をポーリングする DAE インスタンスの最大ファイル数を表す (0 より大きい) 値を入力します。デフォルト値は **5** です。
- 「同期フォルダー」では、処理の対象となる同期メッセージのディレクトリー (sync_in) をポーリングする DAE インスタンスの最大ファイル数を表す (0 より大きい) 値を入力します。デフォルト値は **5** です。
- 「シグナル・フォルダー」では、処理の対象となるシグナル・メッセージのディレクトリー (signal_in) をポーリングする DAE インスタンスの最大ファイル数を表す (0 より大きい) 値を入力します。デフォルト値は **5** です。

管理プロパティを表示または変更するには、以下のステップを実行します。

1. 「システム管理」 > 「DocMgr の管理」 > 「DocMgr 情報」の順にクリックします。

「Document Manager の管理」ページでは、プロパティーが読み取り専用モードで表示されます。

2. プロパティーを変更する場合は、「編集」アイコンをクリックします。
3. 「保管」をクリックします。

第 3 章 アカウント管理タスク

この章では、アカウント管理によって実行できるタスクについて説明します。タスクの内容は次のとおりです。

- 『参加者プロフィールの管理』
- 24 ページの『ゲートウェイ構成の管理』
- 30 ページの『証明書の管理』
- 33 ページの『B2B 属性値の変更』
- 33 ページの『参加者接続の管理』
- 38 ページの『除外リストの管理』

参加者プロフィールの管理

アカウント管理参加者機能を使用すると、ハブ管理ユーザーは参加者プロフィールを作成、表示、編集、および削除することができます。参加者プロフィールは、システムに対して会社 (参加者) を識別します。参加者プロフィールの作成については、「ハブ構成ガイド」を参照してください。

注: コミュニティ・マネージャー・ユーザーおよびコミュニティ参加者ユーザーは、自分の参加者プロフィールのみを編集できます。

参加者プロフィールの表示および編集

参加者プロフィールを表示および編集するには、次のステップを実行します。

1. 「アカウント管理」>「プロフィール」>「コミュニティ参加者」の順にクリックします。
2. 「検索」をクリックします。
3. 詳細を表示する参加者の横にある「詳細の表示」アイコンをクリックします。
4. 「参加者の詳細」ウィンドウで、「編集」アイコンをクリックします。
5. 必要に応じて、参加者プロフィールを変更します。

注: 「ユーザー・パスワードのリセット」をクリックすると、Community Console に確認ウィンドウが表示されます。「OK」をクリックして続行するか、または「キャンセル」をクリックしてパスワードを保存します。パスワードをリセットすると、その参加者のすべてのユーザーは、次のログイン時に新しいパスワードを入力するように強制されます。

6. 「保管」をクリックします。

参加者の検索

「参加者」ウィンドウでは、指定した検索条件に一致する参加者を検索できます。参加者を検索するには、次のステップを実行します。

1. 「アカウント管理」>「プロフィール」>「コミュニティ参加者」の順にクリックします。

2. 参加者名またはビジネス ID を該当するフィールドに入力します。
3. 「検索」をクリックします。検索条件に一致する参加者が検出されます。
4. 参加者の状況を変更するには、「状況」列の「使用可能」または「使用不可」をクリックします。
5. 参加者の詳細を表示するには、参加者の横にある「詳細の表示」アイコンをクリックします。
6. 「編集」アイコンをクリックして参加者プロフィールを編集します。
7. 「保管」をクリックします。

参加者の削除

参加者を削除するには、次のステップを実行します。

1. 「アカウント管理」>「プロフィール」>「コミュニティー参加者」の順にクリックします。
2. 参加者名またはビジネス ID を該当するフィールドに入力します。
3. 「検索」をクリックします。検索条件に一致する参加者が検出されます。
4. 「削除」アイコンをクリックして参加者を削除します。
5. 削除を確認して、変更内容を保管します。

ゲートウェイ構成の管理

ゲートウェイは、ハブ・コミュニティーの適切な宛先に文書をルーティングするときに使用するトランスポート情報を管理します。ゲートウェイの構成時にどの情報が必要かは、アウトバウンド・トランスポート・プロトコルによって決まります。ゲートウェイの作成については、「ハブ構成ガイド」を参照してください。

ゲートウェイ構成のために必要な情報

ゲートウェイのセットアップに必要なパラメーター情報は、トランスポート・タイプによって決まります。表 3 では、X でマークされているボックスには構成情報が必要であり、文字 O でマークされているボックスはオプションです。ゲートウェイ・パラメーターについて詳しくは、26 ページの表 4 を参照してください。

注: 特定のゲートウェイ構成値を編集できるかどうかは、ユーザーのアクセス権レベルによって異なります。

表 3. 必要なトランスポート情報

必要なトランスポート情報	HTTP トランスポート	HTTPS トランスポート	FTP トランスポート	FTPS トランスポート	FTP スクリプト・トランスポート	ファイル・ディレクトリー・トランスポート	JMS トランスポート	SMTP トランスポート
認証が必要							O	O
自動キュー	O	O	O	O			O	O
接続タイムアウト	X	X	X	X	X			
FTPS モード					O			

表 3. 必要なトランスポート情報 (続き)

必要なトランスポート情報	HTTP トランスポート	HTTPS トランスポート	FTP トランスポート	FTPS トランスポート	FTP スクリプト・トランスポート	ファイル・ディレクトリー・トランスポート	JMS トランスポート	SMTP トランスポート
JMS ファクトリー名							X	
JMS JNDI ファクトリー名							X	
JMS メッセージ・クラス							X	
JMS メッセージ・タイプ							O	
JMS キュー名							X	
ロック・ユーザー					O			
スレッド数	X	X	X			X	X	X
パスワード	O	O	O	O	O	O	O	O
プロバイダー URL パッケージ							O	
再試行カウント	X	X	X	X	X	X	X	X
再試行間隔	X	X	X	X	X	X	X	X
サーバー IP					X			
ターゲット URI	X	X	X	X		X	X	X
ユーザー ID					O			
ユーザー名	O	O	O	O		O	O	O
クライアント クライアント IP	O	O	O	O				
クライアント SSL 証明書の 検証		O						

注:

1. ゲートウェイの「認証が必要」オプションがオンで、ユーザー名とパスワードが指定されている場合、ゲートウェイは、このユーザー名とパスワードを、文書の配信のために接続している外部システムに渡します。ゲートウェイは認証を実行せず、これらの認証証明書を接続を試行しているシステムに渡すだけです。JMS ゲートウェイでは、ユーザー名とパスワードは JMS キュー接続ファクトリーの

JNDI ルックアップの証明書として使用されます。ファイル・ベースの JNDI を使用して JMS キューに接続する場合、WebSphere MQ 経由の JMS は JNDI 認証を実行しません。

2. ネゴシエーションしている FTPS サーバーが、提示されたクライアント証明書に基づいてユーザーをマッピングしていない限り、ユーザー名およびパスワードが FTPS 認証に必要です。実装の詳細については、FTPS サーバー管理者にお問い合わせください。

ゲートウェイの表示および編集

ゲートウェイを表示および編集するには、次のステップを実行します。

1. 「アカウント管理」>「プロファイル」>「ゲートウェイ」の順にクリックします。
2. ゲートウェイのアクセスを変更するには、「アクセス」列の「オンライン」または「オフライン」をクリックします。
3. ゲートウェイの状況を変更するには、「状況」列の「使用可能」または「使用不可」をクリックします。
4. 「詳細の表示」アイコンをクリックして、ゲートウェイの詳細を表示します。
5. 「編集」アイコンをクリックします。
6. 「ゲートウェイの詳細」ウィンドウで、26 ページの表 4 で説明されているゲートウェイ・パラメーターを編集します。
7. 「保管」をクリックします。

「削除」をクリックして、ゲートウェイを削除することもできます。

表 4. ゲートウェイ・パラメーターの説明

パラメーター	説明
認証が必要	このパラメーターを使用可能にすると、ユーザー名およびパスワードは JMS または SMTP メッセージとともに提供されます。
自動キュー	このパラメーターを使用可能にすると、ゲートウェイがオフラインになっている場合に文書が一時リポジトリに配置されます。このパラメーターが使用不可で、ゲートウェイがオフラインの場合、文書の送信は失敗してエラーが発生します。
カレンダーを基にしたスケジューリング	このオプションを選択すると、ゲートウェイに関連付けられている文書は、選択されたスケジュールに基づいて処理されます。
構成ポイント・ハンドラー	プリプロセッシングおよびポストプロセッシングで使用するハンドラーを指定するために使用します。
接続タイムアウト	トラフィックのない状態でソケットが開いている秒数。デフォルト値は 120 (2 分) です。
説明	ゲートウェイに関するオプションの説明。
FTPS モード	「はい」または「いいえ」を選択して、セキュア接続を使用するかどうかを制御します。
ゲートウェイ名	ゲートウェイを識別するための名前。
間隔を基にしたスケジューリング	このオプションを選択すると、ゲートウェイは指定された間隔で文書を処理します。

注: 「ゲートウェイ名」は、ユーザー定義のフリー・フォーマット・フィールドです。一意である必要はありませんが、混乱を避けるため、各ゲートウェイには異なる名前を付けてください。

表4. ゲートウェイ・パラメーターの説明 (続き)

パラメーター	説明
JMS ファクトリー名	JMS プロバイダーが JMS キューとの関連付けを生成するために使用する Java TM クラス名。
JMS JNDI ファクトリー名	ネーム・サービスに接続するために使用するファクトリー名。
JMS メッセージ・クラス	メッセージのクラス。
JMS メッセージ・タイプ	JMS メッセージのタイプ。
JMS キュー名	JMS メッセージが格納されるキューの名前。
ロック再試行間隔 (秒)	次のロック再試行までに FTP スクリプト・コンポーネントが待つ時間。
ロック再試行カウント	ロックを取得するまでに FTP スクリプト・コンポーネントが試行する回数。
ロック・ユーザー	「はい」または「いいえ」を選択して、同時接続を許可するかどうかを制御します。
最大ロック時間 (秒)	FTP スクリプト・コンポーネントがロックを保持する最大時間。最大時間が経過すると、ロックはデータベースに戻されます。
最大キュー存続期間 (秒)	FTP スクリプト・コンポーネントがロック要求キューに入っているときの最大時間。ロック要求キューに置かれるのは、ロック要求が拒否された場合です。
スレッド数	文書のルーティングに割り当てられるスレッドの数。デフォルト値は 3 です。このパラメーターを使用できるのはハブ管理者のみです。
オンライン/オフライン	ゲートウェイがオンラインまたはオフラインの状態であることを示します。オフラインにすると、文書はゲートウェイがオンラインになるまでキューに入れられます。
パスワード	参加者ファイアウォール経由のセキュア・アクセスのためのパスワード。
プロバイダー URL パッケージ	JMS コンテキスト URL を解釈するために Java が使用するクラスまたは JAR ファイルの名前。
再試行カウント	失敗するまでにシステムが試行する文書の最大送信回数。デフォルト値は 3 です。
再試行間隔	次の再試行までにゲートウェイが待つ時間。デフォルト値は 300 (5 分) です。
スクリプト・ファイル	FTP コマンドを含む FTP スクリプト。
サーバー IP	サーバーの IP アドレス。
状況	ゲートウェイが使用可能または使用不可の状態であることを示します。使用不可にすると、文書はそのゲートウェイを通過できません。
ターゲット URI	参加者の URI。
スレッド番号	同時に処理される文書数。
トランスポート	文書をルーティングするためのプロトコル (24 ページの『ゲートウェイ構成のために必要な情報』を参照)。
固有ファイル名の使用	ターゲット・ロケーションで文書を受け取ったときに固有ファイル名を作成。元のファイル名はデータベース内に保管されています。
ユーザー定義属性	FTP スクリプト・ファイルの場合、ユーザーは固有の属性を追加できます。属性はコンソールで定義可能です。これらの属性は、ゲートウェイで読み取られ、スクリプト・ファイル内で置き換えられます。
ユーザー ID	FTP サーバーにアクセスするために必要です。

表4. ゲートウェイ・パラメーターの説明 (続き)

パラメーター	説明
ユーザー名	参加者ファイアウォール経由のセキュア・アクセスのためのユーザー名。
クライアント IP の検証	文書を処理する前に、送信側パートナーの IP アドレスを検証します。接続の送信元ゲートウェイとして選択されたゲートウェイで使用されます。
クライアント SSL 証明書 の検証	文書を処理する前に、文書に関連付けられているビジネス ID と照合して、送信側参加者のデジタル証明書を検証します。接続の送信元ゲートウェイとして選択されたゲートウェイで使用されます。

デフォルト・ゲートウェイの表示および編集

システムに構成されているデフォルト・ゲートウェイを表示および編集するには、次のステップを実行します。

1. 「アカウント管理」>「プロファイル」>「ゲートウェイ」の順にクリックします。
2. ウィンドウの右上隅にある「デフォルト・ゲートウェイの表示」をクリックします。すべてのゲートウェイ・タイプとそれに関連するゲートウェイのリストが表示されます。
3. デフォルト・ゲートウェイの関連情報を表示するには、そのゲートウェイの横にある「詳細の表示」アイコンをクリックします。
4. 必要に応じて情報を編集し、「保管」をクリックします。

ゲートウェイ構成の削除

ゲートウェイ構成が不要になった場合は、次の手順に従って構成を削除します。ゲートウェイ構成を削除する前に確認メッセージは表示されません。そのため、削除する前に対象のゲートウェイ構成が必要ないことを確認してください。

1. 「アカウント管理」>「プロファイル」>「ゲートウェイ」の順にクリックします。
2. 削除するゲートウェイの横にある「詳細の表示」アイコンをクリックします。
3. 「編集」アイコンをクリックします。
4. 「削除」をクリックします。

トランスポートのアップロード

トランスポートをアップロードするには、次の手順を使用します。

1. 「アカウント管理」>「プロファイル」>「ゲートウェイ」の順にクリックします。
2. 「トランスポート・タイプの管理」を選択します。
3. 「参照」をクリックし、トランスポートを選択します。
4. 新規トランスポートをデータベースにコミットするかどうかを選択します。
5. 既存データを上書きするかどうかを選択します。
6. 「アップロード」をクリックします。

トランスポートの削除

トランスポートが不要になった場合は、次の手順に従って構成を削除します。

1. 「アカウント管理」>「プロフィール」>「ゲートウェイ」の順にクリックします。
2. 「トランスポート・タイプの管理」を選択します。
3. リストされたトランスポートの横にある「削除」アイコンをクリックします。

トランスポートおよびゲートウェイの再試行

参加者のゲートウェイへの文書の配信が失敗すると、WebSphere Partner Gateway は文書の再配信を試行します。試行それぞれを再試行 と呼びます。WebSphere Partner Gateway には、トランスポートとゲートウェイという 2 つのレベルの再試行機能があります。

トランスポート再試行

トランスポート再試行は、ゲートウェイの仕様に関係なく常に適用される下位の組み込み再試行です。下位の再試行が実行される誘因としては、配信の試行で経由するネットワーク、とりわけインターネットで一時的な障害が多いことが挙げられます。このように配信システムは自動的に再試行するよう設計されており、ユーザーが再試行パラメーターを明示的に定義する必要はありません。トランスポート再試行の回数 (`bcg.delivery.gwTransportMaxRetries`) および再試行の時間間隔 (`bcg.delivery.gwTransportRetryInterval`) は、Document Manager の `bcg.properties` ファイルに定義されており、すべてのゲートウェイに適用されます。デフォルト値は、3 秒間隔で再試行 3 回です。

ゲートウェイ再試行 (文書再試行とも呼ばれる)

ゲートウェイ再試行パラメーター (許容される再試行回数および再試行の間隔) は、ユーザーがゲートウェイ・プロパティを使用して構成します。通常のゲートウェイ再試行間隔は、組み込みトランスポート再試行よりも長くなります。これは、ユーザーが十分な時間を使用して、配信の障害を訂正できるようにすることを意図しています。例えば、宛先の Web サーバーがダウンしていたり、宛先の URL が誤っていたりすることがあります。パラメーター値を設定するには、ユーザーが各ゲートウェイの値を割り当てる必要があります。

WebSphere Partner Gateway では、それぞれの (ユーザー定義の) ゲートウェイ再試行ごとにトランスポート再試行が自動的に実行されます。例えば、3 回のゲートウェイ再試行を指定すると、システムの再試行パターンは次のようになります。

最初の試行が失敗する

- トランスポート再試行 0 が失敗する
- トランスポート再試行 1 が失敗する
- トランスポート再試行 2 が失敗する

ゲートウェイ再試行 1 が失敗する

- トランスポート再試行 0 が失敗する
- トランスポート再試行 1 が失敗する
- トランスポート再試行 2 が失敗する

ゲートウェイ再試行 2 が失敗する

トランスポート再試行 0 が失敗する
トランスポート再試行 1 が失敗する
トランスポート再試行 2 が失敗する
ゲートウェイ再試行 3 が失敗する
トランスポート再試行 0 が失敗する
トランスポート再試行 1 が失敗する
トランスポート再試行 2 が失敗する
文書の配信障害

配信の試行に失敗するたびに、Community Console で表示可能な警告イベントが生成されます。

順方向プロキシ・サポート

HTTP および HTTPS トランスポートでは、構成されたプロキシ・サーバーを介して文書が送信されるように、順方向プロキシ・サポートを設定できます。WebSphere Partner Gateway を使用して、次のサポート・タイプを設定することができます。

- HTTP を介したプロキシ・サポート
- HTTPS を介したプロキシ・サポート
- 認証付きの HTTPS を介したプロキシ・サポート
- SOCKS を介したプロキシ・サポート

順方向プロキシを設定した後、それをデフォルトの順方向プロキシ・ゲートウェイにすることによって、トランスポート用にグローバルにすることができます(例えば、すべての HTTP ゲートウェイが順方向プロキシを使用します)。その後、個々のゲートウェイごとに、デフォルトの順方向プロキシ・サーバーを使用しないよう選択することもでき、異なる順方向プロキシ・サーバーを使用するよう選択することもできます。順方向プロキシ・サポートの詳細については、「[ハブ構成ガイド](#)」を参照してください。

証明書の管理

デジタル証明書とは、運転免許証やパスポートと同様の、オンラインの身分証明書のことです。デジタル証明書を使用して、個人または組織を識別することができます。

デジタル署名とは、公開鍵暗号方式を使用した電子文書に基づいた計算のことです。この処理によって、デジタル署名は署名される文書および署名者と結合されるため、複製することはできません。連邦政府のデジタル署名法案が通過したことにより、デジタル署名のある電子取引には、手書きで署名された取り引きと同等の法的効力があります。

WebSphere Partner Gateway は、デジタル証明書を使用してコミュニティー・マネージャーとコミュニティー参加者間のビジネス文書トランザクションの認証性を検証します。デジタル証明書は、暗号化や復号化にも使用されます。

アウトバウンド文書の 1 次証明書と 2 次証明書を指定して、文書交換が中断されないようにすることができます。1 次証明書はすべてのトランザクションで使用します。2 次証明書は、1 次証明書が期限切れになったり失効したりした場合に使用します。

デジタル証明書は、構成処理時にアップロードされ、識別されます。

証明書の有効期限が切れていたり失効していたりすると、証明書は使用不可になり、コンソールにその状態が反映されます。1 次証明書が期限切れになったり失効したりすると、使用不可になり、2 次証明書が 1 次証明書として設定されます。証明書が期限切れになったり失効したりすると、イベントが生成されます。

選択した証明書タイプを基にした「証明書の使用」オプションを使用できます。ハブ・オペレーター・プロファイルでは、デジタル署名または SSL クライアント証明書に対して「証明書の使用」を設定できます。参加者プロファイルでは、暗号化証明書に対して「証明書の使用」を設定することができます。例えばハブ・オペレーター・プロファイル内でのデジタル署名と暗号化のように、同じ証明書が異なる目的で使用されることになっている場合は、デジタル署名のために 1 度と、暗号化証明書のために 1 度の、合わせて 2 度ロードする必要があります。ただし、証明書をデジタル署名や SSL クライアントに使用する場合は、同じ証明書エントリーで、対応するチェック・ボックスを設定できます。

このような証明書は、デジタル署名と SSL クライアントに対してそれぞれ一度ずつ、合わせて 2 回ロードすることもできます。その場合は、2 次証明書でも同じパターンに従う必要があります。例えば、デジタル署名と SSL クライアントに対する別々の証明書として 1 次証明書をロードした場合は、2 次証明書も別々の証明書エントリーとしてロードする必要があります (証明書が同じ場合でもそうします)。

完全な certpath を構築して検証するには、証明書チェーン内の証明書すべてをアップロードする必要があります。例えば、証明書チェーンに A -> B -> C -> D (A -> B は、A が B の発行者という意味) という証明書がある場合は、証明書 A、B、および C はルート証明書としてアップロードしてください。証明書の 1 つが使用不可の場合は、certpath が構築されず、トランザクションは正常に行われません。CA 証明書は、認証局が保持する証明書リポジトリから取得するか、証明書を供給したパートナーから取得することができます。ルート証明書と中間証明書は、ハブ・オペレーター・プロファイルでのみアップロード可能です。

注: 以下のセクションの手順を実行する場合は、先に証明書をシステムにロードしておく必要があります。証明書のロードの詳細については、「ハブ構成ガイド」を参照してください。

デジタル証明書の表示および編集

ハブ・オペレーター・プロファイルの下に保管されている (前にシステムにアップロードされた) デジタル証明書をリストおよび編集するには、次の手順を使用します。

注: 取引先プロファイルの下に保管されている証明書を表示および編集するには、まず「参加者の検索」ページで取引先を選択してから、「証明書」タブを選択します。

1. 「アカウント管理」>「プロファイル」>「証明書」の順にクリックします。デジタル証明書リストが表示されます。

注: デジタル証明書の日付が赤色の場合は、この証明書が期限切れかまだ有効でないことを示しています。

2. 証明書の横にある「詳細の表示」アイコンをクリックします。「証明書の詳細を表示 (Viewing Certificate Details)」ウィンドウが表示されます。
3. 「編集」アイコンをクリックしてデジタル証明書を編集します。
4. ウィンドウに表示された次のパラメーターを更新して、「保管」をクリックします。

表 5. デジタル証明書のパラメーター

パラメーター	説明
証明書タイプ	デジタル証明書のタイプを以下に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • デジタル署名 - 参加者から受信した文書のデジタル署名を認証します。 • 暗号化 — 参加者に送信する文書を暗号化するための公開鍵が格納されています。 • SSL クライアント — SSL 接続を開始するために使用する参加者の証明書を認証します。 • ルートおよび中間 — 証明書チェーンを確立するために認証権限から発効された証明書です。
説明	証明書を説明するテキスト
状況	証明書を使用可能または使用不可にします。
ゲートウェイ・タイプ	証明書に関連したゲートウェイのタイプを選択します。
証明書の使用	使用タイプを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • 1 次 — すべてのトランザクションで使用します。 • 2 次 — 1 次証明書が期限切れになったり失効したりした場合に使用します。

デジタル証明書の使用不可化

デジタル証明書を使用しない場合は、次の手順に従って証明書を使用不可にします。

1. 「アカウント管理」>「プロファイル」>「証明書」の順にクリックします。デジタル証明書リストが表示されます。
2. 使用不可にする証明書の横にある「詳細の表示」アイコンをクリックします。
3. 「編集」アイコンをクリックして証明書の詳細を編集します。
4. 「状況」で、「使用不可」を選択します。
5. 「保管」をクリックします。

注: 1 次証明書が使用不可になっている場合は、対応する 2 次証明書が 1 次になります。2 次証明書が使用不可になっている場合は、2 次証明書がないという警告が表示されます。

B2B 属性値の変更

文書フロー定義の属性値を変更するには、次の手順に従います。

注: 上位の文書フロー定義の属性値を変更すると、その内容は同じノード内にある下位の定義に継承されます。

1. 「アカウント管理」>「プロファイル」>「B2B 機能」の順にクリックします。「B2B 機能」ウィンドウが表示されます。
2. ノードをクリックして、適切な文書フロー定義レベルまでノードを個別に展開するか、0 から 4 までの数字または「すべて」を選択して、表示されているすべての文書フロー定義ノードを選択したレベルまで展開します。
3. 「編集」アイコンをクリックし、「更新」列の適切な属性値を変更します。
4. 「保管」をクリックします。

参加者接続の管理

参加者接続とは、システムが文書を処理し、コミュニティ・マネージャーとそのさまざまな参加者との間で文書を送信できるようにする仕組みです。接続には、RosettaNet TPA 属性、トランスポート・プロトコル、文書処理アクション、ゲートウェイ・タイプ、参加者ゲートウェイなどの各文書フローの適切な交換に必要な情報が含まれています。コミュニティ・マネージャーとその参加者の 1 人との間に接続が存在しないと、文書は送信できません。

コミュニティ・マネージャーとその参加者間の接続は、それらの B2B 機能に基づいて自動的に作成されます。Community Console の B2B 機能モジュールに入力されたデータによって、使用可能な各接続の機能が決まります。各接続の構成は、ハブ・コミュニティのニーズに合わせて変更できます。

接続コンポーネント

個々の接続は、次の 4 つのコンポーネントで構成されています。

- 属性
- アクション
- ゲートウェイ
- ゲートウェイ・タイプ

接続が作成されると、そのルーティングおよび処理の機能に合わせてこの 4 つのコンポーネントすべてを変更することができます。表 6 では、各コンポーネントが説明されています。

表 6. 参加者の管理コンポーネント

コンポーネント	説明
属性	属性とは、接続によって検証、暗号化検査、再試行カウントなどのさまざまな文書処理およびルーティングの機能で使用される情報です。
アクション	接続作成時の効率を向上させるために、新規接続の属性にマネージャーおよび参加者の B2B 機能が自動的に継承されます。 アクションとは、特定文書の処理に使用される一連のステップです。各接続は通常、変換、重複検査、検証、またはパススルー・ルーティングなどの 1 つ以上のステップで構成されています。接続ごとに適切なアクションを選択できます。
ゲートウェイ	各接続には、ソース・ゲートウェイとターゲット・ゲートウェイが含まれています。ソース・ゲートウェイには、文書フローを開始する参加者の URI およびトランスポート情報が含まれています。受信肯定応答や一般例外などのビジネス・シグナルは、ソース・ゲートウェイ経由で開始元の参加者に送信されます。ゲートウェイ・オプションの「クライアント IP の検証」および「クライアント SSL 証明書の検証」は、ソース・ゲートウェイに適用されます。
ゲートウェイ・タイプ	ターゲット・ゲートウェイには、文書フローを受信する参加者の URI およびトランスポート情報が含まれています。 ゲートウェイ・タイプは、交換される文書の性質を示します。接続は、複数タイプのゲートウェイを使用して、同じ文書を複数のシステムに対して送信および処理できます。このため、1 つの組織内の複数システムで実動、テスト、またはルーティングに 1 つの接続を使用することによって、接続の効率が向上します。

接続の重複

RosettaNet 接続の不注意な重複を避けるために、システムでは、各接続は次のパラメーターに基づいて一意的に識別されます。

- ソース・パッケージおよびバージョン
- ソース・プロトコルおよびバージョン
- ソース文書フローおよびバージョン

35 ページの図 1 に示す例では、同じソース参加者と属性を同じターゲット参加者とともに使用して 2 つの接続を活動化することはありません。このことは、ターゲット参加者が一方の接続で RosettaNet プロトコルを使用し、他方の接続で RNSC プロトコルを使用している場合でも同じです。この場合、ターゲットの RosettaNet プロトコルを含む接続は、ターゲットの RNSC プロトコルを含む他方の接続を使用する前に非活動化する必要があります。

注: EDI 文書には、関連する接続プロファイルを追加できます。接続プロファイルに対して構成された値は、同じソース文書であっても接続を一意的に識別するために使用されます。

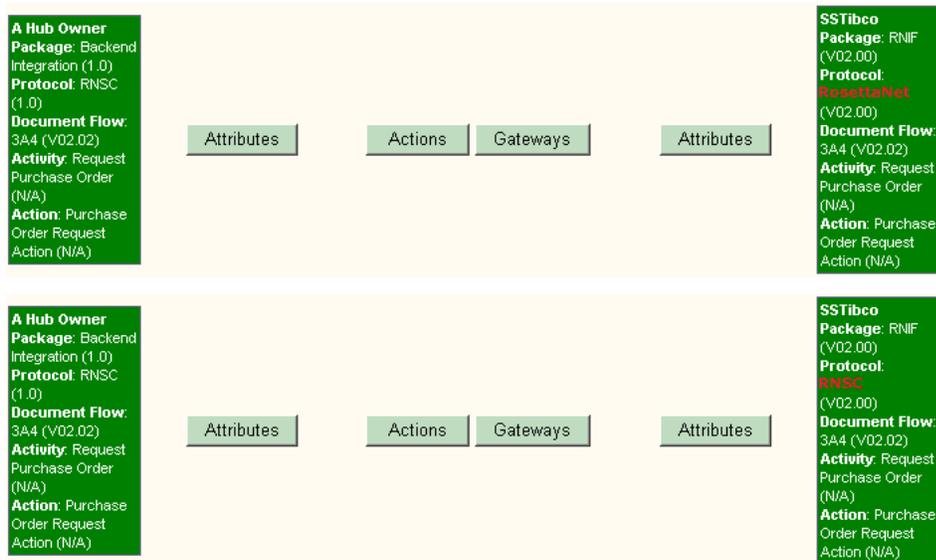


図 1. 接続例

接続の検索

接続にアクセスするには、接続を検索します。接続を検索するには、次の 2 つの方法があります。

- 「接続の管理」ウィンドウを使用して、ソースおよびターゲットを選択することによって接続を検索する。後述する『接続の基本検索の実行』を参照してください。
- システムの拡張検索機能を使用して、ビジネス ID、開始および受取のパッケージおよびプロトコル、開始および受取の文書フローなどの追加の検索条件を指定する。36 ページの『接続の拡張検索の実行』を参照してください。

接続の基本検索の実行

接続の基本検索を実行するには、次の手順に従います。ソースおよびターゲットを選択する場合は、次のガイドラインに従ってください。

- ソースおよびターゲットは一意にする。
- ソースおよびターゲットを選択するときには、実動ゲートウェイとテスト・ゲートウェイを混用しないでください。混用するとエラーが発生します。ソースおよびターゲットは、両方とも実動ゲートウェイまたはテスト・ゲートウェイにそろえる必要があります。
 1. 「アカウント管理」>「参加者の接続」の順にクリックします。「接続の管理」ウィンドウが表示されます。
 2. 「ソース」の下で、ソースを 1 つ選択します。
 3. 「ターゲット」の下で、ターゲットを 1 つ選択します。

注: 新規接続を作成するには、ソースおよびターゲットは一意である必要があります。

4. 「検索」をクリックして、指定した検索条件に一致する接続を検索します。

5. 接続をアクティブ化するには、「**アクティブ化**」をクリックします。「接続の管理」ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、ソースおよびターゲットのパッケージ、プロトコル、および文書フローが表示されます。ここには、クリックするとパートナー接続の状況およびパラメーターを表示して変更できるボタンも表示されます。
6. 次に示す項目を必要に応じてクリックします。
 - 「非アクティブ化」アイコンをクリックすると、接続が使用不可になります。
 - 「削除」アイコンをクリックすると、接続が使用可能になります。
 - 「**属性**」をクリックすると、「接続属性」ウィンドウが表示されます。ここでは、接続の属性を表示および変更できます。詳しくは、37 ページの『参加者の属性値の変更』を参照してください。
 - 「**アクション**」をクリックすると、「接続の詳細」ウィンドウが表示されます。ここでは、アクションを表示および変更できます。詳しくは、38 ページの『新規アクションの選択』を参照してください。
 - 「**ゲートウェイ**」をクリックすると、「接続管理ゲートウェイ」ウィンドウが表示されます。ここでは、ソース・ゲートウェイまたはターゲット・ゲートウェイを表示および変更できます。詳しくは、38 ページの『ソース・ゲートウェイまたはターゲット・ゲートウェイの変更』を参照してください。

接続の拡張検索の実行

接続の拡張検索を実行するには、次の手順に従います。ソースおよびターゲットを選択する場合は、次のガイドラインに従ってください。

- ソースおよびターゲットは一意にする。
- ソースおよびターゲットを選択するときには、実動ゲートウェイとテスト・ゲートウェイを混用しないでください。混用するとエラーが発生します。ソースおよびターゲットは、両方とも実動ゲートウェイまたはテスト・ゲートウェイにそろえる必要があります。
 1. 「**アカウント管理**」>「**参加者の接続**」の順にクリックします。「接続の管理」ウィンドウが表示されます。
 2. ウィンドウの右上隅にある「**拡張検索**」をクリックします。

3. 表 7 に示すように、次のパラメーターをすべて入力します。

表 7. 「拡張検索」ウィンドウ

パラメーター	説明
参加者名で検索	ソースおよびターゲットの名前。
ビジネス ID で検索	ソースおよびターゲットのビジネス ID。DUNS、DUNS+4、および Freeform があります。
ソース・パッケージ (Source Package)	ソースによって使用されるパッケージ。
ターゲット・パッケージ (Target Package)	ターゲットによって使用されるパッケージ。
ソース・プロトコル (Source Protocol)	ソースによって使用されるプロトコル。
ターゲット・プロトコル (Target Protocol)	ターゲットによって使用されるプロトコル。
ソース文書フロー	ソースによって使用される文書フロー。
ターゲット文書フロー	ターゲットによって使用される文書フロー。
接続状況	使用可能と使用不可の両方の接続を検索できます。

4. 「検索」をクリックします。検索条件に一致する接続が検出されます。

接続構成の変更

接続の構成を変更するには、次の手順に従います。

1. 「アカウント管理」>「参加者の接続」の順にクリックします。「接続の管理」ウィンドウが表示されます。
2. 接続の基本検索 (35 ページの『接続の基本検索の実行』を参照) または接続の拡張検索 (36 ページの『接続の拡張検索の実行』) を実行します。
3. 次に示す適切なセクションを参照してください。
 - 『参加者の属性値の変更』
 - 38 ページの『新規アクションの選択』
 - 38 ページの『新規変換マップの選択』
 - 38 ページの『ソース・ゲートウェイまたはターゲット・ゲートウェイの変更』
 - 38 ページの『接続の使用不可化または非アクティブ化』

参加者の属性値の変更

参加者の属性値を変更するには、次の手順に従います。

1. ソース参加者かターゲット参加者のいずれかの「属性」をクリックします。
2. 接続に関連したすべてのゲートウェイ・タイプに属性変更を適用する場合は、「スコープ」ドロップダウン・リストで、「接続」をクリックします。または、変更を適用するゲートウェイ・タイプを選択します。
3. 「展開」アイコンをクリックし、属性値を変更する文書フロー定義までノードを展開します。
4. 必要に応じて属性値を更新します。
5. 「保管」をクリックします。

新規アクションの選択

新規アクションを選択するには、次の手順に従います。

1. 「アクション」をクリックします。
2. ドロップダウン・リストから新規アクションを選択します。
3. 「保管」をクリックします。

新規変換マップの選択

新規変換マップを選択するには、次の手順に従います。

1. 「アクション」をクリックします。
2. ドロップダウン・リストから新規変換マップを選択します。
3. 「保管」をクリックします。

ソース・ゲートウェイまたはターゲット・ゲートウェイの変更

ソース・ゲートウェイまたはターゲット・ゲートウェイを変更するには、次の手順に従います。

1. 「ゲートウェイ」をクリックします。
2. ドロップダウン・リストからソース・ゲートウェイまたはターゲット・ゲートウェイを選択します。
3. 「保管」をクリックします。

接続の使用不可化または非アクティブ化

接続を使用不可にするには、「使用可能」列の「非アクティブ化」アイコンをクリックします。接続の表示色が赤色に変わり、接続が使用不可になったことを示します。接続をもう一度使用可能にするには、「削除」アイコンをクリックします。

接続を非アクティブ化するには、「削除」アイコンをクリックします。接続の表示色がグレーに変わり、アイコンが非表示になります。接続を再度使用可能にするには、「アクティブ化」をクリックします。

EDI 文書の場合は、同じ参加者に適用される数個の接続を確立できます。さまざまな接続は、接続プロファイルを使用して区別されます。関連付けられた接続プロファイル名を持つ接続を削除すると、システムからその接続が削除されます。非アクティブ化できるのは、関連付けられた接続プロファイルを持たないベース・レベルの接続のみです。接続プロファイルについて詳しくは、「ハブ構成ガイド」を参照してください。

除外リストの管理

除外リストを使用することにより、コミュニティー・オペレーターは、Document Manager を構成して、取引パートナーからマネージャーに送信される RosettaNet 通知を制限できます。取引パートナーは、名前およびビジネス ID で識別されます。

次の通知をルーティング制限として選択できます。

- 0A1: 障害の通知 — 特定の文書フローを完了できない通知が参加者からマネージャーに送信されます。

- バックエンド・イベント — 参加者がビジネス文書を正常に受信したこと通知するシステム生成の XML ファイルがマネージャーに送信されます。

除外リストへの参加者の追加

参加者を除外リストに追加するには、次の手順に従います。

1. 「アカウント管理」>「除外リスト」の順にクリックします。「除外リスト」ウィンドウが表示されます。
2. 「参加者名」ドロップダウン・リストから参加者を選択します。参加者とそのビジネス ID のリスト、および除外の状況がコンソールに表示されます。「すべての通知の送信」がデフォルトで選択されています。

除外リストの編集

除外リストの編集が必要な場合があります。例えば、通知をコミュニティー・マネージャーに送信するのを制限する場合があります。

1. 「アカウント管理」>「除外リスト」の順にクリックします。「除外リスト」ウィンドウが表示されます。
2. 「参加者名」ドロップダウン・リストから参加者を選択します。参加者のリスト、参加者のビジネス ID、および除外の状況がコンソールに表示されます。
3. 編集する通知の横にある「編集」アイコンをクリックします。
4. コミュニティー・マネージャーへの送信を制限する通知の下にあるチェック・ボックスをオンにします。「すべての通知の送信」を選択して、すべての送信制限を除去します。

第 4 章 ゲートウェイ・キューの管理

ゲートウェイ・キューを使用すると、ゲートウェイの配信キューに入っている文書を表示できます。配信キューに入っている文書を持つすべてのゲートウェイの表示、キュー内の文書の表示および削除、およびゲートウェイの使用可能化または使用不可化も可能です。

ゲートウェイ・キューは、時間依存の文書をキュー内に滞留させないために使用できます。また、キューに入れられる文書の数が増えすぎないようにするためにも使用されます。ゲートウェイ・キューを使用すると、次の作業が可能になります。

- 配信キューに入っている文書を持つすべてのゲートウェイのリストを表示する。
- 長時間 (30 秒以上) ゲートウェイ・キューに置かれている文書を表示する。これにより、文書自体の問題が示されることもあります。キュー内の文書のトラブルシューティングや削除のために、文書の詳細を表示することもできます。

注: FTP スクリプト記述ゲートウェイを間隔またはカレンダー・スケジュールでインプリメントする場合、文書は、間隔または日付と時刻に達するまで、長時間にわたってこのキュー内にとどまることがあります。これは予想通りの操作であり、文書はキューから削除してはいけません。

- ゲートウェイの詳細を表示して正常な動作を確認する。ゲートウェイ・キューでの文書バックアップは、Delivery Manager またはゲートウェイにおける障害を示している場合があります。
- ゲートウェイの状況を確認する。ゲートウェイがオフラインの場合、文書はゲートウェイがオンラインになるまでキューに集められます。ゲートウェイの状況は、接続の機能には影響を与えません。文書は継続して処理され、配信キューに置かれます。

ゲートウェイ・キューの表示

ゲートウェイに存在する文書のリストを表示するには、次の手順に従います。

1. 「ビューアー」 > 「ゲートウェイ・キュー」の順にクリックします。「ゲートウェイ・キュー」ウィンドウが表示されます。

2. 表 8 に示されているパラメーターを入力します。

表 8. 「ゲートウェイ・キュー」ウィンドウ

検索条件	説明
キューに入っている最小時間	文書がゲートウェイ・キューで待機する最小時間 (分)。例えば、6 分を選択すると、6 分以上配信を待機している文書を持つすべてのゲートウェイが表示されます。デフォルトは 0 です。
キュー内最小項目数	ゲートウェイ・キュー内にある文書の最小数。デフォルトは 1 です。
ソート基準	参加者 (デフォルト)、ゲートウェイ名、または最後に送信されたタイム・スタンプによって検索結果をソートします。
方向	「昇順」をクリックすると、最も古いタイム・スタンプまたはアルファベットの最後から始まる文書から表示され、「降順」をクリックすると、最新のタイム・スタンプまたはアルファベットの先頭から始まる文書から表示されます。
最新表示	最新表示機能をオンまたはオフ (デフォルト) にします。
最新表示頻度	表示されているデータが更新されるまでコンソールが待機する時間 (秒)。

3. 「検索」をクリックします。ゲートウェイにある文書のうち、指定した検索条件に合致するすべての文書が検索されます。表 9 に、検索から戻される情報を示します。

表 9. ゲートウェイ・キュー検索の結果

検索条件	説明
参加者	ゲートウェイに関連した取引パートナー
ゲートウェイ	ゲートウェイの名前
キュー中	ゲートウェイ・キューで配信を待つ文書の数。ゲートウェイ詳細にリンクします。
状態	ゲートウェイの状態がオンラインかオフラインかを示します
最終送信時	文書がゲートウェイに正常に送信された最後の日時

注: Console でゲートウェイを表示するには、ゲートウェイが AND 論理式を使用する検索条件の要件をすべて満たしている必要があります。

キュー内の文書の表示

特定の検索条件に合致するキュー内の文書を検索するには、次の手順に従います。

1. 「ビューアー」>「ゲートウェイ・キュー」の順にクリックします。
2. 「ゲートウェイ・キュー」ウィンドウで、「検索」をクリックします。

3. このウィンドウで、次のパラメーターをすべて入力します。

表 10. ゲートウェイ・キューの検索条件

パラメーター	説明
参加者	文書を受信する取引パートナーの名前
ゲートウェイ	ゲートウェイの名前
参照 ID	システムによって文書に割り当てられた固有の識別番号
文書 ID	ソース参加者によって文書に割り当てられた固有の識別番号
ソート基準	参加者 (デフォルト)、参照 ID、文書 ID によって、またはゲートウェイ・キューに入れられた時間依存文書によって検索結果をソートします。
方向	「昇順」をクリックすると、最も古いタイム・スタンプまたはアルファベットの最後から始まる文書から表示され、「降順」をクリックすると、最新のタイム・スタンプまたはアルファベットの先頭から始まる文書から表示されます。

4. 文書の詳細を表示するには、「参照 ID」をクリックします。文書の詳細を表示しているときに表示される情報の詳細については、オンライン・ヘルプの『文書ビューアーについて』というトピックを参照してください。

配信キューからの文書の削除

次の手順では、配信キューから文書を削除する方法について説明します。キューから文書を削除するには、ハブ管理者としてログインする必要があります。

1. 「ビューアー」 > 「ゲートウェイ・キュー」の順にクリックします。
2. 「ゲートウェイ・キュー」ウィンドウで、「検索」をクリックします。
3. ウィンドウに表示されたパラメーターをすべて入力します (43 ページの表 10 を参照)。
4. 「削除」アイコンをクリックして文書を削除します。

ゲートウェイの詳細の表示

キュー内にある文書のリストなど、特定のゲートウェイの情報を表示するには、次の手順に従います。

1. 「ビューアー」 > 「ゲートウェイ・キュー」の順にクリックします。
2. 「ゲートウェイ・キュー」ウィンドウで、検索条件を入力します (42 ページの表 8 を参照)。
3. 「検索」をクリックします。
4. ゲートウェイのリストから、「キュー内」列にある文書数リンクをクリックします。ゲートウェイの詳細とキュー内にある文書のリストが表示されます。

ゲートウェイ状況の変更

ゲートウェイをオンラインまたはオフラインにするには、次の手順に従います。

1. 「ビューアー」 > 「ゲートウェイ・キュー」の順にクリックします。
2. 「ゲートウェイ・キュー」ウィンドウで、検索条件を入力します (42 ページの表 8 を参照)。

3. 「**検索**」をクリックします。
4. ゲートウェイのリストから、「**キュー内**」列にある文書数リンクをクリックします。ゲートウェイの詳細とキュー内にある文書のリストが表示されます。
5. 「**ゲートウェイ情報**」の「**オンライン**」をクリックしてゲートウェイをオンラインにするか、「**オフライン**」をクリックしてゲートウェイをオフラインにします (ゲートウェイ状況を変更するには、ハブ管理者としてログインしている必要があります)。

第 5 章 文書フローの分析

文書分析ツールを使用すると、状態別（「受信」、「進行中」、「失敗」、「成功」）にシステム内の文書数の詳細な概要が取得できます。検索は、日付、時刻、プロセスのタイプ（宛先プロセスまたは元プロセス）、ゲートウェイ・タイプ、プロトコル、文書フロー、およびプロセス・バージョンによって実行できます。失敗した文書の特定および表示、失敗の原因の調査を行うには、検索結果を使用します。

文書ボリューム・レポートは有効なツールで、ビジネス文書のフローを管理、追跡、およびトラブルシューティングするのに使用されます。レポートでは、指定期間内にシステムで処理された文書のボリュームを表示します。レポートは表示、印刷、または保管（エクスポート）して、他のスタッフ・メンバーに送信できます。このレポートをカスタマイズして、特定の検索条件に基づいて情報を表示できます。

参加者接続のテスト・ツールは、ゲートウェイまたは Web サーバーのテストに使用されます。

この章で説明する機能は次のとおりです。

- 『文書分析』
- 47 ページの『文書ボリューム・レポート』
- 49 ページの『参加者接続のテスト』

文書分析

文書分析ツールを使用すると、状態別に整理された、指定期間内のシステム内の文書数の詳細な概要を取得できます。

検索条件を使用すると、失敗した文書の特定および失敗の原因の調査ができます。

システム内の文書状態の表示

次の表に、さまざまな文書状態を示します。

表 11. 文書状態

状態	説明
受信 進行中	文書はシステムによって受信され、処理待ちの状態です。 文書は現在、次のいずれかの処理ステップにあります。 <ul style="list-style-type: none">• 不完全 例えば、システムが他の文書を待っています。• データ妥当性検査 例えば、システムは文書の内容を検査しています。• 変換 例えば、システムは文書を別のプロトコルに変換しています。• キュー 例えば、文書は参加者またはコミュニティー・マネージャーに経路指定されるのを待っています。
失敗	文書処理は、システムのエラー、データ検証のエラー、または重複のために中断されました。
正常終了	文書処理を完了する最終メッセージがシステムからターゲット参加者に送信されました。

システム内の文書の表示

次の手順では、システムで文書を表示する方法について説明します。

1. 「ツール」 > 「文書分析」をクリックします。
2. 「文書分析の検索」ウィンドウで、ドロップダウン・リストから検索条件を選択します。

表 12 に、表示する文書を決定するために指定できる値を示します。

表 12. 文書の検索条件

値	説明
開始日および開始時刻 (Start Date & Time)	処理が開始された日時。
終了日および終了時刻 (End Date & Time)	処理が完了した日時。
ソース参加者	ビジネス・プロセスを開始した参加者 (コミュニティー・マネージャーのみ)。
ターゲット参加者	ビジネス・プロセスを受信した参加者 (コミュニティー・マネージャーのみ)。
検索場所 ゲートウェイ・タイプ	受信文書フローまたは送信文書フローを検索します。 例えば、すべて、実動、テスト、CPS 参加者、または CPS マネージャー。テストが使用できるのは、テスト・ゲートウェイ・タイプをサポートするシステムのみです。
パッケージ	文書フォーマット、パッケージ化、暗号化、およびコンテンツ・タイプ識別番号について説明します。
プロトコル	参加者に対して使用できる文書プロトコル。
文書フロー	特定のビジネス・プロセス。
ソート基準	受信参加者名または送信参加者名別ソート結果。
最新表示	検索結果が定期的に最新表示されるかどうかを制御します (コミュニティー・マネージャーのみ)。
最新表示頻度	検索結果の最新表示頻度を制御します (コミュニティー・マネージャーのみが使用)。

3. 「検索」をクリックします。「文書分析の要約」が表示されます。

プロセスおよびイベント詳細の表示

次の手順では、プロセスおよびイベントの詳細を表示する方法について説明します。

1. 「ツール」 > 「文書分析」をクリックします。「文書分析の検索」ウィンドウが表示されます。
2. ドロップダウン・リストから検索条件を選択します。
3. 「検索」をクリックします。「文書分析の要約」が表示されます。
4. 表示するソース参加者とターゲット参加者の横にある「詳細の表示」アイコンをクリックします。選択された参加者のすべての文書のリストが表示されます。文書数量は、文書処理状態別に列に整列されます。
5. 「文書分析の要約」に示された個々の文書フローの下で、「受信」、「進行中」、「失敗」、または「正常終了」列の数量リンクを選択します。「文書分析レポート」に文書処理の詳細が提示されます。「失敗」を選択すると、レポートには「文書イベントの要約」も表示されます。

文書ボリューム・レポート

文書ボリューム・レポートは有効なツールで、ビジネス文書のフローを管理、追跡、およびトラブルシューティングするのに使用されます。レポートでは、指定期間内にシステムで処理された文書のボリュームを表示します。レポートは表示、印刷、または保管 (エクスポート) して、他のスタッフ・メンバーに送信できます。

このレポートをカスタマイズして、特定の検索条件に基づいて情報を表示できます。

文書ボリューム・レポートに、現在進行中の文書数が状態別に示されます。

表 13. 文書状態

値	説明
受信合計	システムに受信された文書の合計数。
進行中	進行中の文書はテストおよび検証されています。エラーは検出されませんでした。エラーのために、文書処理が中断しました。
失敗	エラーのために、文書処理が中断しました。
正常終了	文書処理を完了する最終メッセージがシステムからターゲット参加者に送信されました。

次のタスクを実行するには、このレポートを使用します。

- 主要ビジネス・プロセスが完了したかどうかを判断する
- コスト管理のため、プロセスのボリュームの傾向を追跡する
- プロセスの質 (成功と失敗) を管理する
- プロセス効率を追跡する

文書ボリューム・レポートの作成

次の手順では、文書ボリューム・レポートを作成する方法について説明します。

1. 「ツール」 > 「文書ボリューム・レポート」をクリックします。「文書ボリューム・レポートの検索」ウィンドウが表示されます。
2. ドロップダウン・リストから検索条件を選択します。

表 14. 文書ボリューム・レポート検索条件

値	説明
開始日および開始時刻 (Start date & time)	処理が開始された日時。
終了日および終了時刻 (End date & time)	処理が完了した日時。
ソース参加者	ビジネス・プロセスを開始した参加者 (コミュニティー・マネージャーのみ)。
ターゲット参加者	ビジネス・プロセスを受信した参加者 (コミュニティー・マネージャーのみ)。
検索場所 ゲートウェイ・タイプ	受信文書フローまたは送信文書フローを検索します。実動またはテスト。テストを使用できるのは、テスト・ゲートウェイ・タイプをサポートするシステムのみです。
パッケージ	文書フォーマット、パッケージ化、暗号化、およびコンテンツ・タイプ識別番号について説明します。
プロトコル	プロセス・プロトコルのタイプ。例えば、XML、EDI、フラット・ファイル。
文書フロー ソート基準	特定のビジネス・プロセス。 この基準 (文書フローまたはターゲット文書フロー) によるソート結果。
ページごとの結果件数	1 ページに表示されるレコードの数。

3. 「検索」をクリックします。レポートが表示されます。

文書ボリューム・レポートのエクスポート

1. 「ツール」 > 「文書ボリューム・レポート」をクリックします。「文書ボリューム・レポートの検索」ウィンドウが表示されます。
2. ドロップダウン・リストから検索条件を選択します。
3. 「検索」をクリックします。レポートが表示されます。
4. 「レポートのエクスポート」アイコンをクリックしてレポートをエクスポートします。希望する場所へ移動して、ファイルを保管します。

注: レポートはコンマで区切られた値 (csv) ファイルとして保管されます。

レポートの印刷

1. 「ツール」 > 「文書ボリューム・レポート」をクリックします。「文書ボリューム・レポートの検索」ウィンドウが表示されます。
2. ドロップダウン・リストから検索条件を選択します。
3. 「検索」をクリックします。レポートが表示されます。
4. 「印刷」アイコンをクリックしてレポートを印刷します。

参加者接続のテスト

参加者接続のテスト機能を使用すると、ゲートウェイまたは Web サーバーをテストできます。コミュニティー・マネージャーの場合は、特定の参加者を選択することもできます。テストは、ゲートウェイまたは URL へのブランクの POST 要求の送信から構成されます。要求は、Yahoo の URL (www.yahoo.com) をブラウザのアドレス・フィールドに入力するのと似ています。これは何も送信されず、空の要求です。ゲートウェイまたは Web サーバーから受信した応答に、その状況が示されます。

- 応答が戻される場合、サーバーは稼働しています。
- 何も戻されない場合は、サーバーは停止しています。

重要: 参加者接続のテスト機能は、接続パラメーターを必要としない HTTP で作動します。

参加者接続のテストは、次の手順で行います。

1. 「ツール」 > 「参加者接続のテスト」をクリックします。
2. 「参加者接続のテスト」ウィンドウで、ドロップダウン・リストからテスト基準を選択します。

表 15. 参加者接続のテスト値

値	説明
参加者	テストされる参加者 (コミュニティー・マネージャーのみ)。
ゲートウェイ	上記で選択した参加者に基づいて使用可能なゲートウェイを表示します。
URL	上記で選択したゲートウェイに基づいて動的にデータが取り込まれます。
コマンド	Post または Get。

3. 「URL のテスト」をクリックします。テスト結果が表示されます。戻された状況コードの詳細については、次のセクションを参照してください。

Web サーバー結果コード

以下のセクションでは、サーバーの結果コードについて説明します。

200 シリーズ:

- 200 - OK - 伝送は正常終了しました。これはエラーではありません。これは要求したファイルです。
- 201 - Created - 要求は満たされて、新規リソースが作成されました。新たに作成されたリソースは、応答の URL ヘッダー・フィールドで戻された URL で参照でき、「ロケーション」ヘッダー・フィールドで指定されたリソースの最も具体的な URL を持ちます。
- 202 - Accepted - 要求は処理のために受信されましたが、処理はまだ完了していません。
- 203 - Non-Authoritative Information - エンティティ・ヘッダーで戻された META 情報は、元のサーバーから使用できる最終セットではありませんが、ローカルまたはサード・パーティーのコピーから収集されています。
- 204 - No Content - サーバーは要求を満たしましたが、送り返す新規情報はありません。
- 206 - Partial Content - ファイル内のバイトの範囲を要求しましたが、これがその範囲です。これは HTTP 1.1 の新機能です。

300 シリーズ:

- 301 - Moved Permanently - 要求されたリソースに新規の永続的な URL が割り当てられており、このリソースを将来参照するには、戻された URL の 1 つを使用します。
- 302 - Moved Temporarily - 要求されたリソースは、一時的に新規の URL に存在します。新規の URL にリダイレクトします。元のページは移動しました。これはエラーではありません。ほとんどのブラウザは、この結果が表示される場合、新規のページを隠した状態で取り出します。

400 シリーズ:

- 400 - Bad Request - 要求は誤った形式の構文なので、サーバーで認識できませんでした。クライアントにより、無効な要求が行われました。
- 401 - Unauthorized - 要求にはユーザー認証が必要です。応答には、要求されたリソースに適用できるユーザー確認を含む、WWW 認証ヘッダー・フィールドを組み込む必要があります。ユーザーは文書を要求しましたが、有効なユーザー名またはパスワードを指定していません。
- 402 - Payment Required - このコードは現在サポートされていませんが、将来の利用のために予約されています。
- 403 - Forbidden - サーバーは要求を認識しましたが、詳細不明な理由により、要求の実行を拒否しています。この文書に対するアクセスは、明示的に拒否されず (これは、要求するファイルに対して Web サーバーに読み取り権限がない場合に発生することがあります)。サーバーは、このファイルを送信することを拒否します。権限が明示的にオフになっている可能性があります。

- 404 - Not Found - サーバーは、要求された URL に一致するものを検出できませんでした。このファイルが存在しません。これは、ブラウザに誤りのある URL を入力したときに表示されるメッセージです。また、文書を保護するため、許可されていないユーザーにはファイルが存在しないと知らせるようにサーバーが指定されている場合にも、このコードが送信されます。404 エラーは存在しないページを要求した場合の結果であり、間違って入力した URL、ポイント先に存在しなくなったファイルをポイントするブックマーク、robots.txt ファイル (検索エンジンによって索引付けされないページへのマーク付けに使用) を検索する検索エンジン、ファイル名を推測するユーザー、使用するサイトまたは他のサイトからの無効なリンク、などによって発生します。
- 405 - Method Not Allowed - 要求行で指定されたメソッドは、要求 URL で識別されるリソースには許可されません。
- 406 - None Acceptable - サーバーは要求 URL に一致するリソースを検出しましたが、受け入れまたは受け入れエンコード要求ヘッダーで識別される条件を満たすリソースは検出できません。
- 407 - Proxy Authentication Required - このコードは、将来の利用のために予約されています。これは 401 (Unauthorized) と似ていますが、クライアントは最初にプロキシで自分自身を認証する必要があります。HTTP 1.0 には、プロキシ認証の手段はありません。
- 408 - Request Time Out - サーバーが準備していた待機時間内にクライアントは要求を作成しませんでした。
- 409 - Conflict - 要求は、現在のリソースの状態と競合するために、完了できませんでした。
- 410 - Gone - 要求されたリソースはサーバーで使用できなくなり、転送先アドレスが不明です。
- 411 - Authorization Refused - クライアントから提供された要求証明書は、サーバーにより拒否されたか、またはリソースにアクセスする許可を認可するのに不十分です。
- 412 - Precondition Failed
- 413 - Request Entity Too Large
- 414 - Request URI Too Large
- 415 - Unsupported Media Type

500 シリーズ:

- 500 - Internal Server Error - サーバーは、要求を満たすことができない、予期しない条件を検出しました。Web サーバーに何か問題があり、意味のある応答ができませんでした。このエラーを修正するためにブラウザ側から行えることは通常ありません。おそらくサーバー管理者がサーバーのエラー・ログを調べて、何が発生したかを確認する必要があります。これは、正しくコーディングされていなかった CGI スクリプトのエラー・メッセージであることがよくあります。
- 501 - Method Not Implemented - サーバーは、要求を満たすのに必要な機能をサポートしていません。アプリケーション・メソッド (GET または POST) が実装されていません。
- 502 - Bad Gateway - サーバーは、要求を満たそうとしてアクセスしたゲートウェイまたはアップストリーム・サーバーから無効な応答を受信しました。

- 503 - Service Temporarily Unavailable - サーバーは、一時的に過負荷または保守中なので、現在要求を処理できません。サーバーはリソース不足です。
- 504 - Gateway Time Out - サーバーは要求を完了するためにアクセスしたゲートウェイまたはアップストリーム・サーバーから時間内に応答を受信しませんでした。
- 505 - HTTP Version Not Supported

第 6 章 イベントおよび文書の表示

次の機能により、システム全体の正常性を表示できます。イベント解決のためのトラブルシューティング・ツールでもあります。

- 『イベント・ビューアー』
- 56 ページの『AS1/AS2 ビューアー』
- 58 ページの『RosettaNet ビューアー』
- 60 ページの『文書ビューアー』
- 68 ページの『ゲートウェイ・キュー』

RosettaNet ビューアーおよび AS1/AS2 ビューアーには、ハブ管理者用の追加の検索条件が含まれています。詳細については、「ハブ構成ガイド」を参照してください。

イベント・ビューアー

イベントを表示および検索するには、イベント・ビューアーを使用します。

イベントは、システムに何らかの異常が発生したことを知らせます。イベントにより、システム操作または機能が正常であったかどうか（例えば、参加者がシステムに正常に追加されたか、またはコミュニティー・マネージャーと参加者との間の参加者接続が正常に作成されたかなど）がわかります。イベントによって問題を確認することもできます（例えば、システムが文書を処理できなかった、またはシステムが文書内で重要ではないエラーを検出した場合など）。大半の文書は何回か再送されるため、文書に障害が発生してアラートが生成された場合、それは、以後同じような障害が発生するのを防ぐために調査および対応が必要な障害です。

WebSphere Partner Gateway には、事前定義イベントが用意されています。この製品のアラート機能であるアカウント管理モジュールを使用することにより、イベント・ベースのアラートを作成できます。ユーザーにとって重要なイベントを識別できます。その後、同じくアカウント管理モジュールに含まれている連絡先機能を使用して、これらのイベントが発生した場合にシステムから通知されるスタッフのメンバーを識別します。

イベント・ビューアーは、特定の検索条件に基づいてイベントを表示します。特定のイベントを検索して、そのイベントの発生原因を調査できます。イベント・ビューアーを使用すると、時刻、日付、イベント・タイプ（デバッグ、通知、警告、エラー、重大）、イベント・コード（210031 など）、およびイベント・ロケーションごとにイベントを調査できます。

イベント・ビューアーを介して使用できるデータには、イベント名、タイム・スタンプ、ユーザー、および参加者の情報が含まれています。これらのデータは、イベントを作成した文書またはプロセスを識別するのに役立ちます。イベントが文書に関連している場合は、ロー文書を表示することもできます。これにより、フィールド、値、およびエラーの理由を確認できます。

イベント・タイプ

WebSphere Partner Gateway には、表 16 のリストにあるイベント・タイプが用意されています。

表 16. イベント・タイプ

イベント・タイプ	説明
デバッグ	デバッグ・イベントは、下位システムの操作およびサポートのために使用されます。このイベントの可視性および用途は、ユーザーの権限レベルによって変わります。すべてのユーザーがデバッグ・イベントへのアクセス権を所有しているわけではありません。
通知	通知イベントは、システム操作が正常に終了すると生成されます。これらのイベントは、現在処理中の文書の状況を示すときにも使用されます。通知イベントにはユーザー処置は必要ありません。
警告	警告イベントが発生するのは、文書処理またはシステム機能において、動作を継続できる重大ではない異常が発生した場合です。
エラー	エラー・イベントが発生するのは、文書処理においてプロセス強制終了の原因となる異常が発生した場合です。
重大	重大イベントは、システム障害によってサービスが強制終了すると生成されます。重大イベントが生成されると、サポート要員による操作が必要になります。

イベントの検索

1. 「ビューアー」 > 「イベント・ビューアー」の順にクリックします。

イベントは、「イベント・ビューアー検索」ウィンドウの左から右へ重大度の順に編成されます。左側の情報は重大度が最も低いイベント・タイプです。ウィンドウの右側にある「重大」情報は重大度が最も高いイベント・タイプです。イベントを選択すると、そのイベントと、それより重大度の高いすべてのイベントがイベント・ビューアーに表示されます。例えば、検索条件に警告イベント・タイプを選択すると、警告、エラー、重大のイベントが表示されます。通知イベントを選択すると、すべてのイベント・タイプが表示されます。

注: デバッグ・イベントは必ずしもすべてのユーザーに表示されるわけではありません。

2. ドロップダウン・リストから検索条件を選択します。

表 17. イベントの検索条件

値	説明
開始日および開始時刻 (Start date and time)	最初のイベントが発生した日時。
終了日および終了時刻 (End date and time)	最後のイベントが発生した日時。
参加者	すべての参加者または特定の参加者 (コミュニティー・マネージャーのみ) を選択します。
イベント・タイプ	イベントのタイプ。デバッグ、通知、警告、エラー、重大のいずれかです。
イベント・コード	選択されたイベント・タイプに基づいて使用可能なイベント・コードを検索します。
イベント・ロケーション	イベントが生成された場所。すべて、不明、ソース (元)、ターゲット (先) があります。
ソート基準	結果をソートするのに使用する値。
降順	降順または昇順でのソートを指定。
ページごとの結果件数	1 ページに表示されるレコードの数。
最新表示	デフォルト設定はオフです。「最新表示」をオンにすると、イベント・ビューアーはまず新規照会を実行し、その後最新表示モードを持続します。
最新表示頻度	検索結果の最新表示頻度を制御します (コミュニティー・マネージャーのみ)。

3. 「検索」をクリックします。イベントのリストが表示されます。

ヒント: イベント・リストは、「イベント・ビューアー」ウィンドウの上部で選択したイベント・タイプに基づいて、再度フィルター処理できます。次のウィンドウの最新表示を実行すると、新たに選択されたイベント・タイプが反映されます。

イベント詳細の表示

1. 「ビューアー」>「イベント・ビューアー」の順にクリックします。
2. ドロップダウン・リストから検索条件を選択します。
3. 「検索」をクリックします。
4. 表示されたイベントのリストで、表示するイベントの横にある「詳細の表示」アイコンをクリックします。
5. 表示されたイベントの詳細に表示する文書がある場合は、その文書の横にある「詳細の表示」アイコンをクリックします。
6. ロー文書がある場合は、「ロー文書の表示 (Display raw document)」アイコンをクリックしてその文書を表示します。
7. 「検証エラーの表示」アイコンをクリックして検証エラーを表示します。

ヒント: 「イベント・ビューアー詳細」に重複文書のイベントが表示された場合は、「文書の詳細」の「元文書の表示 (View original document)」アイコンをクリックして、以前に送信された元文書を表示します。

AS1/AS2 ビューアー

Applicability Statement 1 または 2 (AS1 または AS2) 通信プロトコルを使用する、パッケージ化された B2B トランザクションおよび B2B プロセスの詳細を表示するには、AS1/AS2 ビューアーを使用します。B2B プロセスと、関連するビジネス文書、確認通知シグナル、プロセス状態、HTTP ヘッダー、および送信済み文書の内容の振り付けを表示できます。

SMTP を使用するデータ伝送の標準を定義する先行版の AS1 と同様に、AS2 は、HTTP を使用するデータ伝送の標準を定義します。

AS2 では、データの接続方法、配信方法、検証方法、およびデータへの応答方法が定められています。AS2 は文書の内容とは対話せず、文書のトランスポートとのみ対話します。AS2 では、HTTP または HTTPS を使用してインターネット経由で文書を伝送できるよう、文書を囲んでラッパーが作成されます。文書とラッパーをまとめてメッセージと呼びます。AS2 には、HTTP パケットのセキュリティを確保し、暗号化を行う機能があります。AS2 は、FTP には存在しないセキュリティ手段も提供します。AS2 の暗号化では、暗号化の基本に確実な配信がプラスされています。

AS2 の重要なコンポーネントは、Message Disposition Notification (MDN) と呼ばれる受信メカニズムです。MDN により、文書の送信側は、受信側が文書を正常に受信したことを確認できます。送信側は、MDN の返送方法 (同期または非同期、および署名付きまたは未署名) を指定します。

注: 暗号化された着信 AS2 文書の復号に失敗すると、障害 MDN は戻されません。この問題を訂正するには、2 つの参加者の AS バイナリー機能間の参加者接続を、使用するかどうかに関係なく、アクティブにする必要があります。AS バイナリー機能が使用可能でない場合は、両参加者間に対して使用可能にして、その参加者間の参加者接続をアクティブにする必要があります。

AS1/AS2 ビューアーを使用すると、文書の詳細だけでなく、メッセージ ID、タイム・スタンプ、文書フロー、ゲートウェイ・タイプ、および同期の状況を表示できます。追加の文書処理情報は、文書の詳細とともに表示されます。

メッセージの検索

1. 「ビューアー」>「AS1/AS2 ビューアー」の順にクリックします。「AS1/AS2 ビューアー」ウィンドウが表示されます。
2. ドロップダウン・リストから、57 ページの表 18 で説明されている検索条件を選択します。

表 18. AS1/AS2 ビューアーの検索条件

値	説明
開始日および開始時刻 (Start Date and Time)	処理が開始された日時。
終了日および終了時刻 (End Date and Time)	処理が完了した日時。
ソース参加者およびターゲット参加者	ソース (開始) 参加者とターゲット (受取) 参加者 (コミュニティー・マネージャーのみ)。 検索の適用範囲をすべての参加者にするか、コミュニティー・マネージャー (参加者のみ) にするかを指定します。
自分の役割は以下	検索する文書の参加者がターゲットかソースか (参加者のみ) を指定します。
開始ビジネス ID ゲートウェイ・タイプ	ソース参加者のビジネス識別番号 (例: Duns)。 実動またはテスト。テストが使用できるのは、テスト・ゲートウェイ・タイプをサポートするシステムのみです。
パッケージ	文書フォーマット、パッケージ化、暗号化、およびコンテンツ・タイプ識別番号について説明します。
プロトコル	参加者に対して使用できる文書フォーマット (例: RosettaNet XML)。
文書フロー メッセージ ID	特定のビジネス・プロセス。 AS1 または AS2 のパッケージ済み文書に割り当てられた ID 番号。検索条件には、アスタリスク (*) のワイルドカードを使用できます。最大長は 255 文字です。
同期フィルター (Synchronous Filter)	同期モードで受信した文書を検索します。これは、イニシエーターと Document Manager との接続が、トランザクション (要求や MDN (Message Disposition Notification) など) が完了するまでオープン状態で維持されることを意味します。
ソート基準 降順または昇順	この値によって結果を並べ替えます。 降順では、最新のタイム・スタンプまたはアルファベットの先頭を最初に表示します。 昇順では、最も古いタイム・スタンプまたはアルファベットの最後を表示します。
ページごとの結果件数	1 ページに表示されるレコードの数を選択するのに使用します。

3. 「検索」をクリックします。メッセージのリストが表示されます。

メッセージの詳細の表示

1. 「ビューアー」 > 「AS1/AS2 ビューアー」の順にクリックします。「AS1/AS2 ビューアー検索」ウィンドウが表示されます。
2. ドロップダウン・リストから検索条件を選択します。
3. 「検索」をクリックします。メッセージのリストが表示されます。
4. 表示するメッセージの横にある「詳細の表示」アイコンをクリックします。システムに、58 ページの表 19 で説明されているメッセージとその関連文書の詳細が表示されます。

表 19. メッセージの詳細

値	説明
メッセージ ID	AS1 または AS2 のパッケージ済み文書に割り当てられた ID 番号。この番号で識別できるのは、パッケージのみです。文書自体には、文書の詳細とともに表示される個別の文書 ID 番号があります。最大長は 255 文字です。
ソース参加者	ビジネス・プロセスを開始する参加者。
ターゲット参加者	ビジネス・プロセスを受け取る参加者。
開始タイム・スタンプ (Initiating Time Stamp)	文書の処理が開始された日時。
ゲートウェイ・タイプ	テストまたは実動。テストが使用できるのは、テスト・ゲートウェイ・タイプをサポートするシステムのみです。
MDN URI	MDN の宛先アドレス。このアドレスには、HTTP URI または E メール・アドレスを指定できます。
MDN 処理テキスト	このテキストは、発信メッセージの受信状況 (正常または失敗) を示します。例を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • Automatic-action/MDN-sent-automatically; processed. • Automatic-action/MDN-sent-automatically; processed/Warning;duplicate-document. • Automatic-action/MDN-sent-automatically; processed/Error;description-failed. • Automatic-action/MDN-sent-automatically;failed:unsupported MIC-algorithms.

5. (オプション) 「ロー文書の表示 (Display raw document)」アイコンをクリックしてロー文書を表示します。

RosettaNet ビューアー

RosettaNet は、e-ビジネス・トランザクションの業界標準を作成した企業グループです。PIP (Participant Interface Process) には、ハブ・コミュニティのメンバー間のビジネス・プロセスが定義されます。各 PIP では、特定のビジネス文書と、コミュニティ・マネージャーと参加者間のビジネス文書の処理方法が定められています。

RosettaNet ビューアーには、文書フローを正常に完了するために必要なサブトランザクションの必要順序が表示されます。RosettaNet ビューアーを使用して表示できる値には、プロセスの状態、詳細、ロー文書、関連するプロセス・イベントなどがあります。

イベントを生成した特定のプロセスを検索するには、RosettaNet ビューアーを使用します。ターゲットのプロセスを特定すると、プロセスの詳細とロー文書を表示できます。

RosettaNet ビューアーは、特定の検索条件に基づいてプロセスを表示します。

RosettaNet プロセスの検索

1. 「ビューアー」 > 「RosettaNet ビューアー」の順にクリックします。

2. 「RosettaNet ビューアー検索」ウィンドウで、ドロップダウン・リストから、表 20 で説明されている検索条件を選択します。

表 20. RosettaNet の検索条件

値	説明
開始日および開始時刻 (Start Date and Time)	処理が開始された日時。
終了日および終了時刻 (End Date and Time)	処理が完了した日時。
ソース参加者およびターゲット参加者	ソース (開始) 参加者とターゲット (受取) 参加者 (コミュニティー・マネージャーのみ)。検索の適用範囲をすべての参加者にするか、コミュニティー・マネージャー (参加者のみ) にするかを示します。
自分の役割は以下	検索する文書の参加者がターゲットかソースか (参加者のみ) を示します。
開始ビジネス ID ゲートウェイ・タイプ	開始参加者のビジネス識別番号 (例: DUNS)。実動またはテスト。テストが使用できるのは、テスト・ゲートウェイ・タイプをサポートするシステムのみです。
プロトコル 文書フロー プロセス・インスタンス ID	参加者に対して使用できるプロトコル。特定のビジネス・プロセス。プロセスに割り当てられた固有の識別番号。検索条件には、アスタリスク (*) のワイルドカードを使用できます。
ソート基準	例えば、受信時刻のタイム・スタンプなどで結果をソートします。
降順または昇順	昇順 - 最も古いタイム・スタンプまたはアルファベットの最後を最初に表示します。 降順 - 最新のタイム・スタンプまたはアルファベットの先頭を最初に表示します。
ページごとの結果件数	1 ページあたりに表示される結果の数を指定します。

3. 「検索」をクリックします。検索条件に一致した RosettaNet プロセスが表示されます。

RosettaNet プロセスの詳細の表示

1. 「ビューアー」>「RosettaNet ビューアー」の順にクリックします。「RosettaNet ビューアー検索」ウィンドウが表示されます。
2. ドロップダウン・リストから検索条件を選択します。
3. 「検索」をクリックします。システムには、60 ページの表 21 で説明されている検索結果が表示されます。

表 21. 文書処理の詳細

値	説明
参加者	ビジネス・プロセスに関与している参加者。
タイム・スタンプ	最初の文書の処理が開始された日時。
文書フロー	特定のビジネス・プロセス (例: RosettaNet (1.1): 3A7)。
ゲートウェイ・タイプ	交換される文書の種類を示します。
プロセス・インスタンス ID	開始コミュニティー・メンバーごとにプロセスに割り当てられる固有の番号。
文書 ID	送信参加者によって割り当てられる専有文書 ID。このフィールドの保管場所は固定されておらず、文書タイプによって異なります。
ソース参加者	開始参加者。
ターゲット参加者	受信参加者。

- 表示する RosettaNet プロセスの横にある「詳細の表示」アイコンをクリックします。選択したプロセスの詳細と関連文書が表示されます。
- 表示する文書の横にある「詳細の表示」アイコンをクリックします。文書とその関連イベントの詳細が表示されます。

ロー文書の表示

この手順を使用して、文書フローに関連付けられたロー文書を表示します。

- 「ビューアー」 > 「RosettaNet ビューアー」の順にクリックします。「RosettaNet ビューアー検索」ウィンドウが表示されます。
- ドロップダウン・リストから検索条件を選択します。
- 「検索」をクリックします。プロセスのリストが表示されます。
- 表示するプロセスの横にある「詳細の表示」アイコンをクリックします。選択したプロセスの詳細と関連文書が表示されます。
- 「文書フロー」の横にある「ロー文書の表示 (Display raw document)」アイコンをクリックして、ロー文書を表示します。

制約事項: ロー文書のうち、100K を超える部分は切り捨てられます。例えば、署名がロー文書 (.rno ファイル) の末尾にあり、ロー文書のサイズが 100K を超えるか、または署名が .rno ファイルの先頭から 100K 以降に存在する場合、署名は文書ビューアーに表示されません。

ヒント:

- 処理できなかった文書のトラブルシューティングを行うには、65 ページの『データ検証エラーの表示』を参照してください。
- ロー文書のビューアーは、HTTP ヘッダーを付けてロー文書を表示します。

文書ビューアー

プロセスを構成する個々の文書を表示するには、文書ビューアーを使用します。検索条件を使用すると、ロー文書や関連の文書処理の詳細およびイベントを表示できます。また、文書ビューアーを使用して、処理に失敗した、または正常に処理された文書を再送することもできます。

文書の検索

1. 「ビューアー」>「文書ビューアー」の順にクリックします。「文書ビューアー検索」ウィンドウが表示されます。
2. ドロップダウン・リストから、表 22 で説明されている検索条件を選択します。

表 22. 文書ビューアーの検索条件

値	説明
開始日	文書フロー・プロセスが開始された日付。
開始時刻	文書フロー・プロセスが開始された時刻。
終了日	文書フロー・プロセスが完了した日付。
終了時刻	文書フロー・プロセスが完了した時刻。
ソース参加者	文書フローを開始した参加者を表します。デフォルトは「すべて」です。
ターゲット参加者	文書フローを受信した参加者を表します。デフォルトは「すべて」です。
検索場所	ソース文書フローまたはターゲット文書フローのどちらで検索するのかを示します。デフォルトは「ソース文書フロー」です。
ゲートウェイ・タイプ	交換される文書の種類を指定します (例えば、実動またはテストの目的で使用されるかどうか)。デフォルトは「すべて」です。
文書状況	システムにおける現在の文書の状況。進行中、正常、または失敗。デフォルトは「すべて」です。
パッケージ	文書フォーマット、パッケージ化、暗号化、およびコンテンツ・タイプ識別番号について説明します。検索対象をリストにあるパッケージに制限します。デフォルトは「すべて」です。
プロトコル 文書フロー 元のファイル名 文書 ID	参加者に対して使用できるプロセス・プロトコルのタイプ。 特定のビジネス・プロセス。 元のファイル名。 ソース参加者によって作成されます。検索条件には、アスタリスク (*) のワイルドカードを使用できます。
参照 ID ソース IP アドレス フィルター	文書状況の追跡のためにシステムで作成される ID 番号。 ソース参加者の IP アドレス。 同期モードで受信した文書を検索します。これは、イニシエーターと Document Manager との接続が、トランザクション (要求と肯定応答、要求と応答など) が完了するまでオープン の状態 で維持されることを意味します。
ソート基準	文書のソートを、ターゲットのタイム・スタンプ、ソース文書フロー、またはターゲット文書フローごとに実行するかどうかを指定します。デフォルトは「ターゲット・タイム・スタンプ」です。また、文書を昇順と降順のどちらでソートするかについても示すことができます。デフォルトは「降順」です。
ページごとの結果件数 降順	1 ページに表示されるレコードの数。 降順または昇順でのソート結果。

注: デフォルトでは警告イベントのみが表示されます。すべてのイベントを参照するには、「デバッグ」を選択します。

3. 「検索」をクリックします。システムには、62 ページの表 23 で説明されている検索結果が表示されます。

注: 参加者という用語は、ビューアー・ウィンドウでコミュニティー・マネージャーなどのハブ・コミュニティー・メンバーを識別するのに使用します。

表 23. 文書の詳細

値	説明
参加者	ビジネス・プロセスに関与するソース (開始) 参加者とターゲット (受取) 参加者。
タイム・スタンプ	文書の処理が開始された日時および終了した日時。
文書フロー	トランザクション処理中のビジネス・プロセス。
ゲートウェイ・タイプ	実動またはテスト。テストが使用できるのは、テスト・ゲートウェイ・タイプをサポートするシステムのみです。
同期	同期モードで受信した文書を識別します。これは、イニシエーターと Document Manager との接続が、トランザクション (要求と肯定応答、要求と応答など) が完了するまでオープン状態で維持されることを意味します。

文書の詳細、イベント、およびロー文書の表示

1. 「ビューアー」 > 「文書ビューアー」の順にクリックします。「文書ビューアー検索」ウィンドウが表示されます。
2. ドロップダウン・リストから検索条件を選択します。
3. 「検索」をクリックします。文書のリストが表示されます。
 - 文書の詳細とイベントを表示するには、関連文書ヘッダーの下に表示される文書の横にある「フォルダーを開く (open folder)」アイコンをクリックします。選択した文書のプロセスの詳細とイベントが表示されます。EDI 交換文書では、エンベロープ解除またはエンベロープからの子 EDI トランザクションがある場合、「文書の子」ソースまたはターゲット・ラジオ・ボタンを選択してそれらを表示することができます。詳細については、63 ページの『EDI 文書の表示』を参照してください。
 - トランスポート・ヘッダー付きのロー文書を表示するには、その文書の横にある「ロー文書の表示 (Display raw document)」アイコンをクリックします。ロー文書の内容が表示されます。

文書の詳細を表示すると、表 24 で説明されている文書処理情報が表示されます。

表 24. 文書ビューアーによって使用可能な文書処理の値

値	説明
参照 ID	システムによって文書に割り当てられた固有の識別番号。
文書 ID	ソース参加者によって文書に割り当てられた固有の識別番号。
文書のタイム・スタンプ	参加者によって文書が作成された日時。
ゲートウェイ	文書が通過するゲートウェイ。
接続文書フロー	参加者のビジネス要件と文書との互換性を確保するために、システムによって文書に実行されるアクション。
ソースおよびターゲット (Source and Target)	ビジネス・プロセスに関与しているソース参加者およびターゲット参加者。
入力タイム・スタンプ	システムが参加者から文書を受信した日時。
終了状態タイム・スタンプ	システムがターゲット参加者に対して文書を正常に送信した日時。

表 24. 文書ビューアーによって使用可能な文書処理の値 (続き)

値	説明
ソースおよびターゲットのビジネス ID (Source and Target Business ID)	ソース参加者およびターゲット参加者のビジネス識別番号 (例: DUNS)。
ソースおよびターゲットの文書フロー (Source and Target Document Flow)	ソース参加者とターゲット参加者との間でトランザクションが処理される特定のビジネス・プロセス。

制約事項: ロー文書のうち、100K を超える部分は切り捨てられます。例えば、署名がロー文書 (.rno ファイル) の末尾にあり、ロー文書のサイズが 100K を超えるか、または署名が .rno ファイルの先頭から 100K 以降に存在する場合、署名は文書ビューアーに表示されません。

ヒント: システムに重複文書のイベントが表示されている場合は、重複文書イベントの横にある青色の矢印アイコンを選択して、以前に送信された元の文書を表示し、「元文書の表示 (View original document)」アイコンをクリックします。

ヒント: 処理に失敗した文書のトラブルシューティングを行う方法については、次のセクションの 65 ページの『データ検証エラーの表示』を参照してください。

EDI 文書の表示

EDI 交換用のパススルー・サポートに加えて、WebSphere Partner Gateway では、EDI 交換のエンベロープ解除とエンベロープをサポートしています。コミュニティー参加者またはコミュニティー・マネージャーから受信すると、EDI 交換文書はエンベロープ解除されます。送られてくる交換からエンベロープ解除されるトランザクション文書は、その他のビジネス文書と同様に WebSphere Partner Gateway によって処理することができます。

WebSphere Partner Gateway は EDI トランザクションをエンベロープし、EDI 交換を生成します。EDI トランザクション文書は、XML、EDI、および ROD 文書を EDI トランザクションに変換することによって生成されます。WebSphere Partner Gateway が受信した EDI 交換からエンベロープ解除された EDI トランザクション文書は、別の EDI トランザクション文書タイプに変換できます。WebSphere Partner Gateway は EDI トランザクション文書を EDI 交換文書にエンベロープしてから、EDI 交換文書を対象となる受信者に送信します。

次のシナリオでは、この情報を見つける方法を示します。

- 64 ページの『EDI 文書ソース・トランザクションの表示』
- 64 ページの『EDI 文書ターゲット・トランザクションの表示』
- 64 ページの『ソースの交換の位置決め』
- 64 ページの『ターゲットの交換の位置決め』

EDI 交換のエンベロープ解除とエンベロープの詳細については、「ハブ構成ガイド」を参照してください。

EDI 文書ソース・トランザクションの表示

WebSphere Partner Gateway では、EDI 交換からの着信 EDI トランザクションをエンベロープ解除します。

結果の EDI トランザクションの子を表示するには、以下のステップを実行します。

1. 「ビューアー」>「文書ビューアー」の順にクリックします。「文書ビューアー 検索」ウィンドウが表示されます。
2. ドロップダウン・リストから検索条件を選択します。
3. 「検索」をクリックします。文書のリストが表示されます。
4. 文書 ID の横にある「詳細の表示」アイコンをクリックします。
5. 文書の子の詳細を表示するには、「文書の子」セクションの「ソース」ラジオ・ボタンをクリックします。

EDI 文書ターゲット・トランザクションの表示

WebSphere Partner Gateway は、発信 EDI トランザクションをエンベロープのため交換へ送付します。

結果の交換に含まれる EDI トランザクションの子を表示するには、以下のステップを実行します。

1. 「ビューアー」>「文書ビューアー」の順にクリックします。「文書ビューアー 検索」ウィンドウが表示されます。
2. WebSphere Partner Gateway が受信する EDI 交換を見つける検索条件を指定します。
3. 「検索」をクリックします。システムにより、検索条件に合うすべての文書のリストが表示されます。
4. 表示する文書の文書 ID の横にある「詳細の表示」アイコンをクリックします。
5. 文書の子の詳細を表示するには、「文書の子」セクションの「ターゲット」ラジオ・ボタンをクリックします。

ソースの交換の位置決め

文書ビューアーを使用して、EDI トランザクションのソース交換を取得できます。

1. 「ビューアー」>「文書ビューアー」の順にクリックします。「文書ビューアー 検索」ウィンドウが表示されます。
2. ドロップダウン・リストから検索条件を選択します。
3. 「検索」をクリックします。文書のリストが表示されます。

各 EDI トランザクションごとにソース交換文書 ID がリストされます。

ターゲットの交換の位置決め

文書ビューアーを使用して、EDI 子トランザクションのターゲット交換を取得できます。

1. 「ビューアー」>「文書ビューアー」の順にクリックします。「文書ビューアー 検索」ウィンドウが表示されます。
2. ドロップダウン・リストから検索条件を選択します。
3. 「検索」をクリックします。文書のリストが表示されます。

4. 文書 ID の横にある「詳細の表示」アイコンをクリックします。
5. 「文書イベント」セクションで「情報」ラジオ・ボタンをクリックします。
6. 「イベント名」列の「エンベロープされた EDI トランザクション (EDI Transaction Enveloped)」の横にある「展開」アイコンをクリックします。
7. 「イベントの詳細」リストからエンベロープ・アクティビティ ID を見つけてコピーします。
8. 「ビューアー」>「文書ビューアー」の順にクリックします。「文書ビューアー検索」ウィンドウが表示されます。
9. エンベロープ・アクティビティ ID を「参照 ID」フィールドに貼り付けて、「検索」をクリックします。

文書ビューアーには、ターゲット交換情報が表示されます。

データ検証エラーの表示

検証エラーが含まれている XML フィールドで色分けされたテキストを使用すると、処理できなかった文書をすばやく検索できます。検証エラーが含まれるフィールドは、赤色で表示されます。ネストされた XML フィールド内で異なる検証エラーが最大 3 種類発生した場合は、表 25 に示す概要どおり、エラー・フィールドを区別するために色が使用されます。

表 25. 色分けされた文書検証エラー

値	説明
赤色	第 1 の検証エラー
オレンジ色	第 2 の検証エラー
緑色	第 3 の検証エラー

ネストされた XML 検証エラーの例を次に示します。

Contactinformation データ・エレメントは、このタグの位置が間違っているので、最初の検証エラーです。正しい位置は、*PartnerRoleDescription* の直後です。

FreeFormText データ・エレメントは、このタグが重複しているので、2 番目の検証エラーです。

John データ・エレメントは、少なくとも 6 文字必要なフィールドなので、3 番目の検証エラーです。

```

<?xml version=?1.0? encoding=?UTF-8??><!DOCTYPE Pip3 A7PurchaseOrderUpdateNotifion
SYSTEM ?3A7_MS_V02_00_PurchaseOrderUpdateNotification.dtd?>
<Pip3A7PurchaseOrderUpdateNotification>
  <fromRole>
    <PartnerRoleDescription>
      <GlobalPartnerRoleClassificationCode>Seller</GlobalPartnerRoleClassificationCode>
      <PartnerDescription>
        <ContactInformation>
          <ContactName>
            <FreeFormText>John</FreeFormText>
            <FreeFormText>John</FreeFormText>
          </contactName>
          <EmailAddress>John@example.com</EmailAddress>
          <telephoneNumber>
            <CommunicationsNumber>+1-234-567-8998-8</CommunicationsNumber>
          </telephoneNumber>
          <facsimileNumber>
            <CommunicationsNumber>+1-234-567-8998-7</CommunicationsNumber>
          </facsimileNumber>
          </ContactInformation>
          <BusinessDescription>
            <GlobalBusinessIdentifier>123456789</GlobalBusinessIdentifier>
            <GlobalSupplyChainCode>InformationTechnology</GlobalSupplyChainCode>
            <BusinessDescription>
              <GlobalPartnerClassificationCode>Carrier</GlobalPartnerClassificationCode>
            </PartnerDescription>
          </PartnerRoleDescription>
        
```

ネストされていない XML 検証エラーの例は次のとおりです。

EmailAddress データ・エレメントは、このタグの位置が間違っているので、最初のネスト化されない検証エラーです。正しい位置は、ContactInformation の直後です。

```
<billTo>
  <PartnerRoleDescription>
    <EmailAddress>frances@sample.com</EmailAddress>
    <ContactInformation>
      <contactName>
        <FreeFormText>String</FreeFormText>
      </contactName>
      <facsimileNumber>
        <CommunicationsNumber>String</CommunicationsNumber>
      </facsimileNumber>
      <telephoneNumber>
        <CommunicationsNumber>+888-999-0000</CommunicationsNumber>
      </telephoneNumber>
    </ContactInformation>
  </billTo>
```

電話番号データ・エレメントは、このフィールドにはさらに国別コードの 2 文字が必要なので、2 番目のネスト化されない検証エラーです。

ロー文書の検証エラーの表示方法について詳しくは、60 ページの『ロー文書の表示』を参照してください。

制約事項: コンソールに表示される内容は、ロー文書の先頭の 100KB のみです。100KB を超える検証エラーは表示できません。

処理中の文書の停止

現在進行中の文書を停止させるには、「プロセスの停止」をクリックします。この機能はハブ管理者ユーザーのみ使用可能です。

注: システムが文書の処理を停止するには、最大で 1 時間かかります。この期間、文書ビューアーは文書の状況を進行中として表示し続けます。

処理に失敗した文書、または正常に処理された文書の再送

処理に失敗した文書は、失敗の原因を修正してから再送できます。また、正常に処理された文書でも、要求があれば再送できます。例えば、バックエンド・システムと接続される前にクライアント・サーバーで元文書が失われた場合には、パートナーが文書の再送を要求する場合があります。この機能はハブ管理者ユーザーのみ使用可能です。

管理者が再送できる文書として 2 つの基本型があります。

- 入力文書は、バックエンドまたは参加者から WebSphere Partner Gateway に入ってくる文書です。これらの文書は、Receiver、文書取得エンジン (DAE)、またはビジネス・プロセス・エンジン (BPE) では失敗する場合があります。
- 出力文書は、WebSphere Partner Gateway からバックエンドまたは参加者へ送られる文書です。これらの文書は、BPE または Delivery Manager で失敗する場合があります。

失敗した入力文書を再送する場合、管理者は入力文書を選択して「再送」ボタンをクリックします。文書は、障害のロケーションに基づいて DAE または BPE から再実行依頼されます。例えば、DAE での入力文書の失敗は、次の場合に発生します。

- 受信した文書サイズが最大サイズ制限よりも大きい。
- 受信した文書の否認防止が失敗した。
- BPE への文書の送信が失敗した。

BPE での入力文書の失敗は、次の場合に発生します。

- 固定インバウンド・ワークフローの失敗
 - アンパック中、メッセージの暗号化解除やシグニチャーの検証時にメッセージの失敗が発生することがあります。これは、パートナーまたはハブで証明書を誤って構成したことによって引き起こされます。
 - B2B 機能がパートナーに対して構成されていない。
- 可変ワークフローの失敗
 - 検証マップが構成されていない。
 - 無効な変換マップが構成されている。

注: 管理者が問題を解決すると、Receiver で失敗した文書が再実行依頼されます。

失敗した出力文書を再送する場合、管理者は出力文書を選択して「再送」ボタンをクリックします。文書は、BPE または Delivery Manager から再実行依頼されます。

出力文書の失敗は、次の場合に発生します。

- BPE 障害で出力文書自体を再実行依頼するのは意味がないので、BPE 障害では入力文書を再実行依頼します。これにより、訂正された BPE フローにおける誤りが確実に取り出されます。訂正は、例えば、変換内にあります。BPE における出力文書の失敗は、固定アウトバウンド・ワークフローの失敗である可能性があります。パートナーまたはハブに対する誤った証明書構成のため、メッセージの暗号化または署名時に、メッセージのパッケージ化が失敗する場合があります。
- Delivery Manager の失敗:
 - 問題が BPE フロー内のエラーである場合は、入力文書を再実行依頼する必要があります。これにより、BPE フロー内の訂正が確実に取り上げられます。例えば、Gateway ターゲット情報が誤っている場合があります。
 - Gateway ターゲット・トランスポートがダウンしていた場合など、その他の原因で失敗が発生した場合は、出力文書の再実行依頼を実行できますが、入力文書も再実行依頼されます。

特に DAE または BPE から、再送を中断するような変更はされていないという基本的な前提事項があります。例えば、入力文書が暗号化されている場合、文書の暗号化解除に必要な証明書は、文書の暗号化に使用された証明書から変更されてはいけません。管理者は、再送で生じる可能性のある結果を認識している必要があります。

文書を再送するには、以下のステップを実行します。

1. 「ビューアー」>「文書ビューアー」の順にクリックします。「文書ビューアー検索」ウィンドウが表示されます。
2. ドロップダウン・リストから検索条件を選択します。
3. 「検索」をクリックします。文書のリストが表示されます。
4. 再送する 1 つまたは複数の文書の横にあるボックスにチェック・マークを付けます。
5. 「再送」をクリックします。

再送が処理されると、確認メッセージを受信します。

ゲートウェイ・キュー

ゲートウェイ・キューを使用すると、ゲートウェイの配信キューに入っている文書を表示できます。配信キューに入っている文書を持つすべてのゲートウェイの表示、キュー内の文書の表示および削除、およびゲートウェイの使用可能化または使用不可化も可能です。詳細は、41 ページの『第 4 章 ゲートウェイ・キューの管理』を参照してください。

第 7 章 実動トラフィックのシミュレーション

Community Participant Simulator (CPS) は、ハブ・コミュニティが稼働する前後に使用可能で、コミュニティ・マネージャーとコミュニティ参加者との実動トラフィック (要求、応答、および確認通知) のシミュレーションを実行します。

CPS の目的は、次のとおりです。

- RN 要求をハブを経由してコミュニティ・マネージャーに送信するコミュニティ参加者をシミュレートする手段を提供する。
- RosettaNet Service Content (RNSC) をハブを経由してコミュニティ参加者に送信するコミュニティ・マネージャー・エンタープライズ・システムをシミュレートする手段を提供する。

コミュニティ・マネージャーは、CPS を使用して、文書のフォーマット設定が正しいことや、文書に有効なビジネス・コンテンツが含まれていることを確認します。

CPS を使用すると、コミュニティ・マネージャーは、バックエンド・アプリケーションからテストを開始したり、参加者にデータの送信を要求したりせずに、バックエンド・システム (ルーターおよび Receiver) をテストできます。その結果、コミュニティ・マネージャーはテスト・システムや技術サポート要員を確保しなくてもテストを実行できます。

テストを開始するには、コミュニティがテスト文書をアップロードします。この機能が使用できるのは、RNIF v2.0 のみです。RNIF 1.1 との互換性はありません。テスト文書は、RosettaNet サービス・コンテンツ・ファイルである必要があります。RosettaNet オブジェクト (RNO) をアップロードすることはできません。サービス・コンテンツは、RosettaNet ビジネス・メッセージのペイロードの主要コンポーネントです。これは、特定の PIP によって指定されたビジネス・コンテンツを表す XML 文書です。ペイロードには、添付ファイルも含まれます。WebSphere Partner Gateway は、テスト文書を使用してルーティング情報や処理情報を識別します。

CPS では、受信肯定応答は生成されません。3A4 確認が CPS に送信されると、Document Manager は 0A1 との交換を終了します。

インストール・プロセスは、テスト・プロセスの間に肯定応答を受け取るためにリンク・ゲートウェイ (つまり、ビット・バケット) を作成します。

```
http://<hostname>:<port#>/console/sink
```

または

```
https://<hostname>:<port#>/console/sink
```

この章を構成するセクションは次のとおりです。

- 70 ページの『テストの準備』
- 71 ページの『テスト・シナリオの設定』

- 74 ページの『要求と応答のアップロードおよび表示』
- 74 ページの『文書フローの開始と表示』

テストの準備

テストを開始する前に、次のタスクを実行しておく必要があります。タスクは、コミュニティ・マネージャーからの要求または応答のいずれか、または参加者からの要求または応答のいずれかのうち、シミュレートしている役割によって異なります。

1. VTP デジタル証明書を次のファイル・システムにコピーします。
/opt/data/vcrouter/vms/security/vtp

この証明書は、CA から取得するか、自己署名することができます。

bcg_console.properties ファイルにある VTP の値を編集します。

bcg.properties ファイルの bcg.certs.vtp.CertificateDir ロケーションを編集します。

WebSphere Partner Gateway は、データベース内の各参加者の VTP デジタル証明書を自動的に読み込むため、これによって管理者はすべての参加者に通知できます。これらの証明書はコンソール上には表示されません。

2. ゲートウェイおよび接続が構成されていることと、これらが正常に機能していることを確認します。
3. ターゲットが使用可能で、メッセージを受け取るための適切な URL で構成されていることを確認します。異なるターゲットには、異なるトラフィックが発生します。ターゲットの URL が誤っていると、文書は処理されません。

この要件が適用されるのは、応答が必要な文書をテストする場合のみです。ターゲットの詳細については、「ハブ構成ガイド」を参照してください。

4. テスト文書のヘッダーに表示されるビジネス ID を確認します。ビジネス ID は、ルーティング・プロセスを駆動し、文書の送信先を制御します。

例えば、文書を自分自身、つまりコミュニティ・マネージャーに送信する場合は、文書ヘッダーの「宛先」ビジネス ID を自分自身のビジネス ID にする必要があります。システムは、「宛先」のビジネス ID を使用して、正しい接続を検索します。

次に示すのは、テスト文書中の「元」ビジネス ID と「宛先」ビジネス ID の例です (関係のない行は削除されています)。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!DOCTYPE Preamble SYSTEM "3A4_MS_V02_02_PurchaseOrderRequest.dtd">
<Pip3A4PurchaseOrderRequest>
  <fromRole>
    <GlobalBusinessIdentifier>987654321</GlobalBusinessIdentifier>
  <toRole>
    <GlobalBusinessIdentifier>567890123</GlobalBusinessIdentifier>
```

テスト・シナリオの設定

CPS を使用することにより、コミュニティー・マネージャーと参加者との間で、表 26 に示されるシナリオをテストできます。

表 26. テスト・シナリオ

シナリオ	接続の宛先	URL
コミュニティー・マネージャーから参加者への片方向アウトバウンド。	VTP_Owner	VTP_OWNER
コミュニティー・マネージャーをシミュレートします。 参加者からコミュニティー・マネージャーへの片方向インバウンド。	VTP_TP	このシナリオには適用されません。
参加者をシミュレートします。 コミュニティー・マネージャーから参加者への両方向アウトバウンド (アップロード要求)。	VTP_Owner	VTP_OWNER
コミュニティー・マネージャーをシミュレートします。 参加者からコミュニティー・マネージャーへの両方向インバウンド (アップロード要求)。	VTP_TP	VTP_TP
参加者をシミュレートします。 コミュニティー・マネージャーから参加者への両方向アウトバウンド (アップロード応答)。	VTP_TP	VTP_TP
参加者をシミュレートします。 参加者からコミュニティー・マネージャーへの両方向インバウンド (アップロード応答)。	VTP_Owner	VTP_Owner
所有者をシミュレートします。		

サンプル・シナリオ

ここでは、2 つの片方向 RosettaNet (RN) 対話をシミュレートするために、CPS の構成に関する手順を説明します。ここでは手順を詳細に説明していません。詳細については、「ハブ構成ガイド」を参照してください。

CPS で使用されるディレクトリーとハブ構成設定が分かり、参加者間のルーティングをデバッグするときに、CPS が役に立つことが良く理解できます。

コミュニティー・マネージャー:

マネージャー用の HTTP シンク・ゲートウェイをセットアップします。これは、次の URL に送信される HTTP ゲートウェイです。

```
http://<console-ip>:<console-port>/console/sink
```

シンク・ゲートウェイは、コミュニティー・マネージャーのデフォルトの CPS 参加者および CPS マネージャー・ゲートウェイとして指定する必要があります。

コミュニティー参加者:

コミュニティー・マネージャー用にセットアップしたように参加者用の HTTP シンク・ゲートウェイをセットアップします。

RosettaNet PIP XML ファイル:

3A4 対話がここで説明するシナリオです。参加者からマネージャーへのシミュレーションでは、3A4 購入注文要求コンテンツを含む XML を使用します。

マネージャーから参加者へのシミュレーションでは、3A4 購入注文確認 RNSC コンテンツに適合する XML を使用します。これらの XML ファイルはローカル・ファイル・システムに存在します。

関連情報については、「ハブ構成ガイド」を参照してください。ファイルを作成する場合は、宛先および受信元 ID が、これらのファイルの該当する場所のコミュニティー・マネージャーおよび参加者のものと一致する必要があります。

コンソールおよびルーター・サーバーの構成:

シミュレーションで暗号化または署名を使用する場合は、公開鍵および秘密鍵証明書のペアが必要です。秘密鍵ストアには p8 フォーマット、公開証明書には der フォーマットを使用します。

1. p8 および der ファイルを common/security/vtp ディレクトリーにコピーします。
2. der ファイルを common/security/ca ディレクトリーにコピーします。
3. コンソールが開始し、ハブ管理者としてログインしたら、der ファイルをルートおよび中間証明書としてアップロードします。
4. コンソール構成を変更して、証明書および鍵ストア・ファイルをポイントします。
5. エディターで、{INSTALL DIR}/console/lib/config/bcg_console.properties ファイルをオープンします。
6. bcg_console.properties ファイル内の VTP (仮想テスト参加者) セクションを特定して、以下の値をユーザーのシステムに該当する値に設定します。以下に示すように、der および p8 ファイル・フォーマットを使用する必要があります。

```
## VTP
```

```
ibm.bcg.certs.vtp.CertificateDir=C:/{INSTALL DIR}/common/security/vtp
```

```
ibm.bcg.certs.vtp.Certificate=testcert.der
```

```
ibm.bcg.certs.vtp.PrivateKey=testkey.p8
```

```
ibm.bcg.certs.vtp.Passwd=password
```

```
ibm.bcg.certs.vtp.VerifySig=false
```

```
ibm.bcg.vtp.RouterIn=C:/{INSTALL DIR}/common/router_in
```

7. bcg_console.properties ファイルを保管します。
8. コンソール・サーバーが実行中の場合は、再始動します。あるいは、今すぐ開始します。
9. ルーター構成が正しくセットアップされていることを確認します。

10. エディターで、{INSTALL DIR}/router/lib/config/bcg.properties ファイルをオープンします。
11. VTP セクションを特定し、vtp.CertificateDir プロパティがコンソールと同じディレクトリーをポイントしていることを確認します。
12. 必要に応じて変更し、ファイルを保管します。
13. ルーター・サーバーが実行中の場合は、再始動します。あるいは、今すぐ開始します。

3A4 接続の構成:

RosettaNet ルーティングを熟知している場合は、以下の手順でコミュニティー参加者とコミュニティー・マネージャー間の RosettaNet 接続を構成します。

RosettaNet ルーティングを熟知していない場合は、以下のタスクを実行するときの支援として、「ハブ構成ガイド」を参照してください。

1. 3A4 対話をサポートする RN および RNSC ファイルをインポートします。

以下のファイルを示された順にアップロードします。ファイルは、インストール CD の /B2Bintegrate/rosettanet ディレクトリーに存在します。

- Package_RNIF_V02.00.zip
 - BCG_Package_RNIFV02.00_3A4V02.02.zip
 - Package_RNSC_1.0_RNIF_V02.00.zip
 - BCG_Package_RNSC1.0_RNIFV02.00_3A4V02.02.zip
2. ハブを経由して送信される 3A4 購入注文要求および確認の機能 (対話と呼ばれる) を定義します。
 3. RNSC コンテンツを使用する参加者 3A4 要求および確認のソースおよびターゲットであるコミュニティー・マネージャーとコミュニティー参加者を構成します。
 4. シミュレートするシナリオをサポートするために、マネージャーと参加者間に参加者接続を確立します。
 5. システムに配置したセキュリティー成果物を使用して、オプションで署名および暗号化を指定するために、接続の属性を設定します。

ファイル・システムにサンプル 3A4 要求 XML と 3A4 RNSC XML ファイルが存在する場合は、コミュニティー参加者シミュレーターを使用してすべての内部ルーティング機能を実行できます。「コミュニティー参加者シミュレーター」タブをクリックして、「参照」ボタンをクリックします。送信するコンテンツを含むファイル・システムからファイルを選択して、「経路」ボタンをクリックします。

文書がファイル・システムから読み取られて、ハブにアップロードされます。その文書がルーティングのために Document Manager に渡され、ハブに構成した経路が使用されます。

要求と応答のアップロードおよび表示

要求および応答を送信するには、システムの機能をテストする必要があります。両タイプの文書のアップロードには、「文書のアップロード」ウィンドウが使用されます。

要求を送信する場合は、この機能の 2 番目のウィンドウである「文書フローの表示」を使用して文書を調べ、この文書が正常に処理されたこと（応答が保留状態のオープン文書であること）を確認します。内部アプリケーションを調べて、文書の受信および処理が正常に実行されたことを確認します。テキスト・エディターを使用して、要求の「宛先」と宛先セクションを編集し、応答を作成します。その後、応答をアップロードします。

応答を送信するときにも、「文書フローの表示」ウィンドウを使用して文書を調べることができます。応答を編集する必要はありません。

「文書フローの表示」ウィンドウには、肯定応答が保留状態の文書は表示されません。

アップロードが完了すると、CPS ビューがルーティング結果のウィンドウに変わり、RosettaNet ビューアーと文書ビューアーへのリンクが表示されます。これらの 2 つのリンクは、便宜のために設定されています。これにより、ルーティング結果を確認する 2 つのビューアーにアクセスできます。数秒間待って、Document Manager がメッセージを処理できるようになってから結果を表示します。

文書フローの開始と表示

この機能を使用すると、片方向および両方向の RosettaNet PIP の開始と受信をシミュレートすることにより、内部アプリケーションをテストする便利な方法を利用できます。

文書フローを開始するには、次の手順に従います。

1. 「**Community Participant Simulator**」 > 「**文書フローの開始**」の順にクリックします。「文書のアップロード」ウィンドウが表示されます。
2. アップロードする RosettaNet サービス・コンテンツ文書を探す場合は、「**参照**」をクリックします。この文書には、デジタル署名が必要です。
3. 「**経路**」をクリックして、テスト・プロセスを開始します。文書は、文書のルーティング情報に基づいて、システムを介して適切な宛先に送信されます。
 - 文書が正常に送信されると、RosettaNet および文書ビューアーへのリンクのついたメッセージが表示されます。これらのリンクは、文書の送信の進行状況を追跡するときに使用します。
 - 文書の送信中にエラーが発生した場合は、システム生成イベントのリストを含むエラー・メッセージが表示されます。この情報を使用して文書内のエラーを修正し、CPS を使用して文書を再送信します。
4. 片方向シナリオのシミュレーションをしている場合、テストはこれで完了です。

オープン文書の検索

1. 「Community Participant Simulator」 > 「文書フローの表示」の順にクリックします。
2. 「詳細の表示」アイコンをクリックして、オープン文書フローを表示します。「オープン CPS 文書フロー (Open CPS Document Flow)」ウィンドウが表示されます。
3. 「ロー文書の表示 (display raw document)」アイコンをクリックしてロー文書を表示します。

オープン文書への応答

1. テキスト・エディターを使用して、応答文書が必要なプロセスの宛先や宛先セクションを編集 (VTP_OWNER を VTP_TP に変更、または VTP_TP を VTP_OWNER に変更) し、ターゲットの URL を適切に変更します。テストのシナリオについて詳しくは、表 27 を参照してください。

表 27. テスト・シナリオ

シナリオ	接続の宛先	URL
コミュニティ・マネージャーから参加者への両方向アウトバウンド (アップロード要求)。	VTP_TP	VTP_TP
コミュニティ・マネージャーをシミュレートします。		
参加者からコミュニティ・マネージャーへの片方向インバウンド。	VTP_OWNER	VTP_OWNER
参加者をシミュレートします。		
コミュニティ・マネージャーから参加者への両方向アウトバウンド (アップロード応答)。	VTP_OWNER	VTP_OWNER
参加者をシミュレートします。		
参加者からコミュニティ・マネージャーへの両方向インバウンド (アップロード応答)。	VTP_TP	VTP_TP
コミュニティ・マネージャーをシミュレートします。		

2. 「Community Participant Simulator」 > 「文書フローの表示」の順にクリックします。
3. 応答文書が必要な文書の横にある「応答」をクリックします。
4. 「参照」をクリックし、編集済みの文書を選択します。
5. 「経路」をクリックします。文書は、文書に含まれているルーティング情報に基づいて、システムを介して適切な宛先に送信されます。
6. 「文書フローの表示」をクリックして、文書を表示します。

オープン文書の削除

1. 「Community Participant Simulator」 > 「文書フローの表示」の順にクリックします。

2. 表示されている文書の横にある「**除去**」をクリックします。文書がシステムから削除されます。

第 8 章 アーカイブ

この章には、WebSphere Partner Gateway ユーザー用のデータ・アーカイブ管理情報が記載されています。タスクを実行する前には、この章全体をお読みください。

この章を構成するセクションは次のとおりです。

- 『アーカイブ・データ』
- 80 ページの『ファイル・システム・ログとデータベース・ログのアーカイブおよびパーシ』
- 84 ページの『データの復元』
- 85 ページの『旧ファイルの除去』
- 85 ページの『状態エンジン・テーブルからのデータの除去』
- 85 ページの『サマリー・テーブルからのデータの除去』
- 86 ページの『ロギング・テーブルからのデータの除去』

アーカイブ・データ

WebSphere Partner Gateway では、アーカイブを使用して非アクティブ (否認防止) コンテンツを安全なメディアに移動します。アーカイブは、LG_MSG_ARCHIVE および LG_CERT_ARCHIVE テーブルからの旧データを除去して構成されます。また、ペイロード・データ・ファイルをファイル・システム上の否認防止ストアからアーカイブに移動します。アーカイブ・ファイルは、否認防止データが必要な場合は復元できます。

注意: 特定のデータベース・テーブルをパーシすると、システムに保管されているファイルについての情報が除去されます。データベース・テーブルをパーシする前に、85 ページの『旧ファイルの除去』を参照してください。

1. export スクリプトを実行して、テーブルからアーカイブにデータをコピーします。

Oracle

Oracle の場合、データベースをエクスポートするには、catexp.sql または catalog.sql スクリプトを実行する必要があります。詳細については、Oracle 資料を参照してください。catexp.sql または catalog.sql スクリプトは、データベースで 1 回だけ実行する必要があります。次のエクスポートを実行する前に、再実行する必要はありません。

注: スクリプト・ファイルの実際の名前は、オペレーティング・システムにより異なります。スクリプト・ファイル名とそれを実行するメソッドは、ご使用の Oracle オペレーティング・システム固有の資料に説明されています。

export を使用する前に、以下について確認してください。

- catexp.sql または catalog.sql スクリプトを実行する。

- エクスポート・ファイルを書き込むのに十分なディスクまたは磁気テープ・ストレージがある。
- 必要なアクセス権がある。

export スクリプトは、Oracle クライアントがインストールされているシステムから実行する必要があります。また、ORACLE HOME、ORACLE SID、および ORACLE PATH 環境変数を定義する必要もあります。スクリプトは、ご使用のプラットフォームに応じて、以下の場所のいずれかに格納されています。

UNIX: /opt/{INSTALL DIR}/DBLoader/scripts/Oracle/export.sh

Windows: %INSTALL DIR%\DBLoader\scripts\Oracle\export.bat

export スクリプトは、Oracle の場合、次のパラメーターを使用します。

- システム・パスワード
- 接続ストリング
- 宛先ディレクトリー
- スキーマ名
- カットオフ日付、書式: YYYYMMDD

export スクリプトの構文:

```
./export <system password> <connect string>
<destination directory> <schema name> <cut off date YYYYMMDD>
```

export スクリプトの例:

```
./export password connectstring /tmp bcgapps 20030101
```

export.dmp という名前のアーカイブおよび export.log ファイルが /tmp/20030101 フォルダーに追加されます。

DB2

export スクリプトは、データベースとの接続を確立後、DB2 コマンド・ウィンドウから実行する必要があります。スクリプトは、ご使用のプラットフォームに応じて、以下のいずれかの場所にあります。

UNIX: /opt/{INSTALL DIR}/DBLoader/scripts/DB2/export.sh

Windows: %INSTALL DIR%\DBLoader\scripts\DB2\export.bat

export スクリプトは、DB2 の場合、次のパラメーターを使用します。

- カットオフ日付 YYYY-MM-DD
- アーカイブ・ロケーション
- データベース名
- データベース・ユーザー名
- データベース・パスワード

export スクリプトの構文:

```
./export <cutoff date YYYY-MM-DD> <archive location>
<database name> <database user name> <database password>
```

export スクリプトの例:

```
./export 2003-01-01 /tmp bcgapps bcgapps  
db2inst1 pa55word
```

注: export スクリプトにより SQL3100W 警告が表示されますが、無視しても差し支えありません。

アーカイブおよび msgarchive.txt ログ・ファイルが、/tmp/2003-01-01 フォルダに追加されます。

- archive スクリプトを実行して、ペイロード・データ・ファイルをファイル・システム上の否認防止ストアからアーカイブにコピーします。スクリプトは、否認防止ファイル・ストレージ・システムの存在するマシンで実行する必要があります。スクリプトは、ご使用のプラットフォームに応じて、以下のパスのいずれかに格納されています。

UNIX: /opt/{INSTALL DIR}/bin

Windows: %INSTALL DIR%\bin

- setenv スクリプトを実行して、PATH および CLASSPATH 変数が正しく設定されていることを確認します。
- DBArchiveParams.properties ファイルは、すべての必要な情報を取得するために archive スクリプトで使用されます。DBArchiveParams.properties ファイルを編集して、正しいパラメーターが渡されることを確認します。詳細については、サンプル項目を参照してください。正しいデータベース・タイプに対応する項目を確認してください。カットオフ日付はステップ 1 と同じでなければなりません。DB_ARCHIVE_TASK パラメーターは 1 に保持する必要があります。
- archive スクリプトを実行します。コピー操作の結果は、DBOutput.txt ファイルで指定されている宛先ディレクトリーに保持されます。

注意:

上記のステップ 1 および 2 では、データ・ストアからアーカイブ・ロケーションにデータをコピーします。ステップ 3 と 4 では、データ・ストアからデータが除去されるので、コピー操作が正常に終了するまでは実行しないでください。

- DBArchiveParams.properties の DB_ARCHIVE_TASK パラメーターを 0 に設定します。
- archive スクリプトをもう一度実行して、ペイロード・データ・ファイルをファイル・システム上の否認防止ストアからパーズします。

スクリプトは、否認防止ファイル・ストレージ・システムの存在するマシンで実行する必要があります。またこのスクリプトは、管理者または root 権限で実行する必要もあります。

- AR_NONREP_MAINTENANCE データベース・ストアード・プロシーチャーを実行して、LG_MSG_ARCHIVE および LG_CERT_ARCHIVE テーブルからアーカイブ・データをパーズします。入力パラメーターとしてカットオフ日付を使用します。このストアード・プロシーチャーはデータベースで使用可能で、インストール時に追加されます。

AR_NONREP_MAINTENANCE ストアード・プロシージャの構文:

```
Oracle: execute AR_NONREP_MAINTENANCE(YYYY-MM-DD)
```

```
DB2: call AR_NONREP_MAINTENANCE(YYYY-MM-DD)
```

ファイル・システム・ログとデータベース・ログのアーカイブおよびパージ

WebSphere Partner Gateway の運用効率を維持するには、次の手順を使用して、ファイル・システム・ログ・ファイルおよびデータベース・ログ・ファイルをアーカイブまたはパージします。

アプリケーション・ログ・ファイルのパージ

アプリケーション・ログ・ファイルは、受信側、コンソール、およびルーターの 3 つの領域に置かれています。

例えば、次のようになります。

```
{INSTALL DIR}/logs/<bcgreceiver, bcgconsole、および bcgdocmgr>
```

アプリケーション・ログ・ファイルをパージするには、次のステップを実行します。

1. 該当するコンポーネントを停止します。5 ページの『Community Console の停止』または 5 ページの『Receiver および Document Manager の停止』を参照してください。
2. 必要に応じて不要なログ・ファイルを除去します。

否認防止ディレクトリーのパージ

否認防止ファイルおよびディレクトリーは、ディレクトリー: {INSTALL DIR}/common/non_rep/ に配置されています。ディレクトリー内の 0 から始まる最も古いファイルのアーカイブから始め、番号を大きくしてより新しいファイルをアーカイブしていきます。

1. Document Manager を停止します。5 ページの『Receiver および Document Manager の停止』を参照してください。
2. UNIX の tar コマンドまたは WinZip を使用して、ファイルを圧縮します。
3. 必要であれば、ファイルを外部メディア・ソースに移動してオフサイトで保管します。

データベース・テーブルのパージ

必要に応じて特定のデータベース・テーブルをパージできますが、適切なシステム機能性を維持するために、他のテーブルは変更しないでください。BP_ および LG_ で始まるテーブルはパージできますが、次の 2 つの例外があります。つまり、_QUE および _HIST で終わる BP_ テーブルは RosettaNet エンジンで継続して保守されるので、変更しないでください。_QUE で終わる BP_ テーブルはキュー・テーブルで、_HIST で終わる BP_ テーブルはアーカイブに使用されるヒストリー・テーブルです。例えば、BP_RNSTATEHDR_QUE テーブルは BP_RNSTATEHDR_HIST テーブルにアーカイブされます。

CG_ または PR_ で始まるテーブルには構成データまたはプロファイル・データが格納されており、システムの機能を適正に維持するために、これらのテーブルも未変更の状態を保つ必要があります。

RosettaNet および AS1/AS2 状態エンジンのアーカイブ機能およびページ機能

テーブル・データのページ条件は、データをオンライン状態で保持する日数に基づいています。_Hist で終わるテーブル内のデータは、日次でアーカイブされ、ページされます。また、ログ情報もすべて毎日切り捨てられます。

ページ条件には、p_days という入力パラメーターが 1 つだけ含まれています。このパラメーターは、データがオンラインで保持される日数を表します。

テーブル	ヒストリー・テーブル	アクション
RosettaNet		
BP_rmStateHdr	BP_rmStateHdr_Hist	ページ
BP_rmStateDtl	BP_rmStateDtl_Hist	ページ
BP_Sponsor_State	BP_Sponsor_State_Hist	ページ
BP_rmStateHdrAuditLog	なし	切り捨て
AS1/AS2		
BP_State_Hdr	BP_State_Hdr_Hist	ページ
BP_AS_State_Hdr	BP_AS_State_Hdr_Hist	ページ
BP_AS_State_Dtl	BP_AS_State_Dtl_Hist	ページ

データ保存期間

プロシーチャーは、ヘッダーのレコード作成日と p_days 入力パラメーターとの組み合わせに基づいて、データをページします。TPA がヘッダーに保管した実行時間は考慮されません。p_days パラメーターが最大値 (実行時間/1440) より大きいことを確認するのは DBA の役割です。実行時間は分単位で保管されます。

BP_ テーブルのデータは、p_days または ((実行時間/1440) + 1 日) のいずれか長い方の期間、オンライン上に保持することをお勧めします。BP_DupCheck および BP_RnMsgDigest テーブルのデータは、7 日間保持してください。BP_Process_Log のデータは、2 日間保持してください。

DB で始まる名前のテーブルは、DB_ProcAuditLog を除いてメタデータ・テーブルです。DB_ProcAuditLog をオンにした場合は、このログを毎日ページまたは切り捨てるか、ユーザーの必要に応じてページまたは切り捨てる必要があります。このログは、主に開発環境や QA 環境で使用するので、通常は実動環境ではオフにします。

ログ・テーブルとサマリー・テーブル

LG_EventCd、LG_Media、および LG_media_Cfg を除いて、LG_ で始まる名前のテーブルはログ・テーブルとサマリー・テーブルです。これらはメタデータ・テーブルで、システムの機能を適正に維持するために、未変更の状態を保つ必要があります。LG_Access_ で始まるテーブルは、WebSphere Partner Gateway では使用されなくなっています。

次のログ・テーブルのアーカイブおよびパージは、アクティビティ ID に基づいて実行できます。駆動テーブルは LG_Activity になります。createdate または RcvDocTS を使用して、データをオンライン上に保持する日数を指定できます。RcvDocTS は索引付きの列であるため、選択した方がよいオプションです。データがオンライン上に保持される期間は、7 日間か ((実行時間/1440) + 1 日) のいずれか長い方になります。

テーブル	注
LG_ACTIVITY	
LG_ACTIVITY_DTL	
LG_ACTIVITY_ENDSTATE	
LG_ACTIVITY_RNDTL	
LG_ACTIVITY_RNHDR	
LG_AS_DTL	
LG_AS_HDR	
LG_ACTIVITY_EVENT	LG_Activity を LG_event にリンクします。
LG_EVENT	
LG_EVENT_EVENTSUMMARY	LG_Event を LG_EventSummary および LG_EventSummary にリンクします。DRILLDOWNFLG を使用して、ドリルダウンが使用できないことを指定できます (4.2.1 および 4.2.2 のプロシージャーには実装されていません)。
LG_ACTIVITY_SUMMARY	LG_Activity を LG_Summary および LG_Summary にリンクします。DRILLDOWNFLG を使用して、ドリルダウンが使用できないことを指定できます (4.2.1 および 4.2.2 のプロシージャーには実装されていません)。

次のログ・テーブルは、作成日に基づいてパージできます。

テーブル	注
LG_Delivery_Log	createdate から 1 日以上経過したレコードをパージできます。
LG_DM_Doc_Lock	createdate から 1 日以上経過したレコードをパージできます。
LG_Msg_Archive	createdate から 7 日以上経過したレコードをパージできます。
LG_STACKTRACE	createdate から 7 日以上経過したレコードをパージできます。
LG_SYNCH_REQ_RESP	createdate から 7 日または ((実行時間/1440)+1 日) のいずれか長い期間が経過したレコードをパージできます。

LG_VALIDATION createdate から 7 日以上経過したレコードをパージ
できます。

LG_VTP_STATUS createdate から 7 日以上経過したレコードをパージ
できます。

次のサマリー・テーブルは、システムの機能を適正に維持するために、未変更の状
態を保つ必要があります。

テーブル **注**

イベント・サマリー・テーブル

LG_EVENTSUMMARY

LG_EVENTSUMMARY_XREF

プロセス・サマリー・テーブル

LG_PROCESSSUMMARY_AS

LG_PROCESSSUMMARY_AS_MI

LG_PROCESSSUMMARY_AS_XREF

LG_PROCESSSUMMARY_RN

LG_PROCESSSUMMARY_RN_MI

LG_PROCESSSUMMARY_XREF

文書サマリー・テーブル

LG_DOCPROCESSING_SUMLG_MSGLENGTH_SUMMARY

LG_SUMMARY

LG_SUMMARY_MI

LG_SUMMARY_PROCESSSUMMARY

LG_Sum_Xref_Lnk を LG_ProcessSummary_Xref に
リンクします。

LG_SUMMARY_RN

LG_SUMMARY_RN_MI

LG_SUM_XREF_LNK

LG_SUM_XREF_PART および
LG_SUM_XREF_PRCS を LG_Summary にリンクし
ます。

LG_SUM_XREF_PART

LG_SUM_XREF_PRCS

メッセージ長サマリー

LG_MSGLENGTH_SUMMARY

データの復元

データベースにデータを復元するには、次のステップを実行します。

1. import スクリプトを実行して、データをデータベースにコピーします。

Oracle

import スクリプトは、Oracle クライアントが稼働するマシンから実行する必要があります。スクリプトは次のディレクトリーに格納されています。

UNIX: {INSTALL DIR}/DBLoader/scripts/Oracle/import.sh

Windows: {INSTALL DIR}¥DBLoader¥scripts¥Oracle¥import.bat

import スクリプトは、Oracle の場合、次のパラメーターを使用します。

- Oracle ユーザー・システム・パスワード
- 接続ストリング
- アーカイブ・ロケーション

DB2

import スクリプトは、データベースに接続した後、DB2 コマンド・プロンプトから実行する必要があります。スクリプトは次のディレクトリーに格納されています。

UNIX: {INSTALL DIR}/DBLoader/scripts/DB2/import.sh

Windows: {INSTALL DIR}¥DBLoader¥scripts¥DB2¥import.bat

import スクリプトは、DB2 の場合、次のパラメーターを使用します。

- アーカイブ・ロケーション
- スキーマ名
- データベース名
- データベース・ユーザー名
- データベース・ユーザー・パスワード

import スクリプトの構文:

```
./import.sh <archive location> <schema name>  
<database name> <database user name> <database password>
```

import スクリプトの使用例:

```
./import.sh /tmp/2003-01-01 db2inst1 bcgapps  
db2inst1 pa55word
```

2. Restore スクリプトを実行して、ペイロード・ファイルを復元します。スクリプトは次のディレクトリーに格納されています。

UNIX: {INSTALL DIR}/bin

Windows: {INSTALL DIR}¥bin

Restore スクリプトは、次のパラメーターを使用します。

- アーカイブの場所です。例えば、C:\tmp
- 77 ページの『アーカイブ・データ』、ステップ 2 のログ・ファイル DBOutput.txt のロケーション。例: %Installers%\DBOutput.txt

このプログラムは、否認防止ファイル・ストレージ・システムの存在するマシンで、admin/root 権限で実行する必要があります。

旧ファイルの除去

DB_MODULE セットを MSGSTORE として指定して、archive スクリプトを使用します。これにより、旧ファイルがメッセージ・ストアから除去されます。このスクリプトは、メッセージ・ストアのファイル・ストレージ・システムの存在するマシンで実行する必要があります。

注意:

LG_MSG_ARCHIVE がすでにパージされている場合は、ファイルのロケーションがデータベースから消失します。アーカイブする前にメッセージ・ストアをパージしてください。

状態エンジン・テーブルからのデータの除去

状態エンジン・テーブルからデータを除去するには、AR_STATEENGINE_MAINTENANCE ストアド・プロシージャを使用します。データを入力パラメーターとして保存する日数を指定します。その日数より前のレコードはすべてデータベースから除去されます。デフォルトは 7 日です。

構文:

DB2:

```
call AR_STATEENGINE_MAINTENANCE(<number of days data will be retained>)
```

例: call AR_STATEENGINE_MAINTENANCE(15)

Oracle:

```
execute AR_STATEENGINE_MAINTENANCE(<number of days data will be retained>)
```

例: execute AR_STATEENGINE_MAINTENANCE(15)

サマリー・テーブルからのデータの除去

サマリー・テーブルからデータを除去するには、AR_SUMMARY_MAINTENANCE ストアド・プロシージャを使用します。入力パラメーターとしてカットオフ日付を使用します。

構文:

DB2:

```
call AR_SUMMARY_MAINTENANCE(<cut-off date, format: 'YYYY-MM-DD'>)
```

例: call AR_SUMMARY_MAINTENANCE('2005-10-21')

Oracle:

```
execute AR_SUMMARY_MAINTENANCE(<cut-off date, format:'DD-MON-YY'>)
```

例: execute AR_SUMMARY_MAINTENANCE('21-OCT-2005')

ロギング・テーブルからのデータの除去

ロギング・テーブルからデータを除去するには、AR_PURGE_HEADERS ストアド・プロシージャを使用します。入力パラメーターとしてカットオフ日付を使用します。

構文:

DB2:

```
call AR_PURGE_HEADERS(<cut-off date, format:'YYYY-MM-DD'>)
```

例: call AR_PURGE_HEADERS('2005-10-21')

Oracle:

```
execute AR_PURGE_HEADERS(<cut-off date, format:'DD-MON-YY'>)
```

例: execute AR_PURGE_HEADERS('21-OCT-2005')

第 9 章 トラブルシューティング

この章では、問題を特定して解決するために使用できるトラブルシューティング情報を示します。障害発生時イベントおよびこれに対応する説明のリストは、付録 B を参照してください。

この章のトピックは次のとおりです。

- 『暗号化された大容量 AS 文書の処理時間の長期化防止』
- 87 ページの『メモリー不足エラーの回避』
- 88 ページの『複数言語のデータの照合』
- 89 ページの『DB2 エージェント用の十分な仮想メモリーの確保』
- 89 ページの『現行構成のエクスポートによるサポート』
- 90 ページの『サーバー開始時の DB2 SQLCODE -444 エラーの修正』
- 91 ページの『ポリモアフィック文書のルーティング時の DB2 SQLCODE -444 エラーの修正』
- 91 ページの『ログ・ファイルの JMS 例外メッセージの修正』
- 91 ページの『システム性能の不良と処理していないイベントの修正』
- 92 ページの『コンソール・ヘルプが選択時に表示されない』
- 93 ページの『Receiver タイムアウト設定の増加』
- 93 ページの『データベース照会効率の最適化』
- 93 ページの『処理トランザクション・ロールバック・エラー』
- 94 ページの『破損後のルーターの再始動』
- 94 ページの『マシン・シャットダウン後のシステムの始動』
- 96 ページの『データ検証エラーが生成された 0A1』

暗号化された大容量 AS 文書の処理時間の長期化防止

暗号化された大容量の AS 文書を一部の低位モデルのハードウェア構成で処理すると、処理に長い時間がかかることがあります。遅延を防止するため、次の処置を行ってください。

1. AS 圧縮属性を「はい」に設定して、送信する文書のサイズを小さくします。
2. 『メモリー不足エラーの回避』のセクションに記載されている手順に従って、メモリー・サイズを増加し、暗号化された文書の処理速度を向上させます。

メモリー不足エラーの回避

ルーティングのパフォーマンスを向上し、メモリー不足エラーを回避するには、次のスクリプトを使用してヒープ・サイズの初期値および最大値を変更します。

以下のコマンドを入力して、現在のヒープ・サイズを照会します。

```
{INSTALL DIR}/bin/bcgwsadmin.sh -conntype  
NONE -f {INSTALL DIR}/scripts/bcgQueryJVMHeapAttrs.jacl
```

以下のコマンドを入力して、最小/最大ヒープ・サイズを設定します。

```
{INSTALL DIR}/bin/bcgwsadmin.sh -conntype  
NONE -f {INSTALL DIR}/scripts/bcgSetJVMHeapAttrs.jacl
```

説明に従って bcgSetJVMHeapAttrs.jacl ファイルを編集し、ヒープ・サイズを推奨値に変更します。

デフォルト値:

- Xms=50
- Xmx=256

第 1 の推奨値:

- Xms=256
- Xmx=512

第 2 の推奨値:

- Xms=256
- Xmx=1024

複数言語のデータの照合

WebSphere Partner Gateway は、基盤となるデータベースに依存してデータを照合します。ご使用のインストール・システムが複数言語をサポートする場合は、ユニコード・データが正しくソートされません。このセクションの内容を検討してください。

DB2

DB2 上での WebSphere Partner Gateway 6.0 では、UCA400_NO 照合設定を使用しています。DB2 バージョン 8.2 は、すべての言語に対してすべての特殊な場合 (ユニコード標準バージョン 4.00 技術標準 #10 で説明) をサポートしません。このような場合は、DB2 に直接接続してください。

Oracle

Oracle データベースでは、照合シーケンスに応じた動的変更を行うことができます。この機能を使用するため、WebSphere Partner Gateway は NLS_SORT セッション変数の値を現行ユーザーのロケールに応じて変更します。表 28 に、可能なユーザー・ロケール、サポートされる WebSphere Partner Gateway の言語、およびそれぞれに対応する NLS_SORT 値を示します。この情報は、PR_LOCALE データベース・テーブルに保管されています。

表 28. ロケール情報

ブラウザーのロケール	言語	NLS_SORT 値
pt_BR	ブラジル/ポルトガル	BINARY
zh	中国語	SCHINESE_RADICAL_M
en_US	英語	BINARY
fr	フランス語	FRENCH_M
de	ドイツ語	XGERMAN

表 28. ロケール情報 (続き)

ブラウザのロケール	言語	NLS_SORT 値
it	イタリア語	BINARY
ja	日本語	JAPANESE_M
ko	韓国語	KOREAN_M
es	スペイン語	SPANISH_M
zh_TW	中国語 (繁体字)	TCHINESE_RADICAL_M
その他	その他	BINARY

DB2 エージェント用の十分な仮想メモリの確保

WebSphere Partner Gateway ログに存在する以下のエラーは、データベース・エージェントがソート処理に使用できる仮想メモリが不十分であることを示します。この状況を修正するには、WebSphere Partner Gateway 用に作成したデータベースの SORTHEAP パラメーターの値を減らします。ご使用の環境にこのパラメーターを設定する方法の詳細については、データベース管理者にお問い合わせください。

不十分な仮想メモリ・エラーの例を次に示します。

```
Error[DBChannelCheck] [main Thread 2] - Error in channel check for
com.ibm.bcg.channel.CheckChannelParameters@ebda9664
com.ibm.ejs.cm.portability.ResourceAllocationException: DB2 SQL error:
SQLCODE: -955, SQLSTATE:57011, SQLERRMC: null
```

```
ERROR [BPEEngine] [main Thread 2] - BPE:
```

```
ERROR [BPEEngine] [main Thread 2] -
java.lang.ArrayIndexOutOfBoundsException: 0
```

```
ERROR [BPEEngine] [main Thread 2] - Error closing
transConn.com.ibm.ejs.cm.exception.WorkRolledbackException: Outstanding
work on this connection which was not committed or rolledback by the user
has been rolledback.
```

現行構成のエクスポートによるサポート

IBM サポート担当員は、検討するためにユーザーの構成情報を担当者側にエクスポートするように依頼する場合があります。この処理は、{INSTALL DIR}¥bin ディレクトリーにある BCGConfigurationExport ツールと BCG_DBConfigurationExport ツールを使用して行うことができます。

- BCGConfigurationExport

このユーティリティーは、ログ・ファイルとプロパティー・ファイルをコピーします。出力は BCGConfigurationExport.output.<hostname>.jar というファイルによって行われます。<hostname> は、WebSphere Partner Gateway が稼働しているマシンのホスト名です。ファイルは、ユーザーが指定するディレクトリーに作成されます。このユーティリティーは 3 つのパラメーターを使用します。

- WAS ログ・ルート・ディレクトリー ({INSTALL DIR}¥was)
- WebSphere Partner Gateway ルート・ディレクトリー ({INSTALL DIR}¥)
- 宛先ロケーション

- BCG_DBConfigurationExport

このユーティリティーは、WebSphere Partner Gateway データベースから構成データをコピーします。出力は、BCGDB_ConfigurationExport.DB.output.<dbname>.jar というファイルによって行われます。<dbname> はデータベース名です。ファイルは、ユーザーが指定するディレクトリーに作成されます。このユーティリティーは 5 つのパラメーターを使用します。

- 宛先ディレクトリー
- データベース・フラグ - DB2 または ORA
- データベース名
- データベース・ログイン ID
- データベース・パスワード

どちらのユーティリティーを実行する場合でも、まずパスに JAVA (すなわち、{INSTALL DIR}\¥was¥java¥bin¥) JRE ディレクトリーが含まれていることを確認してください。DB2 によって BCG_DBConfigurationExport を実行する場合は、DB2 コマンド行を使用します。Oracle の場合は、Oracle ツールを実行できるように環境がセットアップされていることを確認してください。

注: WebSphere Partner Gateway が複数のマシンにインストールされている場合は、それぞれのマシンでこれらのユーティリティーを実行する必要があります。エクスポート・ファイルが作成されると、IBM サポート担当員からファイルの配信方法についての指示があります。

サーバー開始時の DB2 SQLCODE -444 エラーの修正

WebSphere Partner Gateway コンポーネント (bcgconsole、bcgreceiver、bcgdocmgr) のいずれかを始動するときに SQLCODE -444 エラー・メッセージが表示された場合は、DB2 データベース・マネージャーの SHEAPTHRES パラメーターの値を大きくしてください。このパラメーターは、DB2 インスタンス内のすべてのデータベースに定義される最高の sorthheap 値より、少なくとも 2 倍の値にします。この設定を変更する前に、データベース管理者に相談するか、ご使用の DB2 の管理者ガイドを参照してください。サンプル・コマンドを次に示します。

```
db2 UPDATE DBM CFG USING SHEAPTHRES xxxxx IMMEDIATE
```

SHEAPTHRES の値を変更した後に SQLCODE -444 が続くときは、場合によっては、WPG データベースの STMTHEAP と APPLHEAPSZ の値も減らす必要があります。サンプル・コマンドを次に示します。

```
db2 UPDATE DB CFG FOR <dbname> USING STMTHEAP xxxxx
```

```
db2 UPDATE DB CFG FOR <dbname> USING APPLHEAPSZ xxxxx
```

設定を変更する前に、データベース管理者に相談するか、ご使用の DB2 の管理者ガイドを参照してください。

エラー・メッセージは、コンポーネントの種類に応じて、以下のログ・ファイルのいずれかに書き込まれます。

```
{INSTALL DIR}\¥was¥profiles¥bcgconsole¥logs¥bcgconsole¥bcg_console.log
```

```
{INSTALL DIR}¥was¥profiles¥bcgreceiver¥logs¥bcgreceiver¥bcg_receiver.log  
{INSTALL DIR}¥was¥profiles¥bcgdocmgr¥logs¥bcgdocmgr¥bcg_docmgr.log
```

また、<DB2Home>¥SQLLIB¥bin¥db2diag.log ファイルにも記録される場合があります。

ポリモアフィック文書のルーティング時の DB2 SQLCODE -444 エラーの修正

DB2 UDB 構成によっては、ポリモアフィック (マップ・チェーン) 文書のルーティング時に SQLCODE -444 エラー・メッセージが表示される場合があります。これらのエラー・メッセージは、ファイル {INSTALL DIR}¥was¥profiles¥bcgdocmgr¥logs¥bcgdocmgr¥bcg_router.log および <DB2Home>¥SQLLIB¥bin¥db2diag.log に置かれます。このメッセージが表示される場合は、DB2 Database Manager パラメーター SHEAPTHRES の値を増やす必要があります。このパラメーターは、DB2 インスタンス内のすべてのデータベースに定義される最高の sortheap 値より、少なくとも 2 倍の値にします。サンプル・コマンドを次に示します。

```
db2 UPDATE DBM CFG USING SHEAPTHRES xxxxx IMMEDIATE
```

SHEAPTHRES の値を変更した後に SQLCODE -444 が続くときは、場合によっては、WPG データベースの STMTHEAP と APPLHEAPSZ の値も減らす必要があります。サンプル・コマンドを次に示します。

```
db2 UPDATE DB CFG FOR <dbname> USING STMTHEAP xxxxx
```

```
db2 UPDATE DB CFG FOR <dbname> USING APPLHEAPSZ xxxxx
```

設定を変更する前に、データベース管理者に相談するか、ご使用の DB2 の管理者ガイドを参照してください。

ログ・ファイルの JMS 例外メッセージの修正

bcg_receiver.log ファイルと bcg_router.log ファイルに次の例外メッセージが含まれていると、MQSeries キュー・マネージャーが停止する可能性があります。

```
javax.jms.JMSException: MQJMS2002: failed to get message from MQ queue
```

MQSeries コンポーネントが始動していることを確認してください。詳しくは、94 ページの『マシン・シャットダウン後のシステムの始動』を参照してください。ログ・ファイルは、エラー・メッセージが蓄積してサイズが非常に大きくなることもあるので、そのようなログ・ファイルは削除することもできます。それには、Receiver または DocMgr コンポーネントを停止して、削除する前に対象のログ・ファイルを解放する必要があります。

システム性能の不良と処理していないイベントの修正

システム性能がきわめて悪く、システム・イベントが処理していない場合は、WebSphere MQ のパブリッシュ/サブスクライブ・ブローカーに問題がある可能性があります。

注: これは UNIX システムにのみ適用されます。

1. ファイル `/var/mqm/qmgrs/<キュー・マネージャー名>/qm.ini` を開いて、次の項目を探します。

```
MaxActiveChannels=1000Broker:
```

この項目を確認したら、Channels と Broker のパラメーターを次の項目に置き換えます。

```
Channels:
```

```
MaxChannels=1000
```

```
MaxActiveChannels=1000
```

```
SyncPointIfPersistent=yes
```

2. 変更内容を保管します。
3. WebSphere Partner Gateway をシャットダウンします (Community Console の停止および 5 ページの『Receiver および Document Manager の停止』を参照)。
4. 次の手順に従って WebSphere MQ を停止します。
 - a. 次のように入力して、パブリッシュ/サブスクライブ・ブローカーを停止します。

```
endmqbrk -m <hostname>.queue.manager
```
 - b. 次のように入力して、リスナーを停止します。

```
endmq1sr -m <hostname>.queue.manager
```
 - c. 次のように入力して、キュー・マネージャーを停止します。

```
endmqm <hostname>.queue.manager
```
5. 「WebSphere Partner Gateway インストール・ガイド」の指示に従って、WebSphere MQ を作成および始動します。ただし、手順 2 から手順 4 は実行しないでください。
6. 「WebSphere Partner Gateway インストール・ガイド」の指示に従って、WebSphere Partner Gateway を再始動します。

コンソール・ヘルプが選択時に表示されない

コンソールで「ヘルプ」ボタンをクリックしたときに、ヘルプ・サーバーが稼働していないという通知がブラウザー・ページに表示される場合は、2 つの問題が考えられます。

- コンソールが稼働しているマシンでヘルプ・サーバーを開始する必要があります。1 ページの『ヘルプ・システムの始動』を参照してください。
- ヘルプ・サーバーがインストールされていないマシンからブラウザーのコンソールを実行していて、ヘルプ・サーバー・ロケーションの値がローカル・ホストに設定されている場合、ローカル・マシンはヘルプ・システムに使用されます。ロケーションを正しい IP アドレスに変更するには、`{INSTALL DIR}/console/lib/config` ディレクトリーにある `bcg_console.properties` ファイルで `ibm.bcg.help.host` キーの値を編集します。

注: ユーザーはコンソールからログアウトし、開始後にヘルプ・システムへアクセスするため再びログインします。

Receiver タイムアウト設定の増加

参加者が WebSphere Partner Gateway への接続を開き、「接続がピアによって打ち切られました: ソケットの書き込みエラーです (Connection aborted by peer: socket write error)」というエラー・メッセージを受け取った場合、WebSphere Partner Gateway の Receiver では、参加者からの伝送速度が遅いためタイムアウトが発生し始めます。

この問題に対応するには、{INSTALL DIR}\%scripts ディレクトリーにある bcgHttp.jacl スクリプトを実行し、次の情報を更新します。

- PORT_NUMBER パラメーターを設定します。
- PROPERTY_VALUE 属性を変更します。デフォルトは 30 です。

bcgHttp.jacl スクリプトを実行するには、次のコマンドを入力します。

```
{INSTALL DIR}\bin\bcgwsadmin.sh -conntype NONE -f {INSTALL DIR}\scripts\bcgHttp.jacl
```

```
{INSTALL DIR}\%receiver%was%config%cells%DefaultNode%node%servers%server1 ディレ  
クトリーにある server.xml ファイルを確認することによって変更を検証します。次  
のパラメーターが表示されるはずですが、<address xmi:id="EndPoint_1" host=""  
port="port_number"/> <properties xmi:id="Property_1096557327403"  
name="ConnectionIOTimeout" value="30"/>
```

データベース照会効率の最適化

RUNSTATS コマンドを実行すると、テーブルおよび索引ごとにデータベース照会アクセス・プランが更新されます。データベース照会効率を最適化するには、IBM WebSphere Partner Gateway のアプリケーションおよびデータベースのアクティビティーが最小のときに、週に 1 度以上 RUNSTATS を実行します。データベースのトラフィックの増加に従って、最高で 1 日に 1 回まで、RUNSTATS の実行頻度を上げてください。

注:

1. RUNSTATS を実行するとデータベース・システム情報が更新されるため、特定の環境ではロック・タイムアウトが発生する可能性があります。WebSphere Partner Gateway アプリケーションを静止させ、データベースへのアクセスは RUNSTATS の実行のみに制限してください。
2. ロック・タイムアウトは、RUNSTATS および db2rbind が同時に実行されるときに発生する場合があります。これらのコマンドは、毎日異なる時刻に実行することをお勧めします。

処理トランザクション・ロールバック・エラー

処理トランザクション・ロールバックのような重大なエラーが文書について表示された場合は、<MQInstallDir>\qmgrs\<qmgr>\qm.ini にある WebSphere MQ ロギング構成パラメーターが次のように設定されていることを確認します。

- LogPrimaryFiles=62
- LogSecondaryFiles=2
- LogFilePages=2048

- LogBufferPages=128

注: Windows では、MQ Services でキュー・マネージャーの「プロパティ」ウィンドウの「ログ」タブを使用してログ設定を表示します。

これらの属性に関する特定の情報については、WebSphere MQ の資料を参照してください。

破損後のルーターの再始動

ルーターが破損する場合は、次の手順に従って再始動してください。この手順により、受信したすべての文書が処理されるようになります。

1. router_in ディレクトリーを調べ、拡張子が vmd_locked のファイルの有無を確認します。
2. 経過時間が 2 分を超え、拡張子が vmd_locked のファイルが存在している場合は、拡張子を vmd_restart にしてファイル名を変更します。

注: ルーターのインスタンスが複数稼働している場合は、拡張子が vmd_locked のファイルが存在し、ルーターのほかのインスタンスによって活発に処理されています。これらのファイルは名前変更しないでください。

3. 文書の処理状態によっては、文書の処理が 210031「文書を否認防止できません」イベントで失敗している可能性もあります。この状況が発生すると、文書のファイルはディレクトリー router_in/reject に置かれます。この場合は、拡張子が vmd_locked のファイルを、拡張子が vmd_restart のファイル名に変更します。その後、文書のファイルを処理用のディレクトリー router_in dir に移動させます。

マシン・シャットダウン後のシステムの始動

次のセクションでは、システム・コンポーネントが存在するマシンがサービス休止になった場合にシステム・コンポーネントを始動する方法について説明します。WebSphere Partner Gateway のコンポーネントを始動するには、先に DB2 と WebSphere MQ を始動する必要があります。

DB2 の始動

DB2 を始動するには、次の手順に従います。

UNIX:

1. 次のように入力して、データベース所有者に変更します (デフォルトを使用した場合は db2inst1)。

```
su - db2inst1
```

2. 次のように入力して、データベース・インスタンスを開始します。

```
db2start
```

Windows:

次のように入力して、データベース・インスタンスを開始します。

```
db2start
```

WebSphere MQ の始動

WebSphere MQ を始動するには、次の手順に従います。

UNIX:

1. 次のように入力して、WebSphere MQ ユーザーに変更します。
`su - mqm`
2. 次のように入力して、キュー・マネージャーを始動します。
`strmqm <hostname>.queue.manager`
3. 次のように入力して、リスナーを始動します。
`runmqtsr -t tcp -p <port number> -m <hostname>.queue.manager &`
4. 10 秒待ってから、**Enter** キーを押してコマンド・プロンプトに戻ります。
5. 次のように入力して、JMS Broker (パブリッシュ/サブスクライブ・ブローカー) を開始します。
`strmqbrk -m <hostname>.queue.manager`

Windows:

1. 次のコマンドでキュー・マネージャーを開始します。
`strmqm bcg.queue.manager`
2. 次のコマンドでリスナーを開始します。
`runmqtsr -t tcp -p 9999 -m bcg.queue.manager`
3. リスナーはこのウィンドウで稼働するので、開いたままにしておきます。
4. 新規ウィンドウを開き、次のコマンドで JMS Broker (パブリッシュおよびサブスクライブ・ブローカー) を開始します。
`strmqbrk -m bcg.queue.manager`

Community Console、Receiver、および Document Manager の開始

Community Console、Receiver、および Document Manager を開始するには、次の手順に従います。

注: 次のステップを変更して、Windows の .bat 拡張子と円記号を使用します。

1. 次のように入力して、通常の WebSphere Partner Gateway ユーザーに変更します。
`su - bcguser`
2. 以下のディレクトリーにナビゲートします。
`cd {INSTALL DIR}/bin`
3. 次のように入力して、Community Console を始動します。
`./bcgStartServer.sh bcgconsole`
4. 次のように入力して、Receiver を始動します。
`./bcgStartServer.sh bcgreceiver`
5. 次のように入力して、Document Manager を始動します。
`./bcgStartServer.sh bcgdocmgr`

データ検証エラーが生成された 0A1

0A1 では、GlobalSupplyChainCode が xml に存在する必要があります。着信 3A7 にこの値が含まれていない場合は、属性として 0A1 に追加する必要があります。GlobalSupplyChainCode は 3A7 文書に存在するか、または文書フロー定義で属性として 0A1 に追加する必要があります。

属性を追加するには、次の手順を実行します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「文書フロー定義」の順にクリックします。コンソールに「文書フロー定義の管理」ウィンドウが表示されます。
2. 「パッケージ: RNIF (Package: RNIF)」>「プロトコル: Rosettanet (Protocol: Rosettanet)」>「文書フロー: 0A1 (DocumentFlow: 0A1)」の順にクリックして、「属性値の編集」アイコンをクリックします。
3. グローバル・サプライ・チェーン・コード属性がそこに存在しない場合は、「属性の追加」をクリックして追加します。
4. ドロップダウン・リストから値を選択します。
5. 「保管」をクリックします。

付録 A. パフォーマンスの考慮

この付録には、ご使用の特定の環境で最適なパフォーマンスを実現するための支援情報が含まれています。

イベントのフィルター

`bcg.event_log_exclude` プロパティを使用すると、イベント・ログ (DataLogQ) 内の選択したイベントの記録を除外できます。デフォルトでは、文書の通常および正常終了した処理で複数のイベントが生成され、これらはイベント・ログに記録されます。正常終了した文書処理で記録されるイベントの数を減らすと有効な場合があります。この数を減らすと、システムのパフォーマンスまたはトランザクション容量が向上することがあります。このパラメーターでは、一部のメッセージは除外できません。

デフォルトでは、`bcg.event_log_exclude` プロパティは `bcg_receiver.properties` (Receiver) ファイルと `bcg.properties` (ルーター) ファイルに含まれていません。必要に応じてこのプロパティを追加する必要があります。

`bcg.event_log_exclude` プロパティのフォーマットは、除外するメッセージ番号をコンマで区切ったリストです。例えば、次のようになります。

```
bcg.event_log_exclude=210060,210062,230011,240018,240019,250004
```

以下のイベントの除外 (包含) に役立つメッセージ:

210060 宛先の構文解析をパスしました

210062 宛先が正常に処理されました

210100 タイミング・イベント開始 (Timing start event)

210101 タイミング・イベント終了 (Timing end event)

230011 文書シーケンスが正常に検証されました

240018 オペレーターのデジタル署名鍵がロードされていません

240019 オペレーターの暗号鍵がロードされていません

250004 文書の送達が正常に完了しました (Document delivery successful)

要約データの生成

WebSphere Partner Gateway は、システム・アクティビティーについてのデータを定期的に要約します。この要約サービス・データは、文書分析または文書ポリューム・レポート機能を使用するときに表示される情報です。

「要約サービス・プロパティ」ウィンドウで、要約データを生成する頻度を表示および編集できます。このウィンドウには、要約データが最後に更新された日時も表示されます。

要約データが生成される時間間隔を変更するには、次の手順を実行します。

1. 「システム管理」 > 「イベント処理」 > 「要約サービス」の順にクリックします。コンソールに「要約サービス・プロパティ」ウィンドウが表示されます。
2. 「処理間隔 (分)」の横の「編集」アイコンをクリックします。
3. データを再度要約するまでに経過する分数の値 (1 から 60) を入力します。デフォルト値は 15 です。
4. 「保管」をクリックします。

付録 B. 障害発生時イベント

文書の処理が失敗すると、WebSphere Partner Gateway システムは、イベントを生成します。WebSphere Partner Gateway の障害発生時イベントとその対応する説明のリストについては、表 29 を参照してください。EDI コンポーネントによって生成される可能性のあるイベントのリストについては、109 ページの表 30 を参照してください。

注: HTTP Receiver コンポーネントは、文書を維持できなくなると HTTP エラー・コードを返します。それ以外の Receiver コンポーネント・タイプの場合、文書の内容は、現在の場所で障害発生時点のまま維持されます。

表 29. 障害発生時イベント

イベント・コード	イベント名	内部での記述	重大度	詳細な説明
BCG103001	データベース障害	データベース・エラー: {0} が {1} 内で例外 {3} で失敗しました	重大	
BCG103101	キャッシュ・エンジン・エラー	キャッシュ・エンジン・インスタンス ID {0} (ホスト {1}) の初期化に失敗しました。問題を訂正してサービスを再始動してください。エラーの理由: {2}	重大	
BCG103201	ハブ所有者状態エンジン・エラー	エラーの理由:{0}	エラー	このイベントが生成されるのは、致命的なシステム・エラーが発生し、その結果、文書の処理が失敗した場合です。データベースの書き込みエラーなどがこの例です。
BCG103203	受信側処理エラー (Receiver Processing Error)	受信側 '{0},{1}' が文書の処理に失敗しました。エラー: {2}。(Receiver '{0},{1}' failed to processing document, error: {2}.)	エラー	このイベントは、文書エラーまたはシステム・エラーのために受信側が文書を処理できない場合に生成されます。
BCG103205	ターゲット・エラー	ターゲット '{0},{1}' がターゲットの処理に失敗しました: {2}。	エラー	
BCG106004	デフォルト・ゲートウェイのペアがありません	接続の作成に失敗しました。参加者 {0} と {1} の間にデフォルト・ゲートウェイのペアがありません。	エラー	
BCG106005	アクションが見つかりません	対話にアクションが関連付けられていないため、B2B機能のための接続を作成できませんでした。	エラー	

表 29. 障害発生時イベント (続き)

イベント・コード	イベント名	内部での記述	重大度	詳細な説明
BCG106600	文書フロー定義作成エラー	子レベル {0} が親レベル {1} 以上になっています	エラー	
BCG111001	FTP アカウント作成エラー	参加者 {0} の FTP アカウントの作成に失敗しました。エラー・メッセージ: {1}	エラー	
BCG112002	ディレクトリーの作成に失敗しました	ディレクトリーの作成に失敗しました: {0}	エラー	
BCG112002	文書ルート・ディレクトリーが存在します	文書ルート・ディレクトリー {0} はすでに存在します	エラー	
BCG200000	デフォルト・ゲートウェイのペアがありません	接続の作成に失敗しました。参加者 {0} と {1} の間にデフォルト・ゲートウェイのペアがありません。	エラー	
BCG200001	プロトコル変換プログラム・ビジネス・プロセスの取得に失敗しました	ファクトリーが、プロトコル変換プログラム・ビジネス・プロセスのインスタンスの取得に失敗しました。理由: {0}	重大	このイベントは、プロトコル変換プログラムのビジネス・プロセスのインスタンスの検索時にシステム障害が発生した場合に生成されます。
BCG200005	文書変換の失敗	文書の変換に失敗しました。理由 {0}	エラー	このイベントは、文書の変換時に障害が発生した場合に生成されます。
BCG200006	プロトコル変換プログラム入力ファイルの障害	プロトコル変換プログラム入力ファイル・エラー: {0}	重大	このイベントは、例えばファイルが破壊されている場合など、アクションの処理中に入力ファイルで障害が発生した場合に生成されます。
BCG200007	プロトコル変換プログラム出力ファイルの障害	プロトコル変換プログラム出力ファイル・エラー: {0}	重大	このイベントは、出力ファイル・ディレクトリーへの書き込み時に障害が発生した場合に生成されます。
BCG200009	文書の解析に失敗しました	構文解析に失敗しました: {0}	エラー	このイベントは、文書の構文解析時に障害が発生した場合に生成されます。
BCG200013	コミュニティー・マネージャー提供の RN Process-Instance-ID エラー	{0}	エラー	このイベントが生成は、無効なプロセス・インスタンス ID を受信し、システムで新規プロセス・インスタンス ID が生成されないことが構成プロパティーに示されている場合に生成されます。
BCG200015	コミュニティー・マネージャー提供の RosettaNet GlobalUsageCode エラー	{0}	エラー	このイベントは、x-aux-production ヘッダーの値が無効で、エラー発生時にデフォルト値が使用されないことが構成プロパティーに示されている場合に生成されます。

表 29. 障害発生時イベント (続き)

イベント・コード	イベント名	内部での記述	重大度	詳細な説明
BCG210000	チャンネル検査エラー	チャンネル検査エラー	エラー	このイベントは、チャンネル検査関連のエラーがある場合に生成されます。
BCG210001	チャンネル検査エラー	チャンネル検査エラー	エラー	このイベントは、接続の検索に必要なデータが使用可能で、一致する接続が見つからない場合に生成されます。
BCG210002	接続のルックアップに失敗しました	接続検索が失敗しました {0}	エラー	このイベントは、接続の検索に必要なデータが使用不可の場合に生成されます。
BCG210007	アウトバウンド文書をパッケージできません	Outbound Processor のエラー	重大	このイベントは、パッケージャーがアウトバウンド文書で使用できない場合に生成されます。
BCG210008	IP アドレス検証の失敗	元 IP アドレスが参加者プロフィール {0} にありません	エラー	このイベントは、該当する参加者の未承認の IP アドレスから文書が送られた場合に生成されます。
BCG210009	SSL 証明書検証の失敗	クライアント SSL 証明書名が参加者プロフィール {0} にありません	エラー	このイベントは、文書の送付に使用される SSL 証明書が、該当する参加者の承認済み証明書リストに登録されていない場合に生成されます。
BCG210010	文書が大きすぎます	文書が大きすぎます: {0} バイト	エラー	このイベントは、受信した文書が大きすぎて処理できない場合に生成されます。
BCG210011	コミュニティー・マネージャー・トランスポートのアンパックの失敗	指定されたコミュニティー・マネージャー・トランスポート情報は不十分です: {0}	エラー	このイベントは、提供されたトランスポート情報が不十分な場合に生成されます。
BCG210012	B2B 機能が見つかりません	B2B 機能が見つかりません {0}	エラー	このイベントは、文書の転送に必要な B2B 機能が使用不可の場合に生成されます。
BCG210013	接続が完全に構成されていません	接続が完全に構成されていません {0}	エラー	このイベントは、文書の接続の構成が完了していない場合に生成されます。たいてい、文書の宛先に構成済みゲートウェイが指定されていないことが原因です。
BCG210014	MIME Multipart アンパックの失敗	MIME multipart 文書のアンパックに失敗しました: {0}	エラー	このイベントは、システムが MIME multipart 文書のアンパックに失敗した場合に生成されます。
BCG210015	cXML パッケージ化の失敗	cXML 文書のパックに失敗しました: {0}	エラー	
BCG210016	cXML チャンネル解析の失敗	cXML ルーティング情報の解析に失敗しました: {0}	エラー	

表 29. 障害発生時イベント (続き)

イベント・コード	イベント名	内部での記述	重大度	詳細な説明
BCG210017	EDI 接続解析の失敗	EDI ルーティング情報の解析に失敗しました: {0}	エラー	このイベントは、システムが EDI ルーティング情報の解析に失敗した場合に生成されます。
BCG210019	この接続では同期操作はサポートされません	この接続では同期操作はサポートされません	エラー	このイベントは、文書によって同期操作が要求されたが、接続が同期操作をサポートしていない場合に生成されます。
BCG210031	文書を否認防止できません	文書 {0} を否認防止できません	重大	<p>このイベントは、システムが文書を否認防止できなかった場合に生成されます。</p> <p>システムに十分なディスク・スペースがあることと、次のディレクトリーにシステム専用ファイルが格納されていることを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <code><common information directory>/non_rep/</code> • <code><common information directory>/msg_store/</code> <p>これら 2 つのディレクトリーにユーザー生成ファイルが格納されている場合、文書の処理は失敗します。</p>
BCG210032	Inbound Processor でのシステム・エラー	文書での Inbound Processor でのシステム・エラー: {0}	重大	このイベントは、システムがインバウンド・プロセッサでエラーを検出した場合に生成されます。

表 29. 障害発生時イベント (続き)

イベント・コード	イベント名	内部での記述	重大度	詳細な説明
BCG210033	メッセージの格納に失敗しました	文書をプレーン・テキストで保管できません。	エラー	<p>このイベントは、システムが文書をプレーン・テキストで保管できなかった場合に生成されます。</p> <p>システムに十分なディスク・スペースがあることと、次のディレクトリにシステム専用ファイルが格納されていることを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <code><common information directory>/non_repl/</code> • <code><common information directory>/msg_store/</code> <p>これら 2 つのディレクトリにユーザー生成ファイルが格納されている場合、文書の処理は失敗します。</p>
BCG210034	Document Manager でのシステム・エラー (System Error in the document manager)	Document Manager での文書に関するシステム・エラー: {0} (System error in the document manager for document: {0})	重大	このイベントは、システムが Document Manager でエラーを検出した場合に生成されます。
BCG210051	複写処理に失敗しました	システム・エラー: プロセスの複写に失敗しました	重大	このイベントは、重複処理時にシステムがデータベース・サーバーにアクセスできなかった場合に生成されます。
BCG210052	重複する文書を受信しました	この文書は、{2} に送信された文書と重複しています	エラー	このイベントは、受信した文書が重複していて拒否された場合に生成されます。
BCG210061	宛先解析の失敗	宛先の構文解析でのエラー	重大	このイベントは、宛先の解析が失敗すると生成されます。通常はデータベースの問題が原因です。
BCG210063	宛先処理の失敗	宛先の処理に失敗しました	重大	このイベントは、宛先の処理が失敗すると生成されます。通常はデータベースの問題が原因です。
BCG210065	宛先判別の失敗	{0}	エラー	このイベントは、宛先の処理時に競合する入力が存在する場合に生成されます。
BCG210066	パッケージおよびコンテンツのビジネス ID を異なるパートナーにマップします	元パートナー ID = {0}、宛先パートナー ID = {1}、元パッケージ・パートナー ID = {2}、宛先パッケージ・パートナー ID = {3}	エラー	このイベントは、内容とパッケージのルーティング情報に不一致が存在する場合に生成されます。

表 29. 障害発生時イベント (続き)

イベント・コード	イベント名	内部での記述	重大度	詳細な説明
BCG210201	Doctype 処理中の PIP のロードに失敗しました	Doctype の処理中に、文書の PIP をロードできません	重大	このイベントは、PIP のスペックが見つからない場合に生成されます。構成の問題がなければ発生しません。
BCG210202	Doctype 処理中の例外	Doctype 処理中の例外: {0}	重大	このイベントは、DocType タグの挿入時にシステム障害が発生した場合に生成されます。
BCG210203	DoctypeProcess エラー: アクションが見つかりません	DoctypeProcess エラー: アクションが見つかりません	重大	このイベントは、PIP DocType のスペックが見つからない場合に生成されます。
BCG210205	文書の処理がキャンセルされました	文書の処理がキャンセルされました。理由: {0} に関連した文書の処理に失敗しました。	重大	このイベントは、「エラー」属性で「エンベロープを廃棄」が「はい」に設定されているために文書処理が取り消された場合に生成されます。
BCG230004	検証の内部エラー	{0}	重大	このイベントは、検証処理中に内部システム障害が発生した場合に生成されます。
BCG230006	検証データベース・エラー	{0}	重大	このイベントは、検証処理中のデータベース・エラーが発生した場合に生成されます。
BCG230007	検証ビジネス・プロセス・ファクトリー・エラー	{0}	重大	このイベントは、システムが検証エンジンに送付するプロセスを判別できなかった場合に生成されます。
BCG230009	RosettaNet 検証エラー	{0}	エラー	このイベントは、文書が RosettaNet プロセスの検証を完了できなかった場合に生成されます。
BCG230010	データ検証エラー	文書のデータ検証に失敗しました: {0}	エラー	このイベントは、文書がデータ検証に失敗して拒否された場合に生成されます。
BCG230012	AS シーケンス検証エラー	{0}	エラー	このイベントは、文書が EDIINT プロセスの検証を完了できなかった場合に生成されます。
BCG240003	RosettaNet アンパック・エラー	RosettaNet アンパック・エラー	エラー	このイベントは、システムがアンパック時に RosettaNet プリアンブルを解析できなかった場合に生成されます。
BCG240005	RNPackager 送達ヘッダー・パーサーの失敗	送達ヘッダー・パーサー・エラー: {0}	エラー	このイベントは、システムがアンパック時に RosettaNet 送達ヘッダーを解析できなかった場合に生成されます。

表 29. 障害発生時イベント (続き)

イベント・コード	イベント名	内部での記述	重大度	詳細な説明
BCG240007	RNPackager サービス・ヘッダーの失敗	サービス・ヘッダー・パーサー・エラー: {0}	エラー	このイベントは、システムがアンパック時に RosettaNet サービス・ヘッダーを解析できなかった場合に生成されます。
BCG240009	RNPackager MIME 解析の失敗	MIME 解析エラー: {0}	エラー	このイベントは、アンパック時に RosettaNet メッセージの MIME 構文解析でエラーが発生した場合に生成されます。
BCG240011	RNPackager 署名に失敗しました	デジタル署名の検証に失敗しました: {0}	エラー	このイベントは、アンパック時にデジタル署名の検証が失敗した場合に生成されます。
BCG240012	RN アンパック状態更新エラー	データベース・アクセスに失敗しました。RosettaNet 状態を更新できませんでした	重大	このイベントは、RosettaNet の状態の更新時に、アンパッケージャーがデータベース通信エラーを検出した場合に生成されます。
BCG240013	参加者証明書が署名者に一致していませんでした	署名者証明書の上の名前/シリアルがデータベース項目に一致していませんでした	エラー	このイベントは、DUNS 検査の証明書がデジタル署名に失敗した場合に生成されます。
BCG240014	文書に署名がありません	文書に署名がありません	エラー	このイベントは、TPA で署名が必要だが文書内に見つからない場合に生成されます。
BCG240015	RosettaNet 文書作成の失敗	{0}	重大	このイベントは、RosettaNet 文書の作成に失敗した場合に生成されます。
BCG240016	RosettaNet 否認防止エラー	{0}	エラー	このイベントは、受信肯定応答に前のメッセージの正しいダイジェストが格納されていないか、ダイジェストが欠落している場合に生成されます。
BCG240017	同期確認通知が受信されませんでした	同期肯定応答が必要でしたが、同期応答で受信しませんでした	エラー	
BCG240025	WBIC セキュリティー・マネージャーの初期化例外です	WBICSecurityManager の初期化に失敗しました。例外: {1}	重大	
BCG240026	証明書がまだ有効ではありません	証明書がまだ有効ではありません。シリアル番号: {0}、サブジェクト DN: {1}、発行者 DN: {2}	重大	
BCG240027	証明書の有効期限が切れています	証明書は期限が切れています。シリアル番号: {0}、サブジェクト DN: {1}、発行者 DN: {2}	重大	

表 29. 障害発生時イベント (続き)

イベント・コード	イベント名	内部での記述	重大度	詳細な説明
BCG240028	証明書が失効しています	証明書が失効しています。 シリアル番号: {0}、サブジェクト DN: {1}、発行者 DN: {2}	重大	
BCG240029	証明書が見つかりません	証明書が見つかりません	重大	
BCG240030	有効な署名証明書が見つかりませんでした	有効な署名証明書が見つかりません	重大	
BCG240031	インスタンス・パッケージ化エラー	エラー: {0}	重大	このイベントは、システムが指定の文書タイプのパッケージャーを検出できなかった場合に生成されます。
BCG240032	有効な暗号化証明書が見つかりません	有効な暗号化証明書が見つかりません	重大	このイベントは、有効な証明書が見つからない場合に生成されます。 このイベントが表示された場合は、1 次証明書も 2 次証明書も有効ではありません。証明書は、有効期限が切れているか、失効している可能性があります。証明書の有効期限が切れている場合や失効している場合は、イベント・ビューアーに、そのイベントとともに対応するイベント (証明書の期限切れまたは失効) が表示されます。
BCG240033	有効な SSL クライアント証明書が見つかりません	有効な SSL クライアント証明書が見つかりません	重大	
BCG240036	インスタンス・アンパック・エラー	エラー: {0}	エラー	このイベントは、システムが文書のアンパッケージャーを検出できなかった場合に生成されます。
BCG240065	接続による XML の構文解析に失敗しました	XML 接続の構文解析に失敗しました: {0}	エラー	このイベントは、XML メッセージの接続情報が見つからなかった場合に生成されます。
BCG240068	接続パーサー RosettaNet の失敗	接続による RosettaNet の構文解析に失敗しました	エラー	このイベントは、RosettaNet 文書内に接続情報が見つからなかった場合に生成されます。
BCG240070	XML 接続解析の失敗	XML 接続の解析に失敗しました	エラー	このイベントは、システムが XML ファイルの接続情報を検出できなかった場合に生成されます。
BCG240071	フラット・ファイル接続解析の失敗	フラット・ファイル接続の解析に失敗しました: {0}	エラー	このイベントは、システムがフラット・ファイルの接続情報を検出できなかった場合に生成されます。

表 29. 障害発生時イベント (続き)

イベント・コード	イベント名	内部での記述	重大度	詳細な説明
BCG240078	Web サービス接続の解析に失敗しました	Web サービス接続の解析に失敗しました	エラー	このイベントは、システムが SOAP メッセージの接続情報を検出できなかった場合に生成されます。
BCG240409	AS アンパッカーの失敗	AS アンパッカー・エラー: {0}	エラー	このイベントは、AS アンパッカーに障害が発生した場合に生成されます。
BCG240411	AS 署名の失敗	AS 署名検証エラー: {0}	エラー	このイベントは、AS 署名の検証が失敗した場合に生成されます。
BCG240412	AS 状態エンジン DB の失敗	AS 状態エンジン DB エラー: {0}	重大	このイベントは、AS 状態エンジンのデータベースに障害が発生した場合に生成されます。
BCG240415	AS パッカーの失敗	AS パッカー・エラー: {0}	重大	このイベントは、AS パッカーに障害が発生した場合に生成されます。
BCG240416	AS 否認防止エラー	{0}	エラー	このイベントは、AS 否認防止が失敗した場合に生成されます。
BCG240417	復号に失敗しました	{0}	エラー	このイベントは、復号に失敗すると生成されます。
BCG240418	Message Digest を生成できません	{0}	エラー	このイベントは、システムがメッセージ・ダイジェストを生成できなかった場合に生成されます。
BCG240419	サポートされない署名形式	{0}	エラー	このイベントは、システムがサポートされない署名形式を受け取った場合に生成されます。
BCG240420	サポートされない署名アルゴリズム	{0}	エラー	このイベントは、システムがサポートされない署名アルゴリズムを受け取った場合に生成されます。
BCG240421	予期しないエラー	{0}	重大	このイベントは、システムが予期しないエラーを検出した場合に生成されます。
BCG240422	この MDN の AS 文書が見つかりません	{0}	エラー	このイベントは、MDN が受信され、これに対応する文書が見つからない場合に生成されます。
BCG240423	入力ファイルの障害	文書で無効な入力ファイルが渡されました	エラー	このイベントは、無効な入力ファイルが検出された場合に生成されます。
BCG240424	メッセージ・セキュリティ不足	{0}	エラー	このイベントは、メッセージ・セキュリティ不足が発生した場合に生成されます。
BCG240500	RosettaNet 状態エンジン・エラー	RosettaNet 状態エンジン・エラー	重大	このイベントは、RosettaNet 状態エンジンによってシステム・エラーが検出された場合に生成されます。

表 29. 障害発生時イベント (続き)

イベント・コード	イベント名	内部での記述	重大度	詳細な説明
BCG240550	POP3 ポーリング・エラー	POP3 サーバーのポーリング時にエラーが発生しました: {0}。拒否されたメッセージ VUID: {1}	エラー	
BCG240600	AS 状態エンジン・エラー	AS 状態エンジン・エラー: {0}	重大	このイベントは、RosettaNet 状態エンジンによってシステム・エラーが検出された場合に生成されます。
BCG240601	AS 再試行の失敗	AS 属性の最大再試行制限に達しました	エラー	このイベントは、AS の再試行が失敗した場合に生成されます。最大再試行制限に達しています。
BCG240606	パッケージ化エラー	パッケージ化エラー {0}	エラー	
BCG240610	アンパック・エラー	アンパック・エラー {0}	エラー	
BCG240615	プロトコル構文解析エラー	プロトコル構文解析エラー {0}	エラー	
BCG240701	アクティビティ・ロギング・エラー	アクティビティ詳細のロギング時にエラーが発生しました: {0}	エラー	このイベントは、パートナーの文書 ID のアクティビティ ID に対して検索対象が見つからなかった場合に生成されます。
BCG250001	文書の送達に失敗しました	参加者ゲートウェイへの文書送達に失敗しました: {0}	エラー	このイベントは、参加者のゲートウェイへの文書の送達が失敗し、文書が障害の状態に設定された場合に生成されます。
BCG250002	送達スケジューラーが失敗しました	Delivery Scheduler で内部エラーが発生しました: {0}	重大	このイベントは、Delivery Manager 内部に未分類の内部エラーが発生した場合に生成されます。これは、送達の失敗ではなく、ゲートウェイまたは文書データに問題があったことが原因です。
BCG250005	FTP 送達に失敗しました	参加者ゲートウェイへの FTP 送達に失敗しました。例外: {0}	エラー	このイベントは、FTP プロトコル文書の送達が失敗したが、再試行の続行が可能な場合に生成されます。最後の失敗ではイベント 250001 が生成されます。
BCG260002	RosettaNet パススルー・ロギングに失敗しました	RosettaNet パススルー・プロセス表示ロギングに失敗しました: {0}	エラー	このイベントは、文書が RN パススルー・ロギングに失敗した場合に生成されます。
BCG280006	文書処理エラー	文書 {1} の {0} reject および oversize フォルダーでコンテンツ・ファイル、メタデータ・ファイル、およびヘッダー・ファイルが見つかりません	エラー	

表 29. 障害発生時イベント (続き)

イベント・コード	イベント名	内部での記述	重大度	詳細な説明
BCG281001	コンソールの再送により文書がキューに入れられました	コンソールによる再送で文書がキューに入れられました: {0}	重大	
BCG281002	コンソールから再送した文書はすでにキューに入っています	コンソールで再送した文書はすでにキューに入っています: {0}	重大	
BCG310002	EDI トランザクションがエンベロップされました	EDI トランザクションがエンベロップされました。エンベロップ・アクティビティ ID : {0}	エラー	このイベントは、EDI トランザクション文書がエンベロップされたときに生成されます。エンベロップ・アクティビティ ID は、新規エンベロップ文書のものであります。
BCG310003	EDI トランザクションのエンベロップに失敗しました	EDI トランザクションのエンベロップに失敗しました	エラー	このイベントは、EDI トランザクション文書がエンベロップされていないときに生成されます。このイベントの前には、失敗の詳細について説明するイベントがあります。
BCG800000	コミュニティー・マネージャー・ビジネス・プロセスの取得に失敗しました	ファクトリーが、コミュニティー・マネージャー・ビジネス・プロセスのインスタンスの取得に失敗しました。理由: {0}	重大	このイベントは、ビジネス・プロセスのコミュニティー・マネージャー・アクションが見つからなかった場合に生成されます。
BCG800004	コミュニティー・マネージャー・ビジネス・プロセスがデータベース・エラーを検出しました	{0}	重大	このイベントは、コミュニティー・マネージャーのアクションを処理中にデータベース・エラーが発生すると生成されます。
BCG800005	コミュニティー・マネージャー・プロセスが内部エラーを検出しました	{0}	重大	このイベントは、コミュニティー・マネージャーのアクションを処理中に内部システム・エラーが発生すると生成されます。

表 30. EDI イベント・コードとメッセージ

EDI イベント・コード	イベント名	内部での記述	重大度	詳細な説明
BCGEDICM0001	予期しない例外が発生しました	コンポーネント {0} で予期しない例外が発生しました。例外テキスト: {1}	エラー	
BCGEDICM0003	必要なプロパティがありません	コンポーネント {0} の入力が無効です。必要なプロパティ {1} がありません	エラー	
BCGEDICM0004	プロパティ値が無効です	コンポーネント {0} の入力が無効です。値 {1} はプロパティ {2} では無効です	エラー	

表 30. EDI イベント・コードとメッセージ (続き)

EDI イベント・コード	イベント名	内部での記述	重大度	詳細な説明
BCGEDICM0005	サポートされない文字セットです	コンポーネント {0} の入力が無効です。プロパティ {2} に指定された文字セット {1} はサポートされていません	エラー	
BCGEDICM0006	コンポーネントに対して文書構文が無効です	コンポーネント {0} の入力が無効です。文書構文 {1} はこのコンポーネントでは無効です	エラー	
BCGEDICM0010	入出力エラーが発生しました	コンポーネント {0} で入出力エラーが発生しました。 例外テキスト: {1}	エラー	
BCGEDICM0011	ファイルのオープンに失敗しました	コンポーネント {0} がファイル {1} を開くことができません	エラー	
BCGEDICM0012	メモリー・バッファへのアクセスに失敗しました	コンポーネント {0} がメモリー・バッファにアクセスできません	エラー	
BCGEDICM0013	入力データ・ソースがありません	コンポーネント {0} に入力データ・ソースが指定されていませんでした	エラー	
BCGEDICM0014	出力データ・ソースがありません	コンポーネント {0} に出力データ・ソースが指定されていませんでした	エラー	
BCGEDICM0020	コンポーネントの構文解析エラー	入力データの構文解析時のエラーのため、コンポーネント {0} で障害が発生しました	エラー	
BCGEDICM0021	データベース・エラー	データベースへのアクセス試行時にエラーが発生しました。クラス名: {0}、メソッド: {1}、例外: {2}	エラー	
BCGEDICM0022	予期しないデータベース例外が発生しました	データベースへのアクセス試行時に予期しない例外が発生しました。クラス名: {0}、メソッド: {1}、例外: {2}	エラー	
BCGEDICM0023	データベース接続がありません	データベース接続マネージャー・クラス {0} が有効な接続を戻しませんでした	重大	
BCGEDICM0101	コンポーネントのオブジェクトがないか、または無効です	内部エラーが発生しました。コンポーネント {0} に渡されたオブジェクトがないか、または無効です	エラー	

表 30. EDI イベント・コードとメッセージ (続き)

EDI イベント・コード	イベント名	内部での記述	重大度	詳細な説明
BCGEDICM0102	クラスのロードに失敗しました	動的に構成されたクラスをロードできませんでした。 構成キー: {0}、クラス名: {1}	重大	
BCGEDICM0103	関数仮パラメーターが無効です	コンポーネント {0} で内部エラーが発生しました。無効な値 '{1}' が関数 {2} に渡されました	エラー	
BCGEDICM0104	ソース文書が無効です	ソース文書はコンポーネント {0} には適用できません	エラー	
BCGEDIEM0100	転写ファイルの内容	転写ファイルの内容。{0}	エラー	
BCGEDIEM0101	証明書の取得時に例外が発生しました	証明書の取得時に例外が発生しました。詳細: {0}	エラー	
BCGEDIEM0102	転写ファイルの読み取り時に例外が発生しました	転写ファイルの読み取り時に例外が発生しました。詳細: {0}	エラー	
BCGEDIEM0103	必要な属性がヌルです	必要な属性 {0} がヌルです。	エラー	
BCGEDIEM0104	送信するファイルを一時ロケーションに書き込もうとして例外が発生しました	送信するファイルを一時ロケーションに書き込もうとして例外が発生しました。詳細: {0}	エラー	
BCGEDIEM0105	証明書を証明書リポジトリにアップロードする必要があります	証明書を証明書リポジトリにアップロードする必要があります。	エラー	
BCGEDIEM0106	秘密鍵ファイルをロードできませんでした。別名が見つかりません	秘密鍵ファイルをロードできませんでした。別名が見つかりません。	エラー	
BCGEDIEM0107	クライアント証明書 (ローカル証明書) の検証に失敗しました。証明書が無効であるか、失効している可能性があります	クライアント証明書 (ローカル証明書) の検証に失敗しました。証明書が無効であるか、失効している可能性があります。	エラー	
BCGEDIEM0108	セキュリティー例外	セキュリティー例外が発生しました。詳細: {0}	エラー	
BCGEDIEM0109	受信側に指定した一時ディレクトリー値がヌルです	受信側に指定した一時ディレクトリー値がヌルです。	エラー	
BCGEDIEM0110	渡された BusinessDocument 配列がヌルです	渡された BusinessDocument 配列がヌルです。	エラー	
BCGEDIEM0111	入力ファイルがヌルです	入力ファイルがヌルです。	エラー	

表 30. EDI イベント・コードとメッセージ (続き)

EDI イベント・コード	イベント名	内部での記述	重大度	詳細な説明
BCGEDIEM0112	スプリッター例外を受信しました。	スプリッター例外を受信しました。詳細: {0}	エラー	
BCGEDIEM0113	スプリッター例外を受信しました。	スプリッター例外を受信しました。詳細: {0}	エラー	
BCGEDIEM0114	リーダーを検出できません	リーダーを検出できません	エラー	
BCGEDIEM0118	文字のエンコード・エラー	"{0}" の文字セット {1} へのエンコード時にエラーが発生しました。	エラー	
BCGEDIEM0120	RODScanner の初期化時にエラーが発生しました	RODScanner の初期化時にエラーが発生しました。詳細: {0}	エラー	
BCGEDIEM0128	IBM VAN からネットワーク・エラー・メッセージを受信しました。	IBM VAN からネットワーク・エラー・メッセージを受信しました。詳細: メッセージ ID = {0}、メッセージの説明 = {1}、重大度コード = {2}	エラー	
BCGEDIEM0150	渡された文書は EDIAckHandler に適用されません	渡された文書は EDIAckHandler に適用されません	エラー	
BCGEDIEM0151	EDI 肯定応答の処理時にエラーが発生しました	EDI 肯定応答の処理時にエラーが発生しました。エラーのある端末でメッセージを取得しました。	エラー	
BCGEDIEM0152	コンテキストからデータベース接続を取得できません	コンテキストからデータベース接続を取得できません	エラー	
BCGEDIEM0200	データベース接続エラーが発生しました。	コンテキスト内にデータベース接続オブジェクトがないか、または無効です。	エラー	
BCGEDIEM0201	ファイルへの書き込み時に入出力エラーが発生しました。	PROCESS DIR {0} でファイルを作成できません	エラー	
BCGEDIEM0202	AbsDocument を直列化できません。	AbsDocument を直列化しようとしてパーサー例外が発生しました。	エラー	
BCGEDIEM0203	AbsDocument の直列化時に例外が発生しました。	AbsDocument を直列化しようとして例外が発生しました。	エラー	
BCGEDIEM0204	ビジネス文書を導入できません	ID が {0} のビジネス文書をワークフローに戻すことができません。	エラー	
BCGEDIEM0205	状態情報を検索できません。	状態管理サービスで状態情報が見つかりません。	エラー	

表 30. EDI イベント・コードとメッセージ (続き)

EDI イベント・コード	イベント名	内部での記述	重大度	詳細な説明
BCGEDIEV0003	交換の開始が見つかりません	メッセージをエンベロープ解除しようとしたが、有効な交換の開始が見つからなかったため失敗しました	エラー	
BCGEDIEV0009	取引パートナーのニックネームの検索に失敗しました	取引パートナーのニックネーム {0} が見つかりません	エラー	
BCGEDIEV0010	関数の内部エラーです	内部エラーが発生しました。関数: {0}、戻りコード: {1}	エラー	
BCGEDIEV0011	データベース・トランザクションに失敗しました	データベース・トランザクションに失敗しました。 SQL エラー: {0}	エラー	
BCGEDIEV0018	エンベロープ・セグメントが見つかりません	{0} エンベローパーまたはデエンベローパーがエラーを検出しました。{1} セグメントが見つかりませんでした	エラー	
BCGEDIEV0050	変換テーブルの検索に失敗しました	メッセージのエンベロープまたはエンベロープ解除時に、変換テーブルの検索に失敗しました。変換テーブル: {0}、値: {1}	エラー	
BCGEDIEV0051	エンベロープ・セグメントが見つかりません	{0} デエンベローパーがエラーを検出しました。{1} が見つかりました ({2} はなし)	エラー	
BCGEDIEV0052	エンベロープするメッセージが空です	{0} エンベローパーがエラーを検出しました。エンベロープする空のメッセージを受信しました	エラー	
BCGEDIEV0053	制御番号マスクの最大グループ数を超過しました	{0} エンベローパーがエラーを検出しました。合計グループ数が制御番号マスクで許可された数を超過しています	エラー	
BCGEDIEV0054	複数交換エラー	{0} デエンベローパーがエラーを検出しました。複数交換が検出されましたが、これは許可されません。	エラー	

表 30. EDI イベント・コードとメッセージ (続き)

EDI イベント・コード	イベント名	内部での記述	重大度	詳細な説明
BCGEDIEV0055	変換テーブルの検索の警告	メッセージのエンベロープ時に、変換テーブルの検索でエントリーが戻されませんでした。変換テーブル: {0}、値: {1}	エラー	
BCGEDIEV0056	変換テーブルの検索の警告	メッセージのエンベロープ解除時に、変換テーブルの検索でエントリーが戻されませんでした。変換テーブル: {0}、値: {1}、グループ/トランザクション制御番号 {2}	エラー	
BCGEDIEV0057	エンベロープに失敗しました	メッセージをエンベロープしようとして失敗しました。エンベロープ・タイプが {0} でした	エラー	
BCGEDIEV0058	エンベロープ解除に失敗しました	メッセージをエンベロープ解除しようとして失敗しました	エラー	
BCGEDIFT0100	必要な引数がありません	コマンドでの構文エラー: {0}。必要な引数がありませんでした	エラー	
BCGEDIFT0110	FTP スクリプト処理が停止しました	エラーにより、FTP スクリプト処理が停止しました	エラー	
BCGEDIFT0111	ファイル基本名がありません	取得されたファイルにはベース名がありません	エラー	
BCGEDIFT0112	コンポーネントのオブジェクトがないか、または無効です	入力端末上に不明のオブジェクトがあります	エラー	
BCGEDIFT0113	コマンドの実行時に予期しないエラーが発生しました	コマンド {0} の実行時に予期しないエラーが発生しました	エラー	
BCGEDIFT0114	ファイルのダウンロード時に予期しないエラーが発生しました	ファイル {0} のダウンロード時に予期しないエラーが発生しました	エラー	
BCGEDIFT0115	FTP スクリプト・ファイルが見つかりません	FTP スクリプト・ファイルが見つかりません	エラー	
BCGEDIFT0116	IO 例外読み取りスクリプト	スクリプトの読み取り時に IO 例外を catch しました	エラー	

表 30. EDI イベント・コードとメッセージ (続き)

EDI イベント・コード	イベント名	内部での記述	重大度	詳細な説明
BCGEDIFT0117	FTP スクリプトの構文解析時に予期しない例外が発生しました	FTP スクリプトの構文解析時に予期しない例外を catch しました。システム管理者に連絡してください。例外およびスタック・トレースについての詳細は、トレース・ファイルにあります	エラー	
BCGEDIFT0118	ファイルのアップロードに失敗しました	ファイルをアップロードできません。ファイル名: {0}	エラー	
BCGEDIFT0119	MPUT のファイルがありません	MPUT が発行されましたが、送信するファイルが見つかりませんでした。ファイル名: {0}。ディレクトリ: {1}	エラー	
BCGEDIFT0120	FTP コマンドがタイムアウトになりました	FTP コマンドがタイムアウトになりました。送信中のコマンド: {0}	エラー	
BCGEDIFT0200	IO 例外	IO 例外が発生しました。例外テキスト: {0}	エラー	
BCGEDIFT0201	データ・ソケットの作成に失敗しました	データ・ソケットを作成できませんでした。Connection または ControlSocket がヌルです	エラー	
BCGEDIFT0202	応答コードがヌルです	ヌル・ポインター例外: 処理のための応答コードが含まれている StringBuffer がヌルです	エラー	
BCGEDIFT0203	引数値が無効です	引数の値が無効です。一部またはすべての値がヌルです	エラー	
BCGEDIFT0204	制御ソケットが作成されません	制御ソケットが作成されません	エラー	
BCGEDIFT0205	必要なファイルが見つかりません	必要なファイルが見つかりません	エラー	
BCGEDIFT0206	例外が発生しました	例外が発生しました	エラー	
BCGEDIFT0207	アクティブなデータ・ソケットがヌルです	アクティブなデータ・ソケットがヌルです	エラー	
BCGEDIFT0208	SocketException が発生しました	SocketException が発生しました	エラー	
BCGEDIFT0209	受動データ・ソケットがヌルです	受動データ・ソケットがヌルです	エラー	
BCGEDIFT0210	データ・ソケットがヌルです	データ・ソケットがヌルです	エラー	

表 30. EDI イベント・コードとメッセージ (続き)

EDI イベント・コード	イベント名	内部での記述	重大度	詳細な説明
BCGEDIFT0211	秘密鍵の読み込みに失敗しました	ファイル名 - {0} から秘密鍵ファイルをロードできませんでした。別名が見つかりません	エラー	
BCGEDIFT0212	クライアント証明書の検証に失敗しました	クライアント証明書 (ローカル証明書) の検証に失敗しました。証明書が無効であるか、失効している可能性があります	エラー	
BCGEDIFT0220	OPEN コマンドが失敗しました	OPEN コマンドが失敗しました。理由: {0}	エラー	
BCGEDIFT0221	CWD コマンドが失敗しました	CWD コマンドが失敗しました。理由: {0}	エラー	
BCGEDIFT0222	DELE コマンドが失敗しました	DELE コマンドが失敗しました。理由: {0}	エラー	
BCGEDIFT0223	PUT コマンドが失敗しました	PUT コマンドが失敗しました。理由: {0}	エラー	
BCGEDIFT0224	GET コマンドが失敗しました	GET コマンドが失敗しました。理由: {0}	エラー	
BCGEDIFT0225	LIST コマンドが失敗しました	LIST コマンドが失敗しました。理由: {0}	エラー	
BCGEDIFT0226	QUIT コマンドが失敗しました	QUIT コマンドが失敗しました。理由: {0}	エラー	
BCGEDIFT0227	RMD コマンドが失敗しました	RMD コマンドが失敗しました。理由: {0}	エラー	
BCGEDIFT0228	MKD コマンドが失敗しました	MKD コマンドが失敗しました。理由: {0}	エラー	
BCGEDIFT0229	PASV コマンドが失敗しました	PASV コマンドが失敗しました。理由: {0}	エラー	
BCGEDIFT0230	GETDEL コマンドが失敗しました	GETDEL コマンドが失敗しました。理由: {0}	エラー	
BCGEDIFT0231	FTP コマンドが失敗しました	FTP コマンド {0} が失敗しました。理由: {1}	エラー	
BCGEDIFT0232	FTP サーバーからの応答がヌルです	FTP サーバーからの応答がヌルです	エラー	
BCGEDIMD0001	メタデータの読み取り時に予期しない例外が発生しました	メタデータの読み取り時に予期しない例外が発生しました。構文: {0}、ディクショナリー: {1}、文書: {2}、例外テキスト: {3}	エラー	

表 30. EDI イベント・コードとメッセージ (続き)

EDI イベント・コード	イベント名	内部での記述	重大度	詳細な説明
BCGEDIMD0002	メタデータ制御ストリングが無効です	メタデータ制御ストリングが無効であるか、または別のバージョン用にコンパイルされています。構文: {0}、ディクショナリー: {1}、文書: {2}	エラー	
BCGEDIMD0003	メタデータ制御ストリングの読み取りに失敗しました	データベースからメタデータ制御ストリングを読み取ることができません。構文: {0}、ディクショナリー: {1}、文書: {2}	エラー	
BCGEDINK0001	ネットワーク肯定応答が無効です	IBM VAN ネットワーク肯定応答コンポーネントに渡された文書が、有効なネットワーク肯定応答ではありません	エラー	
BCGEDINK0002	属性値が無効です	属性 {0} に無効な値 {1} があります	エラー	
BCGEDISP0002	エンコードを判別できません	XML スプリッターが、XML 入力データのエンコードを判別できませんでした	エラー	
BCGEDISP0003	XML データが無効です	XML スプリッターに渡されたデータは、有効な XML データではありません	エラー	
BCGEDISP0005	交換イテレーターがヌルです	内部エラーが発生しました。前の呼び出し中に交換イテレーターが設定されませんでした	エラー	
BCGEDISP0006	入力データの終了	スプリッターが入力データの終わりに達しました	エラー	
BCGEDIUP0001	XML 構文解析時の致命的エラー	XML 文書 {0} の行 {1}、列 {2} の構文解析中に致命的エラーが発生しました。パーサーからのメッセージ・テキスト: {3}	エラー	
BCGEDIUP0002	XML 構文解析時の重大エラー	XML 文書 {0} の行 {1}、列 {2} の構文解析中に重大エラーが発生しました。パーサーからのメッセージ・テキスト: {3}	エラー	
BCGEDIUP0015	メタデータの読み取りに失敗しました	メッセージのメタデータを取得しようとして失敗しました	エラー	

表 30. EDI イベント・コードとメッセージ (続き)

EDI イベント・コード	イベント名	内部での記述	重大度	詳細な説明
BCGEDIUP0118	文字のエンコード・エラー	"{0}" の文字セット {1} へのエンコード時にエラーが発生しました。	エラー	
BCGEDIUP0021	入力データ・レコードを識別できません	入力データ・レコードを識別できません。レコード番号: {0}。データ・イメージ: {1}	エラー	
BCGEDIUP0023	レコードが指定の最大反復回数を超えました	受信したデータは、指定の最大反復回数を超えています。レコード番号: {0}。データ識別番号: {1}、最大反復回数: {2}	エラー	
BCGEDIUP0033	ディクショナリー値または文書値がありません	構文解析に使用されるディクショナリー値および文書値が指定されていなかったか、またはブランクです	エラー	
BCGEDIUP0034	構造体の使用法が無効です	構造体を含むデータ形式では、文字で区切られたデータはサポートされるオプションではありません	エラー	
BCGEDIUP0038	レコード区切り文字がありません	レコード区切り文字を検出せずにレコードの終わりに達しました。必要なレコード区切り文字: {0}。レコード番号: {1}。レコード名: {2}。バイト・オフセット: {3}	エラー	
BCGEDIUP0039	文字変換に失敗しました	データをユニコード文字に変換しようとして失敗しました。入力データ: {0}、データ長: {1}。受信したエラー: {2}	エラー	
BCGEDIUP0040	データ・タイプに対してデータが無効です	{0} タイプ・データを変換しようとして、無効なデータが見つかりました。無効なデータ: {1}	エラー	
BCGEDIUP0041	サポートされない文字セットです	ROD データに使用される文字セットはサポートされていません。文字セット: {0}	エラー	
BCGEDIUP0042	サポートされないレコードが見つかりました	C および D レコードの処理時にサポートされないレコードが見つかりました。最初の位置に文字 C、D、または Z が必要でした。{0} を受信しました。バイト・オフセット: {1}	エラー	

表 30. EDI イベント・コードとメッセージ (続き)

EDI イベント・コード	イベント名	内部での記述	重大度	詳細な説明
BCGEDIUP0052	予期しない直列化例外が発生しました	文書の直列化時に予期しない例外が発生しました。例外テキスト: {0}	エラー	
BCGEDIUP0053	パーサーまたはシリアライザーの作成に失敗しました	構文 {0} に対してパーサーまたはシリアライザーを作成できませんでした	エラー	
BCGEDIUP0055	直列化の文書が空です	文書が空のため、文書を直列化できませんでした	エラー	
BCGEDIUP0057	直列化の文書が無効です	文書の内部構造が無効であるため、文書を直列化できませんでした	エラー	
BCGEDIUP0099	認識された入力データがありません	パーサーが認識できる入力データを見つけることができませんでした。パーサー・コンポーネント: {0}	エラー	
BCGEDIUP0100	メタデータの詳細が見つかりません	文書にメタデータ詳細がありません。ディクショナリー={0}、文書={1}、構文={2}	エラー	
BCGEDIUP0101	メタデータ制御ストリングが見つかりません	メタデータ制御ストリングが見つかりません。ディクショナリー={0}、文書={1}、構文={2}	エラー	
BCGEDIUP0106	ROD データ形式が無効です	ROD DataFormat が無効です。レコード・ノードに下位ノード (構造またはフィールド) がありません。レコード名: {0}	エラー	
BCGEDIUP0107	レコードにレコード名がありません	D レコード用の文書にヌルの RecordName がありません	エラー	
BCGEDIUP0108	ルート・ノード下に予期しないノードがあります	ROD DataFormat が無効です。ROD ルート・ノード {0} に、レコードおよびループ以外の下位ノードがあります	エラー	
BCGEDIUP0109	ノードにレコード名がありません	レコード・ノードにヌルまたは空の RecordName があります	エラー	
BCGEDIUP0110	メタデータ情報の取得時にエラーが発生しました	レコードの MetaData から RODMetaDataElement を取得できません: {0}	エラー	

表 30. EDI イベント・コードとメッセージ (続き)

EDI イベント・コード	イベント名	内部での記述	重大度	詳細な説明
BCGEDIUP0111	空のレコードが見つかりました	MetaDataElement に子エレメントがありません: {0}。エレメント・タイプはレコード	エラー	
BCGEDIUP0112	レコード・ノード下に予期しないノードがあります	ROD DataFormat が無効です。ROD レコード・ノード {0} に、構造およびフィールド以外の下位ノードがあります	エラー	
BCGEDIUP0113	ループ・ノード下に予期しないノードがあります	ROD DataFormat が無効です。ROD ループ・ノード {0} に、ループおよびレコード以外の下位ノードがあります	エラー	
BCGEDIUP0114	構造体ノード下に予期しないノードがあります	ROD DataFormat が無効です。ROD レコード・ノード {0} に、構造およびフィールド以外の下位ノードがあります	エラー	
BCGEDIUP0115	空の構造体が見つかりました	MetaDataElement に子エレメントがありません: {0}。エレメント・タイプは構造	エラー	
BCGEDIUP0116	データ形式に無効な文字があります	{0} データ形式で無効な文字が見つかりました。文字: {1}	エラー	
BCGEDIUP0117	文字のデコード・エラー	オフセット {0} で文字デコード・エラーが発生しました。	エラー	
BCGEDIUP0118	文字のエンコード・エラー	{2} の文字セット {3} へのエンコード時にエラーが発生しました	エラー	
BCGEDIUT0008	現在のマップ名	処理中のマップ名: {0}	エラー	
BCGEDIUT0011	制御ストリング命令に失敗しました	変換ノード (DTC) が、制御ストリング命令を処理できませんでした。制御ストリング命令: {0}、命令ストリーム・オフセット: {1}、マップ名: {2}	エラー	
BCGEDIUT0023	出力文書の作成に失敗しました	出力文書を作成しようとして失敗しました。ルート・ノード名: {0}、構文: {1}	エラー	

表 30. EDI イベント・コードとメッセージ (続き)

EDI イベント・コード	イベント名	内部での記述	重大度	詳細な説明
BCGEDIUT0033	ユーザー指定のメッセージ・テキスト	ユーザー指定のメッセージ・テキスト: {0}。このメッセージは、重大度コード {1}、ユーザー・コード {2} でログに記録されました	エラー	
BCGEDIUT0034	HexDecode スtringの長さが無効です	変換コンポーネントがStringを 16 進数でデコードしようとしたが、Stringの長さが無効でした。デコードするStringの文字数は偶数でなければなりません	エラー	
BCGEDIUT0035	HexDecode 文字が無効です	変換コンポーネントがHexDecode コマンドを実行し、デコードできない文字値が検出されました。文字値: {0}	エラー	
BCGEDIUT0041	変換テーブルの検索に失敗しました	変換テーブルの検索項目 {0} が {1} にありません。デフォルト値 {2} が戻されました。	エラー	
BCGEDIUT0061	組み込みマップの値が無効です	組み込みマップにはバイト配列エレメントが必要です。命令ストリーム・オフセット: {1}、マップ名: {2}	エラー	
BCGEDIUT0100	ユーザー出口が見つかりません	ユーザー出口 {0} が見つかりませんでした	エラー	
BCGEDIUT0101	ユーザー出口で予期しない例外が発生しました	ユーザー出口 {0} に予期しない例外がありました: {1}	エラー	
BCGEDIUT0401	マップ制御Stringが見つかりません	データベースでマップ {0} の制御Stringが見つかりませんでした	エラー	
BCGEDIUT0402	マップ制御Stringが無効です	マップ {0} の制御Stringが無効であるか、または別のバージョン用にコンパイルされました	エラー	
BCGEDIUT0403	グローバル変数が見つかりません	グローバル変数 {0} が見つかりませんでした。マップ制御String {1} をロードできませんでした	エラー	
BCGEDIUT0404	グローバル変数に無効な初期値があります	グローバル変数 {0} の初期値が無効です。マップ制御String {1} をロードできませんでした	エラー	

表 30. EDI イベント・コードとメッセージ (続き)

EDI イベント・コード	イベント名	内部での記述	重大度	詳細な説明
BCGEDIUT0405	マップ制御ストリングの読み取り時に予期しない例外が発生しました	データベースからのマップ制御ストリングの読み取り時に予期しない例外が発生しました。マップ名: {0}、例外テキスト: {1}	エラー	
BCGEDIUT0406	グローバル変数の読み取り時に予期しない例外が発生しました	データベースからのグローバル変数の読み取り時に予期しない例外が発生しました。変数名: {0}、マップ名: {1}、例外テキスト: {2}	エラー	
BCGEDIUT0407	マップ制御ストリングの読み取り時にデータベース・エラーが発生しました	データベース・エラーのため、マップ {0} の制御ストリングをロードできませんでした	エラー	
BCGEDIUT0501	変換用の入力文書が空です	変換用の入力文書が空です	エラー	
BCGEDIVA0001	必須データ・エレメントがありません	必須データ・エレメントがありません。エレメント名 = {0}、セグメント名 = {1}、セグメントの位置 = {2}、送信側取引パートナー ID/修飾子 = {3}/{4}、受信側取引パートナー ID/修飾子 = {5}/{6}、制御番号 = {7}	エラー	
BCGEDIVA0002	データ・エレメントが長すぎます	データ・エレメントが長すぎます。エレメント名 = {0}、セグメント名 = {1}、セグメントの位置 = {2}、送信側取引パートナー ID/修飾子 = {3}/{4}、受信側取引パートナー ID/修飾子 = {5}/{6}、制御番号 = {7}、エレメント・タイプ = {8}、値 = {9}、有効な長さ = {10}、定義済み最大長 = {11}	エラー	

表 30. EDI イベント・コードとメッセージ (続き)

EDI イベント・コード	イベント名	内部での記述	重大度	詳細な説明
BCGEDIVA0003	データ・エレメントが短すぎます	データ・エレメントが短すぎます。エレメント名 = {0}、セグメント名 = {1}、セグメントの位置 = {2}、送信側取引パートナー ID/修飾子 = {3}/{4}、受信側取引パートナー ID/修飾子 = {5}/{6}、制御番号 = {7}、エレメント・タイプ = {8}、値 = {9}、有効な長さ = {10}、定義済み最小長 = {11}	エラー	
BCGEDIVA0004	検証テーブル内でコード値が見つかりません	検証テーブルでコード値が見つかりません。エレメント名 = {0}、セグメント名 = {1}、セグメントの位置 = {2}、送信側取引パートナー ID/修飾子 = {3}/{4}、受信側取引パートナー ID/修飾子 = {5}/{6}、制御番号 = {7}、エレメント・タイプ = {8}、値 = {9}、検証テーブル = {10}	エラー	
BCGEDIVA0010	「ペア」(P) の状態に失敗しました	「ペア」(P) の状態に失敗しました。標準では項目 {0} をペアとして定義していますが、項目 {1} のみが存在しました。セグメント名 = {2}、セグメントの位置 = {3}、送信側取引パートナー ID/修飾子 = {4}/{5}、受信側取引パートナー ID/修飾子 = {6}/{7}、制御番号 = {8}	エラー	
BCGEDIVA0011	「必要」(R) の状態に失敗しました	「必要」(R) の状態に失敗しました。標準では項目 {0} を必要として定義していますが、すべてがありません。セグメント名 = {2}、セグメントの位置 = {3}、送信側取引パートナー ID/修飾子 = {4}/{5}、受信側取引パートナー ID/修飾子 = {6}/{7}、制御番号 = {8}	エラー	

表 30. EDI イベント・コードとメッセージ (続き)

EDI イベント・コード	イベント名	内部での記述	重大度	詳細な説明
BCGEDIVA0012	「排他的」(E) の状態に失敗しました	「排他的」(E) の状態に失敗しました。標準では項目 {0} を相互に排他的として定義していますが、{1} が存在しています。セグメント名 = {2}、セグメントの位置 = {3}、送信側取引パートナー ID/修飾子 = {4}/{5}、受信側取引パートナー ID/修飾子 = {6}/{7}、制御番号 = {8}	エラー	
BCGEDIVA0013	「条件付き」(C) の状態に失敗しました	「条件付き」(C) の状態に失敗しました。標準では項目 {0} を条件付きで必要として定義していますが、{1} のみが存在しています。最初の項目が存在している場合は、他のすべての項目が存在していなければなりません。セグメント名 = {2}、セグメントの位置 = {3}、送信側取引パートナー ID/修飾子 = {4}/{5}、受信側取引パートナー ID/修飾子 = {6}/{7}、制御番号 = {8}	エラー	
BCGEDIVA0014	「条件付きでリスト」(L) の状態に失敗しました	「条件付きでリスト」(L) の状態に失敗しました。標準では項目 {0} を条件付きペアとして定義していますが、{1} のみが存在しています。最初の項目が存在している場合は、他の項目のうち 1 つ以上が存在していなければなりません。セグメント名 = {2}、セグメントの位置 = {3}、送信側取引パートナー ID/修飾子 = {4}/{5}、受信側取引パートナー ID/修飾子 = {6}/{7}、制御番号 = {8}	エラー	

表 30. EDI イベント・コードとメッセージ (続き)

EDI イベント・コード	イベント名	内部での記述	重大度	詳細な説明
BCGEDIVA0015	必須の複合エレメントがありません	必須の複合エレメントがありません。エレメント名 = {0}、セグメント名 = {1}、セグメントの位置 = {2}、送信側取引パートナー ID/修飾子 = {3}/{4}、受信側取引パートナー ID/修飾子 = {5}/{6}、制御番号 = {7}	エラー	
BCGEDIVA0016	複合データ・エレメントの最大反復回数を超えました	複合エレメントの反復回数が標準で定義された回数を超えています。エレメント名 = {0}、セグメント名 = {1}、セグメントの位置 = {2}、送信側取引パートナー ID/修飾子 = {3}/{4}、受信側取引パートナー ID/修飾子 = {5}/{6}、制御番号 = {7}、反復回数 = {8}、定義済み最大反復回数 = {9}	エラー	
BCGEDIVA0025	交換またはグループでトランザクションまたはメッセージが重複しています	現在の交換または機能グループ内でトランザクション集合またはメッセージが重複しています。トランザクション集合またはメッセージ制御番号 = {0}、送信側取引パートナー ID/修飾子 = {1}/{2}、受信側取引パートナー ID/修飾子 = {3}/{4}、制御番号 = {5}	エラー	
BCGEDIVA0030	データ・エレメントで文字セットの検証に失敗しました	データ・エレメントで文字セットの検証に失敗しました。エレメント名 = {0}、セグメント名 = {1}、セグメントの位置 = {2}、送信側取引パートナー ID/修飾子 = {3}/{4}、受信側取引パートナー ID/修飾子 = {5}/{6}、制御番号 = {7}、エレメント・タイプ = {8}、値 = {9}、検証テーブル = {10}	エラー	

表 30. EDI イベント・コードとメッセージ (続き)

EDI イベント・コード	イベント名	内部での記述	重大度	詳細な説明
BCGEDIVA0031	数値エレメントが無効です	数値エレメントが無効です。エレメント名 = {0}、セグメント名 = {1}、セグメントの位置 = {2}、送信側取引パートナー ID/修飾子 = {3}/{4}、受信側取引パートナー ID/修飾子 = {5}/{6}、制御番号 = {7}、エレメント・タイプ = {8}、値 = {9}	エラー	
BCGEDIVA0032	実数数値エレメントが無効です	実数数値エレメントが無効です。エレメント名 = {0}、セグメント名 = {1}、セグメントの位置 = {2}、送信側取引パートナー ID/修飾子 = {3}/{4}、受信側取引パートナー ID/修飾子 = {5}/{6}、制御番号 = {7}、エレメント・タイプ = {8}、値 = {9}	エラー	
BCGEDIVA0033	日付エレメントが無効です	日付エレメントが無効です。エレメント名 = {0}、セグメント名 = {1}、セグメントの位置 = {2}、送信側取引パートナー ID/修飾子 = {3}/{4}、受信側取引パートナー ID/修飾子 = {5}/{6}、制御番号 = {7}、エレメント・タイプ = {8}、値 = {9}	エラー	
BCGEDIVA0034	時刻エレメントが無効です	時刻エレメントが無効です。エレメント名 = {0}、セグメント名 = {1}、セグメントの位置 = {2}、送信側取引パートナー ID/修飾子 = {3}/{4}、受信側取引パートナー ID/修飾子 = {5}/{6}、制御番号 = {7}、エレメント・タイプ = {8}、値 = {9}	エラー	

表 30. EDI イベント・コードとメッセージ (続き)

EDI イベント・コード	イベント名	内部での記述	重大度	詳細な説明
BCGEDIVA0035	データ・エレメントの最大反復回数を超えました	エレメントの反復回数が標準で定義された回数を超えています。エレメント名 = {0}、セグメント名 = {1}、セグメントの位置 = {2}、送信側取引パートナー ID/修飾子 = {3}/{4}、受信側取引パートナー ID/修飾子 = {5}/{6}、制御番号 = {7}、反復回数 = {8}、定義済み最大反復回数 = {9}	エラー	
BCGEDIVA0050	セグメント内のエレメントが多すぎるか、または予期しないエレメントがあります	セグメント内のエレメントが多すぎるか、または予期しないエレメントがあります。エレメント名 = {0}、セグメント名 = {1}、セグメントの位置 = {2}、送信側取引パートナー ID/修飾子 = {3}/{4}、受信側取引パートナー ID/修飾子 = {5}/{6}、制御番号 = {7}	エラー	
BCGEDIVA0051	セグメント ID を認識できません	セグメント ID を認識できません。セグメント名 = {0}、セグメントの位置 = {1}、送信側取引パートナー ID/修飾子 = {2}/{3}、受信側取引パートナー ID/修飾子 = {4}/{5}、制御番号 = {6}	エラー	
BCGEDIVA0052	必須セグメントがありません	必須セグメントがありません。セグメント名 = {0}、セグメントの位置 = {1}、送信側取引パートナー ID/修飾子 = {2}/{3}、受信側取引パートナー ID/修飾子 = {4}/{5}、制御番号 = {6}	エラー	
BCGEDIVA0054	ループの反復回数が標準で定義された回数を超えています	ループの反復回数が標準で定義された回数を超えています。ループ名 = {0}、セグメントの位置 = {1}、送信側取引パートナー ID/修飾子 = {2}/{3}、受信側取引パートナー ID/修飾子 = {4}/{5}、制御番号 = {6}、反復回数 = {7}、定義済み最大反復回数 = {8}	エラー	

表 30. EDI イベント・コードとメッセージ (続き)

EDI イベント・コード	イベント名	内部での記述	重大度	詳細な説明
BCGEDIVA0055	セグメントの反復回数が標準で定義された回数を超えています	セグメントの反復回数が標準で定義された回数を超えています。セグメント名 = {0}、セグメントの位置 = {1}、送信側取引パートナー ID/修飾子 = {2}/{3}、受信側取引パートナー ID/修飾子 = {4}/{5}、制御番号 = {6}、反復回数 = {7}、定義済み最大反復回数 = {8}	エラー	
BCGEDIVA0101	トランザクション集合またはメッセージ制御番号の組み合わせが不適切です	ヘッダーおよびトレーラーで、トランザクション集合またはメッセージ制御番号が一致しません。グループ・ヘッダー制御番号 = {0}、グループ・トレーラー制御番号 = {1}、送信側取引パートナー ID/修飾子 = {2}/{3}、受信側取引パートナー ID/修飾子 = {4}/{5}、制御番号 = {6}	エラー	
BCGEDIVA0102	トランザクション集合またはメッセージ・トレーラーがないか、または無効です	トランザクション集合またはメッセージ・トレーラーがないか、または無効です。制御番号 = {0}、送信側取引パートナー ID/修飾子 = {1}/{2}、受信側取引パートナー ID/修飾子 = {3}/{4}、制御番号 = {5}	エラー	
BCGEDIVA0103	トランザクション集合またはメッセージ・トレーラー・カウントが無効です	トランザクション集合またはメッセージ・トレーラーに無効なセグメント・カウントが含まれています。トランザクション集合またはメッセージ制御番号 = {0}、送信側取引パートナー ID/修飾子 = {1}/{2}、受信側取引パートナー ID/修飾子 = {3}/{4}、トレーラーからの値 = {5}、実際の受信数 = {6}	エラー	

表 30. EDI イベント・コードとメッセージ (続き)

EDI イベント・コード	イベント名	内部での記述	重大度	詳細な説明
BCGEDIVA0151	機能グループの制御番号の組み合わせが不適切です	ヘッダーおよびトレーラーで、機能グループ制御番号が一致しません。ヘッダー制御番号 = {0}、トレーラー制御番号 = {1}、送信側取引パートナー ID/修飾子 = {2}/{3}、受信側取引パートナー ID/修飾子 = {4}/{5}、制御番号 = {6}	エラー	
BCGEDIVA0152	機能グループのトレーラーがないか、または無効です	機能グループ・トレーラーがないか、または無効です。機能制御番号 = {0}、送信側取引パートナー ID/修飾子 = {1}/{2}、受信側取引パートナー ID/修飾子 = {3}/{4}、制御番号 = {5}	エラー	
BCGEDIVA0153	機能グループのトレーラー・カウントが無効です	機能グループ・トレーラーに無効なトランザクション集合またはメッセージ・カウントが含まれています。機能制御番号 = {0}、送信側取引パートナー ID/修飾子 = {1}/{2}、受信側取引パートナー ID/修飾子 = {3}/{4}、制御番号 = {5}、トレーラーからの値 = {6}、実際の受信数 = {7}	エラー	
BCGEDIVA0158	交換でグループが重複しています	現在の交換内で重複するグループが検出されました。グループ制御番号 = {0}、送信側取引パートナー ID/修飾子 = {1}/{2}、受信側取引パートナー ID/修飾子 = {3}/{4}、制御番号 = {5}	エラー	
BCGEDIVA0202	交換のトレーラーがないか、または無効です	交換トレーラーがないか、または無効です。交換ヘッダー制御番号 = {0}、送信側取引パートナー ID/修飾子 = {1}/{2}、受信側取引パートナー ID/修飾子 = {3}/{4}	エラー	

表 30. EDI イベント・コードとメッセージ (続き)

EDI イベント・コード	イベント名	内部での記述	重大度	詳細な説明
BCGEDIVA0203	交換の制御番号の組み合わせが不適切です	ヘッダーおよびトレーラーで、交換制御番号が一致しません。交換ヘッダー制御番号 = {0}、交換トレーラー制御番号 = {1}、送信側取引パートナー ID/修飾子 = {2}/{3}、受信側取引パートナー ID/修飾子 = {4}/{5}	エラー	
BCGEDIVA0205	交換のトレーラー・カウントが無効です	交換トレーラーに無効なグループまたはメッセージ・カウントが含まれています。交換ヘッダー制御番号 = {0}、送信側取引パートナー ID/修飾子 = {1}/{2}、受信側取引パートナー ID/修飾子 = {3}/{4}、トレーラーからの値 = {5}、実際の受信数 = {6}	エラー	
BCGEDIVA0211	交換が重複しています	重複する交換が検出されました。交換ヘッダー制御番号 = {0}、送信側取引パートナー ID/修飾子 = {1}/{2}、受信側取引パートナー ID/修飾子 = {3}/{4}	エラー	
BCGEDIVA0981	ユーザー指定の検証マップが見つかりません。	ユーザー指定の検証マップ {0} が見つかりません	エラー	
BCGEDIVA0982	サービス・セグメント検証マップが見つかりません。	サービス・セグメント検証マップ {0} が見つかりません	エラー	
BCGEDIVA0983	文書構文に対して、サービス・セグメント検証がサポートされていません。	文書構文に対して、サービス・セグメント検証がサポートされていません	エラー	
BCGEDIVA0991	必要なプロパティまたはコンテンツ・エレメントが見つかりません	必要なプロパティまたはコンテンツ・エレメント {0} が見つかりません	エラー	
BCGEDIVA0992	メッセージ・プロパティが見つかりません	メッセージ・プロパティが見つかりません	エラー	
BCGEDIVA0993	メタデータが見つかりません	メタデータが見つかりません。ディクショナリー = {0}、文書タイプ = {1}、構文 = {2}	エラー	

表 30. EDI イベント・コードとメッセージ (続き)

EDI イベント・コード	イベント名	内部での記述	重大度	詳細な説明
BCGEDIVA0994	トランザクション集合 またはメッセージが空 です	EDI トランザクション集合 またはメッセージが空です	エラー	
BCGEDIVA0995	致命的パーサー・エラー	致命的パーサー・エラーを 検出しました	エラー	
BCGEDIVA0997	フローの向きが不明で す	不明のフローの向き {0} が 指定されました	エラー	
BCGEDIVA0998	サポートされない構文 タイプです	サポートされない構文タイ プ {0} が指定されました	エラー	
BCGEDIVA0999	不明のオブジェクトを 受信しました	タイプ {0} の不明のオブジ ェクトを受信しました	エラー	

付録 C. コンポーネント固有のプロパティ・ファイル

コンソール、Receiver、および Document Manager の各コンポーネントには、それぞれコンポーネント固有のプロパティ・ファイルが含まれています。以下の表に、各コンポーネントの基本的な実行時プロパティをすべて示します。

- コンソール固有プロパティ - 表 31
- Receiver 固有プロパティ - 136 ページの表 32
- Receiver WAS ログ・プロパティ - 140 ページの表 33
- ルーター固有プロパティ - 141 ページの表 34
- ルーター WAS ログ・プロパティ - 152 ページの表 35

表 31. *bcg_console.properties* ファイルの内容 (コンソール固有プロパティ)

項目	デフォルト値	可能な設定	説明
## DR モード標識プロパティ			
console.environment		空白または DR	コンソールに表示され、これが DR 環境かどうかを示すテキスト・ストリング
## バージョン標識			
console.version	6.0.0	バージョン番号	通知の目的で使用されるテキスト・ストリング
## DB プロシージャ監査デバッグ・レベル ## 0 = オフ、1 = オン			
ibm.bcg.db.debugLevel	0	0、1	データベースのデバッグをオンまたはオフに設定
##### log4j デバッグ・プロパティの開始 ##### # Log4J デバッグ・プロパティ # 可能なカテゴリー - debug/info/warn/error/fatal # デフォルトのカテゴリー「error」、 出力先: STDOUT および RollingFile			
log4j.rootCategory	error, stdout, RollingFile	All、Off、debug、info、warn、error、fatal	すべてのコンテナのルート・ログ設定。ログは、log4j.rootCategory=OFF と設定することにより完全にオフに切り替え可能。
log4j.appender.stdout	org.apache.log4j.FileAppender		Log4J ライブラリーに使用するログ Java クラス
log4j.appender.stdout.File	System.out		

表 31. `bcg_console.properties` ファイルの内容 (コンソール固有プロパティ) (続き)

項目	デフォルト値	可能な設定	説明
<code>log4j.appender.stdout.layout</code>	<code>org.apache.log4j. PatternLayout</code>		Log4J ライブラリーに使用するロギング Java クラス
<code>log4j.appender.stdout.layout. ConversionPattern</code>	<code>%d{ABSOLUTE} %c{1} [%t] - %m%n</code>		ログ・ファイルのロギング・パターン
<code>log4j.appender.RollingFile</code>	<code>org.apache.log4j. RollingFile Appender</code>		Log4J ライブラリーに使用するロギング Java クラス
<code>log4j.appender.RollingFile.File</code>	<code>{INSTALL DIR}/ was/profiles/ bcgconsole/logs/ bcgconsole/ bcg_console.log</code>		ローリング・ログ・ファイル名およびパス
<code>log4j.appender.RollingFile. MaxFileSize</code>	1000KB		ローリング前のログ・ファイルの最大サイズ
<code>log4j.appender.RollingFile. MaxBackupIndex</code>	5		ローリング済みログ・ファイルの最大数
<code>log4j.appender.RollingFile.layout</code>	<code>org.apache.log4j. PatternLayout</code>		Log4J ライブラリーに使用するロギング Java クラス
<code>log4j.appender.RollingFile.layout. ConversionPattern</code>	<code>%d{DATE} %c {2} [%t] - %m%n</code>		ログ・ファイルのロギング・パターン
<code>ibm.bcg.appserver.loggerClass</code>	<code>com.shared. logging. Log4jLogger</code>		使用する適切なロギング・クラスを指定
## コンソール・グローバル appserver プロパティ			
<code>ibm.bcg.appserver.ejbEnabled</code>	TRUE	true、false	管理サービスが EJB と直接サービスのどちらを使用するかを指定
<code>ibm.bcg.appserver.mgmt.pool. maxsize</code>	20		EJB プールのサイズ
<code>ibm.bcg.appserver.mgmt.ctx. instancepolicy</code>	singleton		JNDI 初期コンテキスト・ポリシー
<code>java.naming.security.principal</code>	admin		JNDI セキュリティ・プリンシパル・パラメーター
## Websphere JNDI 設定			
<code>ibm.bcg.appserver. jndiInitialContextFactory</code>	<code>com.ibm. websphere. naming.Wsn InitialContext Factory</code>		JNDI コンテキスト・ファクトリー
<code>ibm.bcg.appserver. jndiContextProviderURL</code>	<code>corbaloc:iiop: localhost:52809</code>		JNDI プロバイダー URL
<code>ibm.bcg.appserver.jdbcJndiPool</code>	<code>\$CONSOLE .JNDI\$</code>	<code>datasources/DB2 DS,datasources /OraclePool</code>	データ・ソース JNDI プレフィックス

表 31. `bcg_console.properties` ファイルの内容 (コンソール固有プロパティ) (続き)

項目	デフォルト値	可能な設定	説明
# データベース JDBC スキーマ			
<code>ibm.bcg.db.product</code>	<code>\$CONSOLE.DB. TYPE\$</code>	<code>db2, oracle</code>	データベース・タイプ
<code>bcg.co.db.schema</code>	<code>\$CONSOLE.DB. SID\$</code>		スキーマ情報 (DB2 - データベース所有者、Oracle - スキーマ所有者)
## JMS ポスター・インスタンス ## 可能な値は次のとおりです。 ## <code>com.ibm.bcg.shared.event. MQSeriesPoster</code>			
<code>ibm.bcg.jmsPosterInstance</code>	<code>com.ibm.bcg. shared.event. MQSeriesPoster</code>		
## イベント通知用の JMS プロパティ ## JNDI プロバイダー URL			
<code>ibm.bcg.jms_cntxt_url</code>	<code>{INSTALL DIR}/ console/lib/ config/jndi</code>		JMS 情報で使用される <code>.binding</code> ファイルの場所
<code>ibm.bcg.jms_jndi_factory</code>	<code>com.sun.jndi. fscontext. RefFSContext Factory</code>		
## 接続ファクトリー名			
<code>ibm.bcg.jms.qconnFactory.name</code>	<code>WBIC/QCF</code>		JMS キュー接続ファクトリー名
<code>ibm.bcg.jms.topicconnFactory.name</code>	<code>WBIC/TCF</code>		JMS トピック接続ファクトリー名
<code>ibm.bcg.jms.queue.name</code>	<code>WBIC/datalogQ</code>		JMS キュー名
## ゲートウェイ・キュー			
<code>ibm.bcg.outbound.gatewayDirectory</code>	<code>\$SHARED_DATA _DIR\$/gateways</code>		ゲートウェイ・ディレクトリー
## VTP			
<code>ibm.bcg.certs.vtp.CertificateDir</code>	<code>\$SHARED_DATA _DIR\$/security /certs</code>		w/ VTP を使用するためのクライアント証明書の場合 値が正しく指定されていない場合は、 <code>Console_SystemErr.log</code> でエラーをスローします。このエラーはフローに影響を与えないので、警告として処理できます。
<code>ibm.bcg.certs.vtp.Certificate</code>			VTP 公開鍵 (DER、バイナリー・フォーマット)

表 31. *bcg_console.properties* ファイルの内容 (コンソール固有プロパティ) (続き)

項目	デフォルト値	可能な設定	説明
<code>ibm.bcg.certs.vtp.PrivateKey</code>			VTP 秘密鍵 (pkcs8、バイナリー・フォーマット)
<code>ibm.bcg.certs.vtp.Passwd</code>			VTP 秘密鍵のパスワード
<code>ibm.bcg.certs.vtp.VerifySig</code>	FALSE	true、false	VTP が署名者を検証するかどうか (true、false) を指定
<code>ibm.bcg.vtp.RouterIn</code>	<code>\$SHARED_DATA _DIR\$/router_in</code>		Router In ディレクトリー
## EAI ディレクトリー管理			
<code>ibm.bcg.EAIDocDir</code>	Documents		コンソールにルーターが使用する EAI ディレクトリーの名前を付与
## 特殊文字 (partnerLogin、Receiver、および宛先タイプ (ゲートウェイ・タイプ) の検証に使用) ## 注: / ¥ の文字を許容するキーと許可しないキーの 2 つのキーが定義されます。 ## 国際化対応のため、これらの値は OS の言語やディレクトリー名に許可される文字に応じて変わります。			
<code>ibm.bcg.specialChars</code>	!#;\\& /?.,		
<code>ibm.bcg.specialCharsDir</code>	!#;.& ?.,		

表 32. *bcg_receiver.properties* ファイルの内容 (Receiver 固有プロパティ)

項目	デフォルト値	可能な設定	説明
##### これを設定すると <code>bcg.prperties</code> のロギング設定は無視されます。			
<code>bcg.use_container_logging</code>	TRUE	true、false	
##### BCG DB ##			
<code>bcg.co.db.DBType</code>	<code>\$RECEIVER. DB.TYPES\$</code>	db2、oracle	データベース・タイプ
<code>bcg.co.db.DBPoolName</code>	<code>\$RECEIVER. JNDIS\$</code>	<code>datasources/DB2DS、 datasources/Oracle Pool</code>	データ・ソース JNDI プレフィックス
<code>bcg.co.jndiContextURL</code>	<code>corbaloc:iiop: localhost:57809</code>		JNDI プロバイダー URL
<code>bcg.co.jndiFactory</code>	<code>com.ibm. websphere. naming. WsnInitial ContextFactory</code>		JNDI コンテキスト・ファクトリー

表 32. *bcg_receiver.properties* ファイルの内容 (Receiver 固有プロパティ) (続き)

項目	デフォルト値	可能な設定	説明
<code>bcg.co.db.schema</code>	<code>\$RECEIVER. DB.SID\$</code>		スキーマ情報 (DB2 - データベース所有者、Oracle - スキーマ所有者)
##### MQ PROPS			
<code>bcg.use_oaq</code>	<code>FALSE</code>	<code>true、false</code>	
<code>bcg.jms.queue.factory</code>	<code>WBIC/QCF</code>		JMS キュー接続ファクトリー名
<code>bcg.jms.topic.factory</code>	<code>WBIC/TCF</code>		JMS トピック接続ファクトリー名
<code>bcg.jms.jndi_factory</code>	<code>com.sun.jndi. fscontext.RefFS ContextFactory</code>		JNDI サーバーに接続するために使用されるクラス
<code>bcg.jms.context_url</code>	<code>{INSTALL_DIR}/ receiver/lib/ config/jndi</code>		JMS 情報で使用される <code>.binding</code> ファイルの場所
##### BPE			
<code>bcg.oaq_log_q</code>	<code>WBIC/datalogQ</code>		JMS キュー名
##### RECEIVER MBEAN			
<code>bcg.vms_receiver_reject_dir</code>	<code>\$SHARED_DATA _DIR\$/receiver /reject</code>		Receiver が拒否したメッセージを格納するファイル・システム・パス
<code>bcg.vms_receiver_tmp_dir</code>	<code>\$SHARED_DATA _DIR\$/receiver /tmp</code>		Receiver が一時メッセージを保管するファイル・システム・パス
##### END RECEIVER MBEAN			
<code>bcg.receiver.persistpath</code>	<code>\$SHARED_DATA _DIR\$/router_in/</code>		Receiver がインバウンド RosettaNet シグナルを保持するファイル・システム・パス
<code>bcg.receiver.sync.persistpath</code>	<code>\$SHARED_DATA _DIR\$/sync_in</code>		Receiver が同期 RosettaNet シグナルの Receiver を保持するファイル・システムのパス
<code>bcg.receiver.sync.sync CheckClasses</code>	<code>com.ibm.bcg. server.sync. SyncRosettaNet Request com.ibm .bcg.server.sync. SyncAS2Request com.ibm.bcg. server.sync.Sync SOAPRequest com.ibm.bcg. server.sync.Sync cXMLRequest</code>		
<code>bcg.receiver.sync.responseURL</code>	<code>/bcgreceiver/ SyncResponse</code>		同期応答の送信先 URI

表 32. *bcg_receiver.properties* ファイルの内容 (Receiver 固有プロパティ) (続き)

項目	デフォルト値	可能な設定	説明
<code>bcg.receiver.sync. responseURL.port</code>	<code>\$RECEIVER _HTTP_PORTS\$</code>		Receiver の HTTP ポート
## サブレット・プロパティ ## Receiver のサブレットによって メタデータとして保持される HTTP ヘ ッダー ## 「http.hdrdef」で始まるすべての プロパティは、 ## 保持されるヘッダーとして解釈さ れます。			
<code>bcg.http.hdrdef.fromID</code>	<code>x-aux-sender-id</code>		BPE によって処理され、メタデ ータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef.toID</code>	<code>x-aux-receiver-id</code>		BPE によって処理され、メタデ ータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef.protocol</code>	<code>x-aux-protocol</code>		BPE によって処理され、メタデ ータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef.protocolVersion</code>	<code>x-aux-protocol -version</code>		BPE によって処理され、メタデ ータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef.process</code>	<code>x-aux-process -type</code>		BPE によって処理され、メタデ ータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef.processVersion</code>	<code>x-aux-process -version</code>		BPE によって処理され、メタデ ータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef.msgid</code>	<code>x-aux-msg-id</code>		BPE によって処理され、メタデ ータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef.contentType</code>	<code>content-type</code>		BPE によって処理され、メタデ ータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef.systemMsgId</code>	<code>x-aux-system -msg-id</code>		BPE によって処理され、メタデ ータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef.RNResponseType</code>	<code>x-rn-response -type</code>		BPE によって処理され、メタデ ータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef.RNVersion</code>	<code>x-rn-version</code>		BPE によって処理され、メタデ ータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー

表 32. *bcg_receiver.properties* ファイルの内容 (Receiver 固有プロパティ) (続き)

項目	デフォルト値	可能な設定	説明
<code>bcg.http.hdrdef. productionFlag</code>	<code>x-aux-production</code>		BPE によって処理され、メタデータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef. provSessionId</code>	<code>x-aux-prov-session-id</code>		BPE によって処理され、メタデータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef. processInstanceId</code>	<code>x-aux-process-instance-id</code>		BPE によって処理され、メタデータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef. contentLength</code>	<code>Content-Length</code>		BPE によって処理され、メタデータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef. as2From</code>	<code>AS2-From</code>		BPE によって処理され、メタデータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef. as2To</code>	<code>AS2-To</code>		BPE によって処理され、メタデータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef. as2Version</code>	<code>AS2-Version</code>		BPE によって処理され、メタデータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef. mimeVersion</code>	<code>Mime-Version</code>		BPE によって処理され、メタデータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef. messageId</code>	<code>Message-ID</code>		BPE によって処理され、メタデータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef. date</code>	<code>Date</code>		BPE によって処理され、メタデータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef. from</code>	<code>From</code>		BPE によって処理され、メタデータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef. subject</code>	<code>Subject</code>		BPE によって処理され、メタデータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef. contentTransferEncoding</code>	<code>Content-Transfer-Encoding</code>		BPE によって処理され、メタデータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef. contentDisposition</code>	<code>Content-Disposition</code>		BPE によって処理され、メタデータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef. dispositionNotificationTo</code>	<code>Disposition-Notification-To</code>		BPE によって処理され、メタデータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー

表 32. *bcg_receiver.properties* ファイルの内容 (Receiver 固有プロパティ) (続き)

項目	デフォルト値	可能な設定	説明
<code>bcg.http.hdrdef. dispositionNotificationOptions</code>	Disposition- Notification- Options		BPE によって処理され、メタデータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef. receiptDeliveryOption</code>	Receipt-Delivery -Option		BPE によって処理され、メタデータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef. toPackagingName</code>	ToPackaging Name		BPE によって処理され、メタデータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef. asDocType</code>	ASDocType		BPE によって処理され、メタデータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef. recipientAddress</code>	Recipient -Address		BPE によって処理され、メタデータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef. authorization</code>	Authorization		BPE によって処理され、メタデータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef. soapAction</code>	SOAPAction		BPE によって処理され、メタデータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー

表 33. *receiver-was.logging.properties* ファイルの内容

項目	デフォルト値	可能な設定	説明
##### log4j デバッグ・プロパティの開始 ##### # 可能なカテゴリー - debug/info/warn/error/fatal # デフォルトのカテゴリー「error」、 出力先: STDOUT および RollingFile			
<code>log4j.rootCategory</code>	error, stdout, RollingFile	All, Off, debug, info, warn, error, fatal	すべてのコンテナのルート・ロギング設定。ロギングは、 <code>log4j.rootCategory=OFF</code> と設定することにより完全にオフに切り替え可能。
<code>log4j.appender.stdout</code>	org.apache.log4j. ConsoleAppender		Log4J ライブラリーに使用するロギング Java クラス
<code>log4j.appender.stdout.layout</code>	org.apache.log4j. PatternLayout		Log4J ライブラリーに使用するロギング Java クラス
# 呼び出し側のファイル名と行番号を 出力するパターン。			
<code>log4j.appender.stdout.layout. ConversionPattern</code>	%d{DATE} %-5p [%c{1}] [%t] - %m%n		ログ・ファイルのロギング・パターン

表 33. receiver-was.logging.properties ファイルの内容 (続き)

項目	デフォルト値	可能な設定	説明
log4j.appender.RollingFile	org.apache.log4j. RollingFile Appender		Log4J ライブラリーに使用するロ ギング Java クラス
# ログ・ファイル名			
log4j.appender.RollingFile.File	{INSTALL DIR}/ was/profiles/ bcgreceiver/logs bcgreceiver/ bcg_receiver.log		ローリング・ログ・ファイル名お よびパス
log4j.appender.RollingFile. MaxFileSize	1000KB		ローリング前のログ・ファイルの 最大サイズ
# 保持するバックアップ・ファイルの 数			
log4j.appender.RollingFile. MaxBackupIndex	10		ローリング済みログ・ファイルの 最大数
log4j.appender.RollingFile.layout	org.apache.log4j. PatternLayout		Log4J ライブラリーに使用するロ ギング Java クラス
log4j.appender.RollingFile.layout. ConversionPattern	%d{DATE} %-5p [%c{1}] [%t] - %m%n		ログ・ファイルのロギング・パタ ーン
log4j.category.com.ibm.bcg.util. threadPool	error		
#log4j.category.com.ibm.bcg.server. util	debug		
#log4j.category.com.ibm.bcg.server	debug		
log4j.category.com.ibm.bcg.co.db	error		

表 34. bcg.properties (ルーター固有プロパティ)

項目	デフォルト値	可能な設定	説明
##### プロパティ・ロギング設定が 無視されるように設定			
bcg.use_container_logging	TRUE	true、false	
##### サード・パーティーの duns #####	105217165		
bcg.duns			
##### BCG DB ##			
bcg.co.db.DBType	\$ROUTER.DB. TYPES\$	db2、oracle	データベース・タイプ
bcg.co.db.DBPoolName	\$ROUTER.JNDI\$	datasources/DB2 DS,datasources /OraclePool	データ・ソース JNDI プレフィッ クス
bcg.co.jndiContextURL	corbaloc:iiop: localhost:56809		JNDI プロバイダー URL

表 34. *bcg.properties* (ルーター固有プロパティ) (続き)

項目	デフォルト値	可能な設定	説明
<code>bcg.co.jndiFactory</code>	<code>com.ibm.websphere.naming.WsnInitialContextFactory</code>		JNDI コンテキスト・ファクトリー
<code>bcg.co.db.schema</code>	<code>\$ROUTER.DB.SID\$</code>		スキーマ情報 (DB2 - データベース所有者、Oracle - スキーマ所有者)
##### MQ PROPS			
<code>bcg.use_oaq</code>	<code>FALSE</code>	<code>true</code> 、 <code>false</code>	
<code>bcg.jms.queue.factory</code>	<code>WBIC/QCF</code>		JMS キュー接続ファクトリー名
<code>bcg.jms.topic.factory</code>	<code>WBIC/TCF</code>		JMS トピック接続ファクトリー名
<code>bcg.jms.jndi_factory</code>	<code>com.sun.jndi.fscontext.RefFSContextFactory</code>		JNDI サーバーに接続するために使用されるクラス
<code>bcg.jms.context_url</code>	<code>{INSTALL DIR}/router/lib/config/jndi</code>		JMS 情報で使用される <code>.binding</code> ファイルの場所
##### BPE #####			
<code>bcg.oaq_log_q</code>	<code>WBIC/datalogQ</code>		JMS Log Receiver のキュー名
# Document Manager によってサポートされている最大ファイル・サイズ # (バイト単位)。例: 52000000 = 52MB。0 = 制限なし。			
<code>bcg.bpe_max_file_size</code>	<code>0</code>		最大ファイル・サイズ (バイト単位)
## MAIN RTR ##			
<code>bcg.oaq_bpe_in.main</code>	<code>WBIC/main_InboundQ</code>		JMS メインのインバウンド・キュー名
<code>bcg.oaq_bpe_out.main</code>	<code>WBIC/deliveryManagerQ</code>		JMS Delivery Manager キュー名
<code>bcg.inbound_poll_interval.main</code>	<code>1000</code>		ディレクトリー・スキャンごとの時間 (ミリ秒)
<code>bcg.inbound_files_per_pass.main</code>	<code>5</code>		スキャンごとに取得できる最大ファイル数
<code>bcg.in_thread_count.main</code>	<code>2</code>		メイン・ルーターのインバウンド・スレッドの数
<code>bcg.bpe_thread_count.main</code>	<code>2</code>		メイン・ルーターの BPE スレッドの数
<code>bcg.vms_inbound_directory.main</code>	<code>\$\$SHARED_DATA_DIR\$/router_in</code>		メイン・ルーターのインバウンド・ディレクトリー
<code>bcg.bpe_temp_directory.main</code>	<code>\$\$SHARED_DATA_DIR\$/dat</code>		メイン・ルーターのデータ・ディレクトリー

表 34. *bcg.properties* (ルーター固有プロパティ) (続き)

項目	デフォルト値	可能な設定	説明
## SIGNAL RTR ##			
<i>bcg.oaq_bpe_in.signal</i>	WBIC/signal _InboundQ		JMS シグナルのインバウンド・キュー名
<i>bcg.oaq_bpe_out.signal</i>	WBIC/delivery ManagerQ		JMS Delivery Manager キュー名
<i>bcg.inbound_poll_interval.signal</i>	1000		ディレクトリー・スキャンごとの時間 (ミリ秒)
<i>bcg.inbound_files_per_pass.signal</i>	5		スキャンごとに取得できる最大ファイル数
<i>bcg.in_thread_count.signal</i>	2		シグナル・ルーターのインバウンド・スレッドの数
<i>bcg.bpe_thread_count.signal</i>	2		シグナル・ルーターの BPE スレッドの数
<i>bcg.vms_inbound_directory.signal</i>	\$\$SHARED_DATA _DIR\$/signal_in		シグナル・ルーターのインバウンド・ディレクトリー
<i>bcg.bpe_temp_directory.signal</i>	\$\$SHARED_DATA _DIR\$/data		シグナル・ルーターのデータ・ディレクトリー
## SYNCHRONOUS RTR ##			
<i>bcg.oaq_bpe_in.synchronous</i>	WBIC/sync _InboundQ		JMS 同期インバウンド・キュー名
<i>bcg.oaq_bpe_out.synchronous</i>	WBIC/delivery ManagerQ		JMS Delivery Manager キュー名
<i>bcg.inbound_poll_interval.synchronous</i>	1000		ディレクトリー・スキャンごとの時間 (ミリ秒)
<i>bcg.inbound_files_per_pass.synchronous</i>	5		スキャンごとに取得できる最大ファイル数
<i>bcg.in_thread_count.synchronous</i>	2		同期ルーターのインバウンド・スレッドの数
<i>bcg.bpe_thread_count.synchronous</i>	2		同期ルーターの BPE スレッドの数
<i>bcg.vms_inbound_directory.synchronous</i>	\$\$SHARED_DATA _DIR\$/sync_in		同期ルーターのインバウンド・ディレクトリー
<i>bcg.bpe_temp_directory.synchronous</i>	\$\$SHARED_DATA _DIR\$/data		同期ルーターのデータ・ディレクトリー
## DESTINATION ##			
<i>bcg.destination.destination_class</i>	com.ibm.bcg. destination.H2 Destination Process		宛先クラス
### RECEIVER MBEAN ###			
<i>bcg.vms_receiver_reject_dir</i>	\$\$SHARED_DATA _DIR\$/receiver /reject		Receiver が拒否したメッセージを格納するファイル・システム・パス

表 34. *bcg.properties* (ルーター固有プロパティ) (続き)

項目	デフォルト値	可能な設定	説明
<code>bcg.vms_receiver_tmp_dir</code>	<code>\$\$SHARED_DATA _DIR\$/receiver /tmp</code>		Receiver が一時メッセージを保管するファイル・システム・パス
### DUPLICATE ###			
<code>bcg.duplicate.DupField1</code>	<code>x-aux-system -msg-id</code>		
<code>bcg.duplicate.DupField2</code>	なし		
<code>bcg.duplicate.DupField3</code>	なし		
<code>bcg.duplicate.DupField4</code>	なし		
<code>bcg.duplicate.DupField5</code>	なし		
<code>bcg.duplicate.DupField6</code>	なし		
<code>bcg.duplicate.DupField7</code>	なし		
<code>bcg.duplicate.DupField8</code>	なし		
<code>bcg.duplicate.DupField9</code>	なし		
<code>bcg.duplicate.DupField10</code>	なし		
### LogReceiver ###			
<code>bcg.logReceiver.queue</code>	<code>WBIC/datalogQ</code>		JMS Log Receiver のキュー名
<code>bcg.logReceiver.initial NumberOfReceivers</code>	4		Log Receiver の数
<code>bcg.dberrors.queue</code>	<code>WBIC/datalog ErrorQ</code>		JMS Log Receiver のエラー・キュー名
### アラート・エンジン ###			
<code>bcg.alertQueue.queue</code>	<code>WBIC/alertQ</code>		JMS アラート・キュー名
<code>bcg.alertQReceiver.initial NumberOfReceivers</code>	1		Alert Receiver の数
<code>bcg.alertQReceiver.maxRetries</code>	100		アラート再試行の最大回数
<code>bcg.alertQReceiver.retryInterval</code>	60000		アラートの再試行間隔 (ミリ秒)
<code>bcg.eventAlertQReceiver.queue</code>	<code>WBIC/alert EventQ</code>		JMS アラート・イベント・キュー名
<code>bcg.eventAlertQReceiver. initialNumberOfReceivers¥</code>	1		Alert Event Receiver の数
# ボリューム・アラート終了時刻の長時間後にこれを設定し、文書をシステムで受け取ったことを記録してから、 # アラートを評価できるようにします。			
<code>bcg.volumeAlertScheduler.allowance ForProcessingReceivedDocInMins</code>	10		

表 34. *bcg.properties* (ルーター固有プロパティ) (続き)

項目	デフォルト値	可能な設定	説明
<p># これらのパラメーターにより、過剰な E メール通知を防止できます。 「maxNotificationIntervalInMins」の時間間隔に、同じアラートが</p> <p># 「maxNotificationsInInterval」より多く発生する場合、 「minNotificationQuietIntervalInMins」の時間間隔内に同じタイプのアラートを受け取らなくなるまでアラートは保持され、 「heldAlertsBatchTimeInMins」ごとにバッチ処理されます。</p>			
<code>bcg.alertNotifications.maxNotificationsInInterval</code>	10		
<code>bcg.alertNotifications.maxNotificationIntervalInMins</code>	30		
<code>bcg.alertNotifications.minNotificationQuietIntervalInMins</code>	30		
<code>bcg.alertNotifications.heldAlertsBatchTimeInMin</code>	30		
<p># パートナーの E メール・アドレスが無効などの理由によって戻された通知は、</p> <p># to <code>bcg.alertNotifications.mailEnvelopeFrom</code> に移動します。</p>			
<code>bcg.alertNotifications.mailHost</code>	<code>\$ROUTER.ALERTS.SMTP_RELAYS</code>		SMTP リレー・ホスト
<code>bcg.alertNotifications.mailFrom</code>	<code>\$ROUTER.ALERTS.MAIL_FROMS</code>		「送信元」メール・アドレスのアラート
<code>bcg.alertNotifications.mailReplyTo</code>	<code>\$ROUTER.ALERTS.MAIL_FROMS</code>		「送信元」メール・アドレスのアラート
<code>bcg.alertNotifications.mailEnvelopeFrom</code>	<code>\$ROUTER.ALERTS.MAIL_FROMS</code>		「送信元」メール・アドレスのアラート
<p># 証明書有効期限イベント生成プログラムの実行時刻</p> <p># <分> <時間> <クラス名></p> <p># これは午前 1:13 に実行されます。</p>			
<code>alert.eventGenerator.schedule</code>	13 1 Certificate Expiration		
### Delivery Manager ###			
<code>bcg.delivery.gatewayDirectory</code>	<code>\$SHARED_DATA_DIR/gateways</code>		Gateways ディレクトリーの場所

表 34. *bcg.properties* (ルーター固有プロパティ) (続き)

項目	デフォルト値	可能な設定	説明
<code>bcg.delivery.smtpHost</code>	<code>\$ROUTER.DM. SMTP_RELAYS</code>		SMTP メール・ホスト
<code>bcg.delivery.smtpHostPort</code>	<code>\$ROUTER.DM. SMTP_RELAY. PORTS</code>		SMTP メール・ポート
<code>bcg.delivery.responseDir</code>	<code>\$\$SHARED_DATA _DIR\$/sync_in</code>		Synchronous ディレクトリーの場所
<code>bcg.delivery.msMaxFileLockLife</code>	180000		ファイルがロックされる最大時間 (ミリ秒)
<code>bcg.delivery.threadPoolMaxThreads</code>	50		
<code>bcg.delivery.gatewayMaxThreads</code>	20		ゲートウェイ・スレッドの最大数
<code>bcg.delivery.gwTransportMaxRetries</code>	3		ゲートウェイごとの再試行回数
# ミリ秒単位で、すべてのゲートウェイに適用されます。			
<code>bcg.delivery.gwTransport RetryInterval</code>	3000		ゲートウェイの再試行間隔 (ミリ秒)
<code>bcg.delivery.queue</code>	WBIC/delivery ManagerQ		JMS Delivery Manager キュー名
<code>bcg.deliveryQReceiver. initialNumberOfReceivers</code>	10		Gateway Receiver の数
<code>bcg.delivery.numberOfLoggers</code>	10		
# 応答サーブレットへの同期応答の配信			
<code>bcg.syncdelivery.queue</code>	WBIC/sync DeliveryManagerQ		JMS 同期 Delivery Manager キュー名
<code>bcg.syncdeliveryQReceiver. initialNumberOfReceivers</code>	3		同期 Delivery Manager Receiver の数
<code>#bcg.deliveryQReceiver.jmsLog</code>	jms.log		
<code>bcg.delivery.jmstimeout</code>	60000		
# 通知に関するソケットのタイムアウト (ミリ秒)			
<code>bcg.http.socketTimeout</code>	120000		HTTP ソケットのタイムアウト
<code>bcg.http.version</code>	1.1	1.0、1.1	HTTP バージョン
### RosettaNet ###			
<code>bcg.rosettanet.retryWaitTmMS</code>	5000		
<code>bcg.rosettanet.strictBoundaryParse</code>	FALSE	true、false	
<code>bcg.rosettanet.mimeBoundaryValidate</code>	FALSE	true、false	

表 34. *bcg.properties* (ルーター固有プロパティ) (続き)

項目	デフォルト値	可能な設定	説明
<pre>## プロパティが存在し、それが 「Literal」である場合は、 x-aux-production が文字どおり ## 「Production」、「Test」であると想 定します。プロパティが存在しない か、または ## 「Literal」ではない場合は、 x-aux-production が「True」または 「False」であると想定します。 ## どの値も大/小文字を区別しませ ん。</pre>			
<code>bcg.rosettanet.globalUsageCode</code>	Literal	Literal、 Production、Test	
<pre>## x-aux-production ヘッダーが 「Production」、「Test」、「True」、 または「False」でない場合、 ## およびこのプロパティが「1」に 設定されている場合は、 rosettanet.defaultGlbUsageCd プロパティ ー ## の値セットにデフォルト設定しま す。</pre>			
<code>bcg.rosettanet.default UsageCdOnErr</code>	1		
<code>bcg.rosettanet.defaultGlbUsageCd</code>	Production	Production、Test	
<pre>## プロパティが存在し、「1」に等 しい場合は、ビルダーが x-aux-process-instance-id を ## 提供し、これをアウトバウンド要求 のプロセス・インスタンス ID として 使用することを ## 想定しています。</pre>			
<code>bcg.rosettanet.useBuilder ProcessInstanceId</code>	1		
<pre>## ビルダーから提供された process-instance-id が (理由のいかんを 問わず) 無効の場合は、 ## 新規の process-instance-id を生成で きます。</pre>			
<code>bcg.rosettanet.genProcess InstanceIdOnError</code>	1		
#####			

表 34. *bcg.properties* (ルーター固有プロパティ) (続き)

項目	デフォルト値	可能な設定	説明
<code>bcg.receiver.persistpath</code>	<code>\$\$SHARED_DATA _DIR\$/router_in/</code>		
### RNE ###			
<code>bcg.rne.inbound_poll_interval</code>	1000		RosettaNet エンジンのポーリング 間隔 (ミリ秒)
<code>bcg.rne.in_thread_count</code>	2		RosettaNet エンジンのスレッド数
<code>bcg.rne.work_size</code>	50		
<code>bcg.0A1.fromContactName</code>	<code>\$ROUTER. CONTACT_ NAMES\$</code>		0A1 の連絡先名
<code>bcg.0A1.fromEMailAddr</code>	<code>\$ROUTER. CONTACT. MAIL_FROM\$</code>		0A1 の E メール・アドレス
<code>bcg.0A1.fromPhoneNbr</code>	<code>\$ROUTER. CONTACT. PHONE_NO\$</code>		0A1 の電話番号
<code>bcg.0A1.fromFaxNbr</code>	<code>\$ROUTER. CONTACT. FAX_NO\$</code>		0A1 の FAX 番号
## HTTP/S 関連プロパティ			
<code>bcg.http.SSLDebug</code>	FALSE	true、false	
## デジタル署名関連プロパティ			
# 可能な値: SHA1,MD5			
<code>bcg.rosettanet.signature. DigestAlgorithm</code>	SHA1	sha1、md5	このアルゴリズムを使用して、 Message Digest を生成します。 注: このプロパティはすべての プロトコルに適用されます。
# 可能な値: true、false			
<code>bcg.rosettanet.signature. RejectIfFailVal</code>	TRUE	true、false	
# 可能な値: true、false			
<code>bcg.rosettanet.signature. VerifySigner</code>	TRUE	true、false	このプロパティを使用して署名 者を検証します。 注: このプロパティはすべての プロトコルに適用されます。
## 暗号化プロパティ			
<code>bcg.CRLDir</code>	<code>\$\$SHARED_DATA _DIR\$/security /crl/</code>		CRL ディレクトリーへのパス

表 34. *bcg.properties* (ルーター固有プロパティ) (続き)

項目	デフォルト値	可能な設定	説明
<code>bcg.rosettnet.encrypt.CertDbRefreshInterval</code>	600000		CRL および VTP 証明書は、指定されたミリ秒後に再ロードされます。 注: このプロパティはすべてのプロトコルに適用されます。
# 有効な値: 3des、rc2-40			
<code>bcg.rosettnet.encrypt.Algorithm</code>	3des	3des、des、aes、rc2-40	メッセージの暗号化で使用するアルゴリズムを指定します。 注: このプロパティはすべてのプロトコルに適用されます。
# 署名を検証するために証明書を読み込みます。VTP 署名の検証に使用します。			
<code>bcg.certs.vtp.CertificateDir</code>	<code>\$\$SHARED_DATA_DIR\$/security/vtp</code>		
## サブレット・プロパティ ## Receiver のサブレットによってメタデータとして保持される HTTP ヘッダー ## 「http.hdrdef」で始まるすべてのプロパティは、 ## 保持されるヘッダーとして解釈されます。			
<code>bcg.http.hdrdef.fromID</code>	x-aux-sender-id		BPE によって処理され、メタデータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef.toID</code>	x-aux-receiver-id		BPE によって処理され、メタデータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef.protocol</code>	x-aux-protocol		BPE によって処理され、メタデータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef.protocolVersion</code>	x-aux-protocol-version		BPE によって処理され、メタデータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef.process</code>	x-aux-process-type		BPE によって処理され、メタデータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef.processVersion</code>	x-aux-process-version		BPE によって処理され、メタデータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー

表 34. *bcg.properties* (ルーター固有プロパティ) (続き)

項目	デフォルト値	可能な設定	説明
<code>bcg.http.hdrdef.msgid</code>	<code>x-aux-msg-id</code>		BPE によって処理され、メタデータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef.contentType</code>	<code>content-type</code>		BPE によって処理され、メタデータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef.systemMsgId</code>	<code>x-aux-system -msg-id</code>		BPE によって処理され、メタデータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef.RNResponseType</code>	<code>x-rn-response -type</code>		BPE によって処理され、メタデータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef.RNVersion</code>	<code>x-rn-version</code>		BPE によって処理され、メタデータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef.productionFlag</code>	<code>x-aux-production</code>		BPE によって処理され、メタデータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef.provSessionId</code>	<code>x-aux-prov -session-id</code>		BPE によって処理され、メタデータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef.processInstanceId</code>	<code>x-aux-process- instance-id</code>		BPE によって処理され、メタデータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef.contentLength</code>	<code>Content-Length</code>		BPE によって処理され、メタデータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef.as2From</code>	<code>AS2-From</code>		BPE によって処理され、メタデータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef.as2To</code>	<code>AS2-To</code>		BPE によって処理され、メタデータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef.as2Version</code>	<code>AS2-Version</code>		BPE によって処理され、メタデータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef.mimeVersion</code>	<code>Mime-Version</code>		BPE によって処理され、メタデータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef.messageId</code>	<code>Message-ID</code>		BPE によって処理され、メタデータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef.date</code>	<code>Date</code>		BPE によって処理され、メタデータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー

表 34. *bcg.properties* (ルーター固有プロパティ) (続き)

項目	デフォルト値	可能な設定	説明
<code>bcg.http.hdrdef.from</code>	From		BPE によって処理され、メタデータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef.subject</code>	Subject		BPE によって処理され、メタデータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef.contentTransferEncoding</code>	Content-Transfer-Encoding		BPE によって処理され、メタデータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef.contentDisposition</code>	Content-Disposition		BPE によって処理され、メタデータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef.dispositionNotificationTo</code>	Disposition-Notification-To		BPE によって処理され、メタデータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef.dispositionNotificationOptions</code>	Disposition-Notification-Options		BPE によって処理され、メタデータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef.receiptDeliveryOption</code>	Receipt-Delivery-Option		BPE によって処理され、メタデータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef.toPackagingName</code>	ToPackagingName		BPE によって処理され、メタデータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
<code>bcg.http.hdrdef.asDocType</code>	ASDocType		BPE によって処理され、メタデータ・ファイルに保持される HTTP ヘッダー
# パッケージ化関連プロパティ # 次のいずれかのコンテンツ・タイプを持つ添付ファイルには、Base64 エンコードは行われません。			
<code>bcg.pkg.sponsor.contenttypes</code>	<code>bcg.pkg.sponsor.contenttypes</code>		
### スポンサー・エンジンの開始 ###			
<code>bcg.sponsor.inbound_poll_interval</code>	10000		
<code>bcg.sponsor.in_thread_count</code>	2		スポンサー・エンジンのインバウンド・スレッドの数
<code>bcg.sponsor.work_size</code>	10		
<code>bcg.delivery.sponsor.eventMsgClass</code>	<code>com.ibm.bcg.delivery.sponsor.SponsorEventMessage</code>		
### DB プロシーチャーのデバッグ・プロパティ ###			

表 34. *bcg.properties* (ルーター固有プロパティ) (続き)

項目	デフォルト値	可能な設定	説明
DBProcDebug	1		データベースのデバッグ・フラグ
# グローバル状態エンジンのインスタンス ID			
GlobalStateEngInstanceId	bcg		
# 可能な否認防止値#			
bcg.nonrep.inbound-doc	true	true、false	送られてくる文書の否認防止を使用可能に設定します
bcg.nonrep.outbound-doc	true	true、false	送信する文書の否認防止を使用可能にします
# 可能な値は 1.0 または 1.1#			
wbipackaging_version = 1.0	1.0	1.0、1.1	バックエンド統合 XML パッケージ化トランスポート・エンベロープの場合。バージョン 1.0 はバージョン 4.2.2 FP1 以前用。バージョン 1.1 は 4.2.2 FP2 以降用。バージョン 1.1 には、接続に関連したコンテンツ ID が含まれていません。
#ITLM が必要な JAR ファイル#			
bcg.ITLMJar={INSTALLDIR}/ router/lib/support/ ITLMToolkit.jar			ライセンス交付のサポートに必要。
bcg.logJar={INSTALLDIR}/ router/lib/support/jlog.jar			ライセンス交付のサポートに必要。

表 35. *router-was.logging.properties* ファイルの内容

項目	デフォルト値	可能な設定	説明
##### log4j デバッグ・プロパティの開始 ##### # 可能なカテゴリ - debug/info/warn/error/fatal # デフォルトのカテゴリ「error」、出力先: STDOUT および RollingFile		debug/info/warn error/fatal	
log4j.rootCategory	error、stdout、 RollingFile	All、Off、debug、 info、warn、error、 fatal	すべてのコンテナのルート・ロギング設定。ロギングは、log4j.rootCategory=OFF と設定することにより完全にオフに切り替え可能。
log4j.appender.stdout	org.apache.log4j. ConsoleAppender		Log4J ライブラリーに使用するロギング Java クラス
log4j.appender.stdout.layout	org.apache.log4j. PatternLayout		Log4J ライブラリーに使用するロギング Java クラス

表 35. router-was.logging.properties ファイルの内容 (続き)

項目	デフォルト値	可能な設定	説明
# 呼び出し側のファイル名と行番号を出力するパターン。			
log4j.appender.stdout.layout. ConversionPattern	%d{DATE} %-5p [%c{1}] [%t] - %m%n		ログ・ファイルのロギング・パターン
log4j.appender.RollingFile	org.apache.log4j. RollingFile Appender		Log4J ライブラリーに使用するロギング Java クラス
# ログ・ファイル名			
log4j.appender.RollingFile.File	{INSTALL DIR}/ was/profiles/ bcgdocmgr/logs/ bcgdocmgr/ bcg_router.log		ローリング・ログ・ファイル名およびパス
log4j.appender.RollingFile. MaxFileSize	50000KB		ローリング前のログ・ファイルの最大サイズ
# 保持するバックアップ・ファイルの数			
log4j.appender.RollingFile. MaxBackupIndex	10		ローリング済みログ・ファイルの最大数
log4j.appender.RollingFile.layout	org.apache.log4j. PatternLayout		Log4J ライブラリーに使用するロギング Java クラス
log4j.appender.RollingFile.layout. ConversionPattern	%d{DATE} %-5p [%c{1}] [%t] - %m%n		ログ・ファイルのロギング・パターン
log4j.category.com.ibm.bcg.co.db	error		
##### 不要なタイミング・イベントの生成を抑制するために追加			
#log4j.category.com.ibm.bcg.timing	error		

特記事項

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Burlingame Laboratory Director
IBM Burlingame Laboratory
577 Airport Blvd., Suite 800
Burlingame, CA 94010
U.S.A

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確証できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

著作権使用許諾

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

WebSphere Partner Gateway には、ICU4J というコードが含まれています。ICU4J のコードは、IBM の「プログラムのご使用条件」に基づきその「適用除外コンポー

ネット」の条項に従うことを条件に使用許諾されます。ただし、IBM は以下の条項を明示することを義務付けられています。

著作権および許可に関する注意事項

本「プログラム」は、IBM 社およびその他の著作権により保護されています。

Copyright (c) 1995-2003

All rights reserved.

このソフトウェアおよびその関連文書ファイル (以下「ソフトウェア」といいます) を取得する人には、この「ソフトウェア」の、使用、複製、変更、結合、出版、配布またはソフトウェアの複製を販売する権利を含め、制約なく取引する権利を無償で許可し、また、「ソフトウェア」を与えられた人にも、この権利が与えられます。ただし、上記の著作権表示およびこの許可通知が、すべてのこの「ソフトウェア」の複製に記載され、また上記の著作権表示およびこの許可通知が、関連文書に記載されている場合に限りです。

ソフトウェアは、特定物として現存するままの状態を提供され、第三者の権利の不侵害の保証、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含む、すべての明示もしくは黙示の保証責任または保証条件を負わないものとします。さらに、著作権者またはこの注意事項に含まれている権利の所有者は、このソフトウェアの使用または実行に起因するものであれ、関連するものであれ、契約、過失、不法行為のいずれによるものであれ、使用、データまたは利益の喪失から発生する請求、あるいは特別、直接的、間接的、結果的損害、または他の一切の損害について、何等の責任も負いません。

この通知に記されているもの、および事前の書面による承認がある場合を除き、著作権者の名前を、このソフトウェアの広告、または販売、使用、取引の促進のためにご使用になることはできません。

プログラミング・インターフェース情報

プログラミング・インターフェース情報は、存在する場合、プログラムを使用してアプリケーション・ソフトウェアを作成する上で役立つことを目的としています。一般使用プログラミング・インターフェースにより、お客様はこのプログラム・ツール・サービスを含むアプリケーション・ソフトウェアを書くことができます。ただし、この情報には、診断、修正、および調整情報が含まれている場合があります。診断、修正、調整情報は、お客様のアプリケーション・ソフトウェアのデバッグ支援のために提供されています。

警告: 診断、修正、調整情報は、変更される場合がありますので、プログラミング・インターフェースとしては使用しないでください。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

i5/OS
IBM
IBM ロゴ
AIX
CICS
CrossWorlds
DB2
DB2 Universal Database
IMS
Informix
iSeries
Lotus
Lotus Domino
Lotus Notes
MQIntegrator
MQSeries
MVS
OS/400
Passport Advantage
SupportPac
WebSphere
z/OS

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

MMX および Pentium は、Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。



WebSphere Partner Gateway Enterprise and Advanced Editions バージョン 6.0。

索引

日本語、数字、英字、特殊文字の順に配列されています。なお、濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

- アカウント管理アクティビティ 23
 - 拡張検索の実行 36
 - ゲートウェイ構成の管理 24
 - ゲートウェイ構成の削除 28, 29
 - ゲートウェイ構成のための情報 24
 - ゲートウェイの表示および編集 26
 - 参加者接続の管理 33
 - 参加者の検索 23
 - 参加者の属性値の変更 37
 - 参加者プロフィールの管理 23
 - 参加者プロフィールの表示および編集 23
 - 証明書の管理 30
 - 除外リストの管理 38
 - 除外リストの編集 39
 - 除外リストへの参加者の追加 39
 - 新規アクションの選択 38
 - 接続構成の変更 37
 - 接続コンポーネント 33
 - 接続の基本検索の実行 35
 - 接続の検索 35
 - 接続の使用不可化または非アクティブ化 38
 - 接続の重複 34
 - ソース・ゲートウェイまたはターゲット・ゲートウェイの変更 38
 - デジタル証明書の使用不可化 32
 - デジタル証明書の表示および編集 31
 - デフォルト・ゲートウェイの表示 28
- アクション
 - 使用可能化または使用不可化 12
 - 新規の選択 38
- アクセス権
 - 詳細の表示および編集 9
- アクティビティ
 - アカウント管理 23
 - ハブ管理者 7
- 値
 - 参加者接続のテスト 49
 - 文書ビューアー 57, 58, 62
- イベント
 - 検索 54
 - 検索条件 55
- イベント・コード
 - 管理 8
 - 名前の保管 9

- イベント・コード名の保管 9
- イベント・タイプ 54
 - 説明 54
- イベント・ビューアー
 - イベント詳細の表示 55
 - 検索条件 55
 - 説明 53
- エクスポート
 - 文書ボリューム・レポート 49
- エラー・イベント・タイプ 54
- エラー・フィールド
 - 検証エラー 65
- お客様サービス ix
- オンライン・ヘルプ ix

[カ行]

- 会社
 - Web サイト ix
- 拡張検索
 - 接続 36
- 管理
 - イベント・コード 8
 - ゲートウェイ構成 24
 - 参加者接続 33
 - 参加者プロフィール 23
 - 証明書 30
 - 除外リスト 38
 - パスワード・ポリシー 7
 - XML 形式 11
- 基本検索、接続 35
- キュー、文書の削除 43
- キューからの文書の削除 43
- キュー内の文書、表示 42
- ゲートウェイ
 - キューからの文書の削除 43
 - キュー内の文書の表示 42
 - キューの使用 41
 - 構成の管理 24
 - 構成の削除 28, 29
 - 状況の変更 43
 - 詳細の表示 43
 - ソースまたはターゲットの変更 38
 - デフォルトの表示 28
 - 必要な構成情報 24
 - 表示および編集 26
 - リストの表示 41
- ゲートウェイ構成のために必要な情報 24
- ゲートウェイ・キューの使用 41
- 警告イベント・タイプ 54

結果コード

Web サーバー 50

検索

イベント 54

参加者 23

接続 35

接続の拡張 36

接続の基本 35

メッセージ、AS1/AS2 ビューアー 56

RosettaNet プロセス 58

検索条件

イベント・ビューアー 55

文書ビューアー 61

文書分析 47

文書ボリューム・レポート 48

AS1/AS2 ビューアー 57

RosettaNet ビューアー 59

検証エラー

表示 65

構成

ゲートウェイに必要な情報 24

ゲートウェイの管理 24

ゲートウェイの削除 28, 29

接続の変更 37

ターゲット 10

ダウンロード・パッケージ 11

文書フロー定義 11

コンポーネント

接続 33

[サ行]

削除

ゲートウェイ構成 28, 29

ターゲット 11

XML 形式 12

作成

文書ボリューム・レポート 48

参加者

検索 23

除外リストへの追加 39

接続コンポーネント 33

接続の拡張検索 36

接続の管理 33

接続の基本検索 35

接続の検索 35

接続の重複 34

属性値の変更 37

プロファイルの管理 23

プロファイルの表示および編集 23

参加者接続のテスト

値 49

説明 49

Web サーバー結果コード 50

実行

接続の拡張検索 36

実行 (続き)

接続の基本検索 35

重大イベント・タイプ 54

使用可能化

アクション 12

ターゲット 10

状況、ゲートウェイの変更 43

詳細、ゲートウェイの表示 43

使用不可化

アクション 12

接続 38

ターゲット 10

デジタル証明書 32

証明書

管理 30

使用不可化 32

表示および編集 31

除外リスト

管理 38

参加者の追加 39

編集 39

新規アクション、選択 38

接続

基本検索の実行 35

検索 35

構成の変更 37

コンポーネント 33

参加者の管理 33

使用不可化または非アクティブ化 38

重複 34

接続の非アクティブ化 38

選択

新規アクション 38

ソース・ゲートウェイ、変更 38

属性

参加者の値の変更 37

[タ行]

ターゲット

ゲートウェイの変更 38

構成 10

削除 11

使用可能化または使用不可化 10

詳細の表示および編集 10

ダウンロード・パッケージ、構成 11

ツール

参加者接続のテスト 49

説明 45

文書分析 45

文書ボリューム・レポート 47

追加

除外リストへの参加者 39

通知イベント・タイプ 54

データベース照会効率、最適化 93

- 停止
 - ルーターおよび Receiver 5
 - Community Console 5
- デジタル証明書
 - 管理 30
 - 使用不可化 32
 - 表示および編集 31
- デバッグ・イベント 54
- デフォルト
 - ゲートウェイ 28
- トラブルシューティング
 - データベース照会効率の最適化 93
 - 破損後のルーターの再始動 94
 - マシン・シャットダウン後のシステムの始動 94
 - メモリー不足エラーの回避 87
 - ルーターの再始動 94

[八行]

- 破損、後の再始動 94
- 破損後のルーターの再始動 94
- パッケージの詳細
 - AS1/AS2 ビューアー 58
- ハブ管理者のアクティビティ 7
 - アクションの使用可能化または使用不可化 12
 - アクセス権の詳細の表示および編集 9
 - イベント・コードの管理 8
 - イベント・コード名の保管 9
 - ターゲットの構成 10
 - ターゲットの削除 11
 - ターゲットの使用可能化または使用不可化 10
 - ターゲットの詳細の表示および編集 10
 - パスワード・ポリシーの管理 7
 - 文書フロー定義およびダウンロード・パッケージの構成 11
 - XML 形式の値の編集 11
 - XML 形式の管理 11
 - XML 形式の削除 12
- 必要な情報、ゲートウェイ構成 24
- ビューアー
 - イベント・ビューアー 53
 - 文書ビューアー 60
 - AS1/AS2 ビューアー 56
 - RosettaNet ビューアー 58
- 表示
 - アクセス権の詳細 9
 - イベント 62
 - イベント詳細、イベント・ビューアー 55
 - キュー内の文書 42
 - ゲートウェイ 26
 - ゲートウェイの詳細 43
 - ゲートウェイ・リスト 41
 - 検証エラー 65
 - 参加者プロファイル 23
 - ターゲットの詳細 10
 - デジタル証明書 31
 - デフォルト・ゲートウェイ 28

- 表示 (続き)
 - プロセスおよびイベント詳細、文書分析 47
 - 文書
 - 文書分析 46
 - 文書処理の詳細、RosettaNet ビューアー 60
 - 文書の詳細 62
 - メッセージの詳細、AS1/AS2 ビューアー 57
 - ロー文書 60, 62
 - RosettaNet プロセスの詳細 59
 - プロファイル
 - 参加者の管理 23
 - 文書
 - キューからの削除 43
 - キュー内の表示 42
 - 詳細、文書ビューアー 62
 - 処理の値、文書ビューアー 62
 - 文書状態
 - 定義 45
 - 文書ボリューム・レポート 47, 48
 - 文書ビューアー
 - 値 57, 58, 62
 - 検索条件 61
 - 説明 60
 - 文書処理の値 62
 - 文書の詳細 62
 - 文書フロー定義
 - 構成 11
 - 文書分析
 - 検索条件 47
 - 説明 45
 - プロセスおよびイベント詳細の表示 47
 - 文書の表示 46
 - 文書ボリューム・レポート
 - 印刷 49
 - エクスポート 49
 - 検索条件 48
 - 作成 48
 - 説明 47
 - 文書状態 47, 48
 - ヘルプ ix
 - ヘルプの参照先 ix
 - 変更
 - ゲートウェイ状況 43
 - 参加者の属性値 37
 - 接続構成 37
 - ソース・ゲートウェイまたはターゲット・ゲートウェイ 38
 - 編集
 - アクセス権の詳細 9
 - ゲートウェイ 26
 - 参加者プロファイル 23
 - 除外リスト 39
 - ターゲットの詳細 10
 - デジタル証明書 31
 - XML 形式の値 11

[マ行]

メモリー不足エラー、回避 87

[ラ行]

ルーター、再始動 94

ルーター、破損後の再始動 94

ルーターおよび Receiver、停止 5

レポートの印刷

文書ボリューム・レポート 49

ロー文書

表示 60

ログアウト 5

ログイン 2

A

AS1/AS2 ビューアー 60

検索条件 57

説明 56

パッケージの詳細 58

メッセージの検索 56

メッセージの詳細の表示 57

C

Community Console

アイコン 3

移動 3

停止 5

ログアウト 5

ログイン 2

Community Console 内の移動 3

Community Console のアイコン 3

R

RosettaNet ビューアー

検索条件 59

説明 58

プロセスの検索 58

プロセスの詳細の表示 59

文書処理、詳細 60

W

Web サーバー結果コード 50

WebSphere Business Integration Connect

始動 1

マシン・シャットダウン後の始動 94

WebSphere Business Integration Connect の始動 1

X

XML

形式の値の編集 11

形式の管理 11

形式の削除 12



Printed in Japan